

田 村 遺 跡

— VI —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第200集

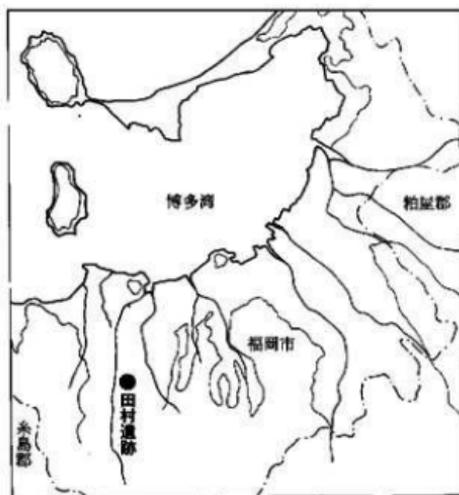
1989

福岡市教育委員会

TA MURA
田 村 遺 跡

— VI —

—福岡市早良区田所在遺跡群の調査—



遺跡略号 TMR
遺跡調査番号 8408

1989年3月

福岡市教育委員会

序

福岡市の西部、早良平野には豊かな自然と歴史的遺産が残されており、それらを保護し後世へ伝えていくことは、いうまでもなく私たちの務めであります。

しかし、諸般の事情でそれらが年々失われてきていることも周知の事実です。

福岡市教育委員会では開発によってやむを得ず失われていく遺跡については事前に発掘調査を行ない、記録の保存に努めています。

本書は、早良区田村小学校建設に際して昭和59年から60年にかけて行なわれた発掘調査のうち、縄文・弥生時代の遺構についてその成果を報告するものです。

本書が市民の皆さまに文化財に対するご理解を深めていく上で、広く活用されるとともに学術研究の分野において貢献できれば幸いです。発掘調査から資料整理にいたるまでの地元関係者をはじめ、多くの方々のご協力に対し心から謝意を表すものです。

平成元年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 佐藤 善郎

例 言

1. 本書は福岡市建築局による田村小学校建設に伴い、福岡市教育委員会が昭和59年度から60年度（1984～1985）にかけて調査を実施した田村遺跡の第5次調査の報告である。このうち古代末から中世にかけての遺構・遺物の報告は、すでに「田村遺跡V」（福岡市埋蔵文化財調査報告書第192集、1988）として刊行されている。本書ではそれ以前の縄文・弥生時代の遺構・遺物を主に扱った。
1. 本書に掲載した遺物は、各時代ごとに1からの通し番号とした。ただし石器は登録番号をそのまま用いた。掲載遺物については巻末に一覧表としてまとめ、石器以外のものも登録番号を付けた。
1. 本書に掲載した遺構の実測は二宮忠司、濱石哲也、佐藤一郎、赤司善彦、岡部裕俊があたった。遺物の実測は二宮、濱石、佐藤、林田憲三、久保寿一郎、大庭友子が行った。
1. 遺構・遺物の製図は二宮、濱石、佐藤、林田、久保、大庭、藤村佳公恵があたった。
1. 写真撮影は遺構を二宮、濱石、遺物を濱石、林田が行った。空中写真は空中写真豊富による。現像・焼付けは濱石、黒岩美紀子があたった。
1. 本書の執筆は下記のとおり分担した。

V-1-1)	V-3	……………	佐藤
V-1-2)	SD1000出土土器・土製品	……………	林田
V-1-3)	……………	……………	二宮
V-2-3)	……………	……………	大庭
その他の章・項目	……………	……………	濱石
1. 本書に関する記録類、出土遺物のすべては埋蔵文化財センターに収蔵・保管している。
1. 本書の編集は二宮、濱石、佐藤が行った。

本文目次

	本文頁
I はじめに	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 田村遺跡群のこれまでの調査	3
IV 第10地点の調査概要	4
V 遺構と遺物	6
1 縄文時代の遺構と遺物	6
1) 検出遺構	6
2) 出土土器・土製品	8
3) 出土石器	21
2 弥生時代の遺構と遺物	32
1) 妻棺墓	32
2) 出土土器	44
3) 出土石器	45
3 古代末・中世の出土遺物	47

図版目次

図版 1	1) 田村遺跡第10地点全景 (南上空から)	
	2) SD1000 (南より)	
図版 2	a区縄文遺構	1) 北から
	2) 北西から	
図版 3	1) 妻棺墓地全景 (南西から)	
	2) SX101	3) SX102
図版 4	1) SX103	2) SX104
	3) SX105	4) SX106

図版 5	1) SX107	2) SX108
	3) SX109	4) SX110
図版 6	1) SX111	2) SX115
	3) SX116	4) SX118
図版 7	出土縄文土器 1	
図版 8	出土縄文土器 2	
図版 9	出土縄文土器 3	
図版 10	出土縄文土器 4	
図版 11	出土縄文石器 1	
図版 12	出土縄文石器 2	
図版 13	出土縄文石器 3	
図版 14	出土縄文石器 4	
図版 15	出土縄文石器 5	
図版 16	出土甕棺 1	
図版 17	出土甕棺 2	
図版 18	出土弥生石器	
図版 19	出土古代・中世遺物 1	
図版 20	出土古代・中世遺物 2	

挿 図 目 次

	本文頁
第 1 図 周辺の遺跡	2
第 2 図 田村遺跡群全体図	3
第 3 図 第10地点調査区	5
第 4 図 SD1000土層断面図	6
第 5 図 a 区縄文遺構	7
第 6 図 SD1000出土土器 1	9
第 7 図 SD1000出土土器 2	10
第 8 図 SD1000出土土器 3	11
第 9 図 SD1000出土土器 4	12
第 10 図 SD1000出土土器 5・土製品	14

第 11 図	a 区縄文遺構出土土器 1	16
第 12 図	a 区縄文遺構出土土器 2	17
第 13 図	a 区縄文遺構出土土器 3・c 区 SD01出土土器	18
第 14 図	出土縄文土器 1	19
第 15 図	出土縄文土器 2	20
第 16 図	出土縄文石器 1	25
第 17 図	出土縄文石器 2	26
第 18 図	出土縄文石器 3	27
第 19 図	出土縄文石器 4	28
第 20 図	出土縄文石器 5	29
第 21 図	出土縄文石器 6	30
第 22 図	出土縄文石器 7	31
第 23 図	墓棺基配置図	32
第 24 図	SX101・102・103・104・105・106	35
第 25 図	SX107・108・109・110・111・112	36
第 26 図	SX113・114・115・116・117・118	37
第 27 図	出土墓棺 1	38
第 28 図	出土墓棺 2	39
第 29 図	出土墓棺 3	40
第 30 図	出土墓棺 4	42
第 31 図	出土弥生土器	44
第 32 図	出土弥生石器	46
第 33 図	出土古代・中世遺物 1	48
第 34 図	出土古代・中世遺物 2	50

付 図

田村遺跡第10地点遺構配置図

表 目 次

	本文頁
第 1 表	田村遺跡群発掘調査一覽…………… 4
第 2 表	検出壙棺墓一覽…………… 32
第 3 表	掲載縄文土器一覽 1…………… 51
第 4 表	掲載縄文土器一覽 2…………… 52
第 5 表	掲載縄文土器一覽 3…………… 53
第 6 表	掲載縄文土器一覽 4…………… 54
第 7 表	掲載弥生土器一覽…………… 55
第 8 表	掲載古代・中世遺物一覽…………… 56
第 9 表	第10地点出土石器一覽 1…………… 57
第 10 表	第10地点出土石器一覽 2…………… 58
第 11 表	第10地点出土石器一覽 3…………… 59
第 12 表	第10地点出土石器一覽 4…………… 60
第 13 表	第10地点出土石器一覽 5…………… 61
第 14 表	第10地点出土石器一覽 6…………… 62

I はじめに

福岡市早良区大字田一帯に広がる田村遺跡群は、1978年の福岡市教育委員会による遺跡分布調査で初めて周知されることとなった。同年、遺跡東側にあたる字高柳で学校建設に伴う発掘調査が行なわれたのを端緒として、1981年からは市営田村団地建設に伴う発掘調査が開始され、また市道拡幅、店舗建設に伴う調査も行なわれてきた(III章参照)。

1984年、遺跡群内の字久米に小学校建設が決まり、福岡市建築局・教育委員会施設課から教育委員会文化課に、当該地の遺跡の有無の確認がなされた。対象地は第2次調査地点(第2地点)と南側で接しており、その後行なった試掘調査でもほぼ全域で遺構・遺物の検出をみた。このため3者で協議をもち、建設予定地全域(16,000㎡)の発掘調査を行うことにした。調査は同年7月1日から開始し、一時中断したものの翌1985年6月中にすべてを終了した。

この調査で、縄文～室町時代に至る多くの遺構と多量の遺物を検出した。うち平安～室町時代の遺構・遺物については「田村遺跡V」(市報第192集)として1988年に報告した。しかし弥生・縄文時代については整理の関係から今回の報告となった。

調査から整理に至る関係者は以下のとおりである。

調査委託 福岡市教育委員会施設課

調査主体 福岡市教育委員会文化課埋蔵文化財第1係(現埋蔵文化財課第1係)

生田征生(前課長) 柳田純孝(前係長・課長) 折尾学(係長) 岡嶋洋一(前庶務)

岸田隆(庶務) 二宮忠司・濱石哲也・佐藤一郎(調査・整理)

調査・整理補助 赤司善彦・岡部裕俊・林田憲三・久保寿一郎・大庭友子・村上かをり・

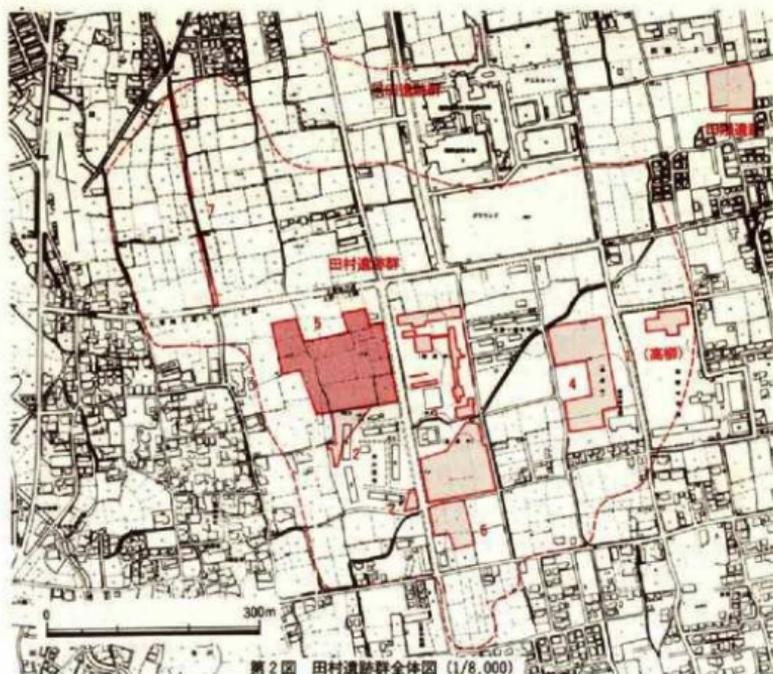
藤村佳公恵

調査にあたっては榊光雄氏をはじめとする多くの作業員の方々の協力を得た。

II 遺跡の位置と環境

玄界灘をへだて朝鮮半島さらには大陸と面する福岡市には、西から糸島(今宿)・早良・福岡・粕屋の大小平野が、北の博多湾をかこむようにして広がる。これらの平野は山塊・丘陵によって分断され、各々が独自の自然・歴史的環境を備えている。このうち西南部に位置する早良平野は、山塊・丘陵を隔て西の糸島平野、東の福岡平野にはさまれ、南は佐賀県との境をなす背振山脈にはばまれている。この背振山脈に源を発する室見川が平野中央を北流し、博多湾へとそそいでいる。平野には第三紀丘陵、洪積台地が点在し、また北辺には砂丘が形成されている。しかしその多くが、室見川を中心とした河川による沖積地となっている。

田村遺跡群はこの早良平野の中央南側に位置し、標高15～17mの北側に低い沖積地に立地す



る。行政的には福岡市早良区(改区前は西区)大字田で、国土地理院発行の5万分の1地図「福岡」の北から28.7cm、西から15.5cmを中心とした一帯に拡がる。開発がおよぶ以前は、一部集落が点在する他はすべて水田であった。

周辺にはすぐ南の四箇遺跡群、室見川を隔てた吉武遺跡群があり、また平野内には先土器時代から江戸時代に至る膨大な遺跡が分布している(第1図)。これらの遺跡についてそのものの報告、あるいは報告書中の早良平野の歴史的環境の項ですでに何度となく述べられており、今回の報告では頁数の制約もあり割愛する。

Ⅲ 田村遺跡群のこれまでの調査

田村遺跡群では、第1表に示したようにこれまで7次にわたる発掘調査が行われてきた。これらの成果については順次報告してきており、未報告のものも来年度の刊行が予定されている。以下、これまでの調査で判明したことを簡約しておく。

調査次数	遺跡調査番号	調査地点	調査原因	調査面積	調査期間	報告
1	7803	高柳	学校建設	3,000㎡	1978.10.11~12.2	第70集 1981
2	8034	第1地点	団地建設	2,650㎡	1980.12.5~1981.4.14	第89集 1982
	8035	第2地点				第104集 1984
3	8144	第3地点	団地建設	12,820㎡	1981.4.22~1982.5.15	第167集 1987
	8145	第4地点				
	8146	第5地点				
4	8233	第8地点	団地建設	8,500㎡	1983.1.20~6.15	未報告
5	8404	第10地点	学校建設	17,000㎡	1984.7.1~1985.7.6	第192集 1988 本報告
6	8429	第11地点	店舗建設	800㎡	1984.8.1~9.10	未報告
7	8447	第12地点	道路建設	1,800㎡	1984.12.1~12.29	第168集 1987

第1表 田村遺跡群発掘調査一覧

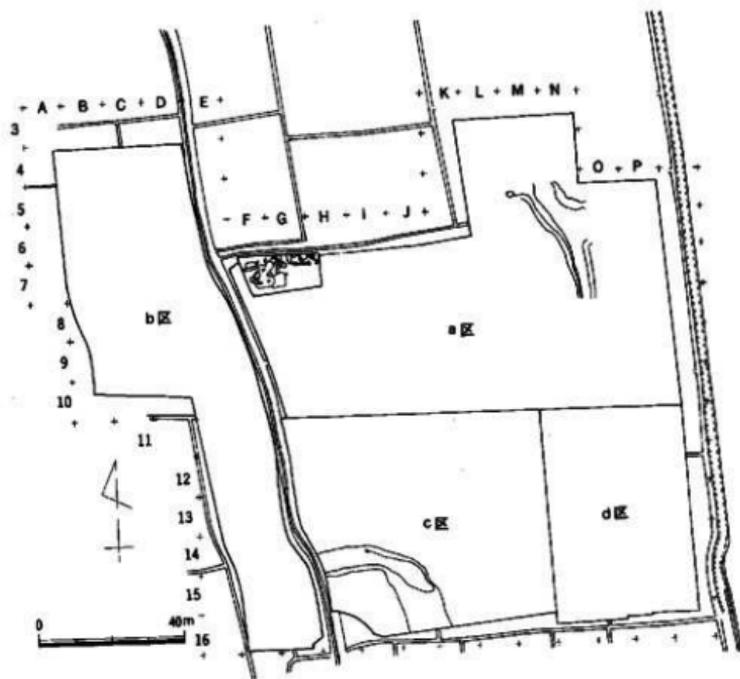
田村遺跡群は縄文時代早期から江戸時代に至る複合遺跡であり、縄文時代後・晩期、弥生時代、平安～鎌倉時代の3つの時期にピークをもつ。縄文時代後・晩期は埋壙、溝などの遺構がみられ、遺物はほぼ全域にわたって出土する。土器とともに石器の出土が多いのが特徴的であるが、遺跡そのものの性格は明確でない。弥生時代に入ると今回報告する前期壙棺墓があり、また同時期の竪穴なども検出されている。中期後半には遺跡を南西から東北に流路を変えながら走る古河川の利用がなされる。井堰、杭列などが河川内に構築されるが、水田そのものの検出には至っていない。この古河川は奈良時代頃までには埋没する。平安～鎌倉時代には棚立柱建物を中心とした集落が形成される。11～12世紀代ものは古河川の埋没した周囲の北を除いた地点に広がるが、それ以後のものは西側だけに限定されている。まだ厳密な検討を加えていないが、200棟を越える建物と各種の輸入陶磁器の多量出土を考えあわせると、この遺跡が古代末から中世にかけて早良平野での一大拠点であったことが知られる。

以下にこれまでの報告の一覧をあげておく。第1表とあわせて参照されたい。

- ①力武卓治・横山邦雄「高柳遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第70集 1981
- ②濱石哲也(編)「田村遺跡Ⅰ」福岡市埋蔵文化財調査報告書第89集 1982
- ③濱石哲也(編)「田村遺跡Ⅱ」福岡市埋蔵文化財調査報告書第104集 1984
- ④濱石哲也(編)「田村遺跡Ⅲ」福岡市埋蔵文化財調査報告書第167集 1987
- ⑤佐藤一郎(編)「田村遺跡Ⅳ」福岡市埋蔵文化財調査報告書第168集 1987
- ⑥佐藤一郎(編)「田村遺跡Ⅴ」福岡市埋蔵文化財調査報告書第188集 1988

Ⅳ 第10地点の調査概要

第10地点は第2次調査の第2地点の北側に接し、また第3次調査の第4・5地点の道路を隔てた西側にあたる。調査面積16,000㎡。調査区全体を磁北の方向をとる10mのメッシュで区画



第3図 第10地点調査区

し、また調査の進行にあわせてa～d区の大区を設定した(第3図)。調査は1984年7月、a区から開始し、弥生時代前期の甕棺墓、11世紀から13世紀にかけての掘立柱建物、溝、土壇、旧河川などを検出した。西に向うにつれ遺構は密になり、縄文時代晩期の溝、それ以前の土壇なども確認した。9月にはb区の調査も始まり、多数の掘立柱建物とともに多量の遺物を包含した大溝を検出した。c区の調査は翌年3月から行ない、掘立柱建物群や縄文時代晩期の溝などを検出した。このa～c区にかけての調査は同年4月までに終了し、6月からd区にかかった。旧河川の調査が主体で、梅雨期の中難儀であったが、1月余りですべて終了した。

検出した遺構は縄文時代晩期の溝・土壇、弥生時代前期甕棺墓などの他は、11世紀から13世紀にかけての掘立柱建物100棟以上、井戸11基、土壇140基前後、溝20条前後、それに多数のピットなどがある。出土遺物も大量で、特に古代末から中世の遺物ははなはだしい。縄文・弥生時代を除き、すでに「田村遺跡Ⅴ」としてこれらの遺構・遺物についての報告がなされている。今回は縄文・弥生時代についての報告を中心に、以下の章を記す。

V 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

1) 検出遺構

a区遺構検出時、その埋土中、および周辺から縄文時代の遺物がみられ、古代末～中世の遺構面より約15cm掘り下げ、調査区を拡張して約730m²の範囲で遺構の検出にあたった。ピット状遺構、浅い土坑、溝状遺構を検出した。

SC01

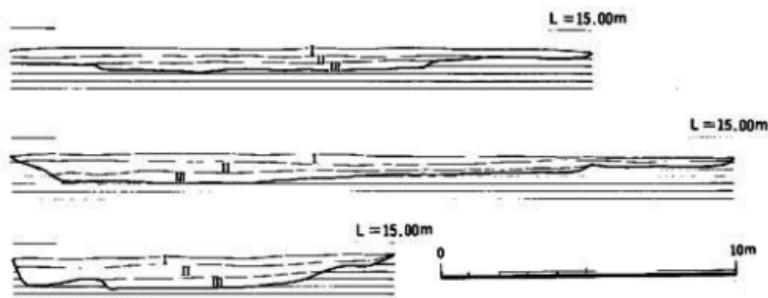
平面形は径4.5～5mの不整形を呈し、残存する深さは3～8cmの浅い土坑である。遺物は東側中央と、北西隅の深さ6～10cmの浅い落ち込みから出土した。土坑内に径40～80cm、深さ6～10cmのピット状の遺構がみられた。

SC02

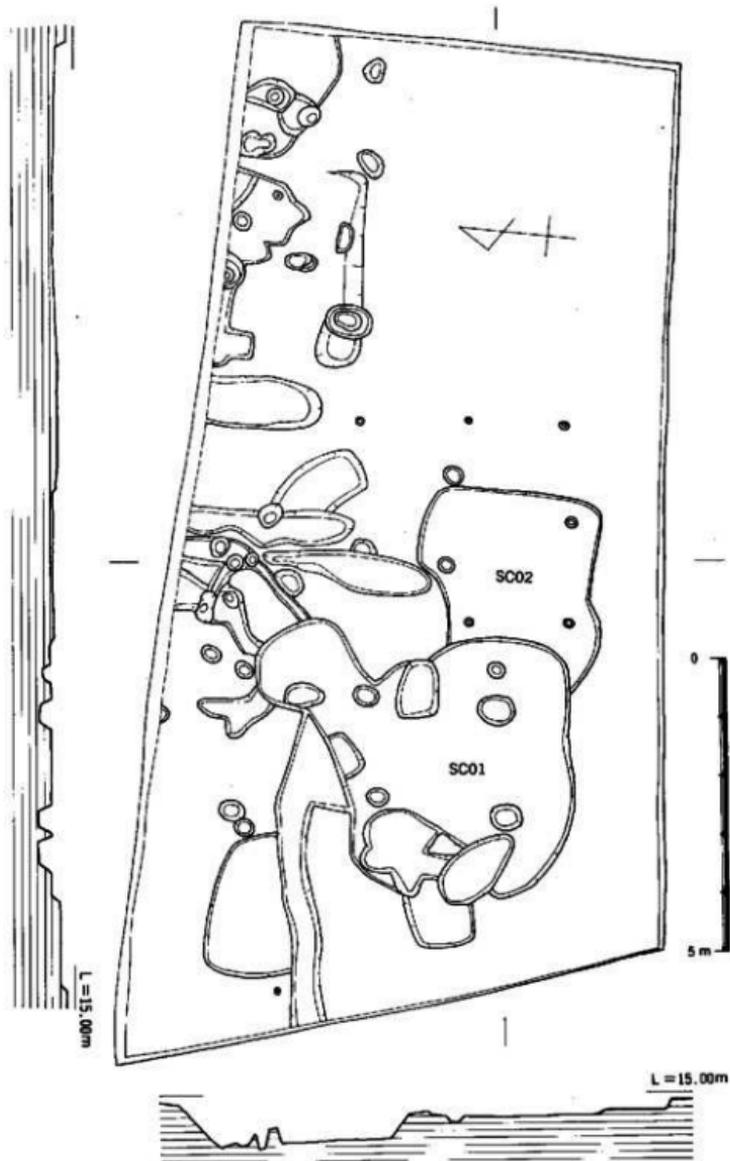
西側をSC01に切られ、平面形は南北3.7mの不整形を呈し、残存する深さ3～4cmの浅い土坑である。遺物は東北隅を除いて、ほぼ全体で出土した。土坑内に径20～30cm、深さ5～9cmのSC01のものより一回り小さいピット状遺構がみられた。

SD1000

a区SD01旧河川西側の古代末から中世にかけての遺構面と同一面上で検出した。南東から北西へ延びる溝状の落ち込みである。層位は上からI層—暗褐色粘質土、II層—褐色粘質土、III層—暗褐色粘質土の順でほぼ水平に堆積していた。



第4図 SD1000土層断面図 (縮尺1/20)



第5図 ■ 区縄文遺構 (縮尺 1/100)

SD01 (c区)

c区南西部で、古代末から中世にかけての遺構面と同一面上で検出した。南東から北西へ彎曲して延びる溝状の浅い落ち込みである。埋土は黒褐色土で、その北側で同じ埋土の土坑SK04を検出した。

中世の遺構埋土中にも縄文時代の遺物が散見された。縄文時代の遺構の遺存状況と併せて考えてみると、中世、中でも12世紀代を中心とした沖積地における居住地・耕地の大規模な開発によって、縄文時代の遺構が大きなダメージを受けたとみられる。

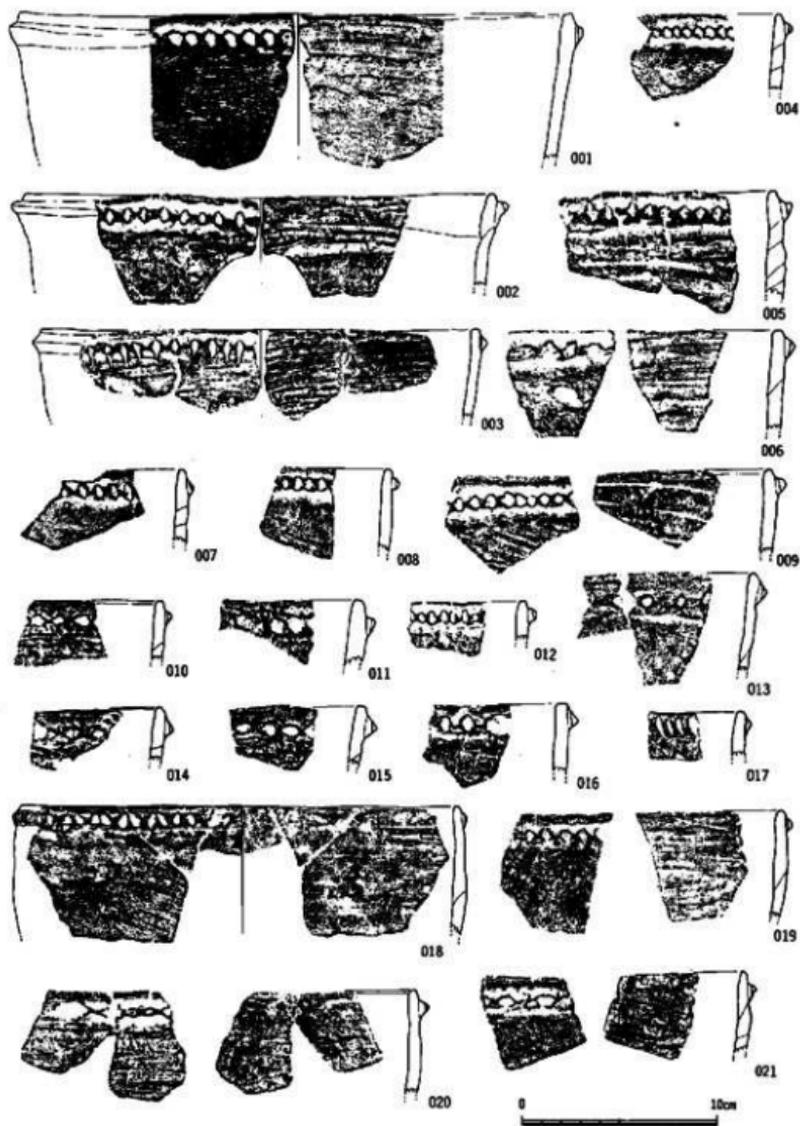
2) 出土土器・土製品

ここでは、縄文時代の遺構から出土した土器・土製品について遺構ごとにまず観察し、その後遺構外のものについて見てゆく。出土した縄文土器は細片、小片のものが多く、復元した径、傾きについては問題を残している。

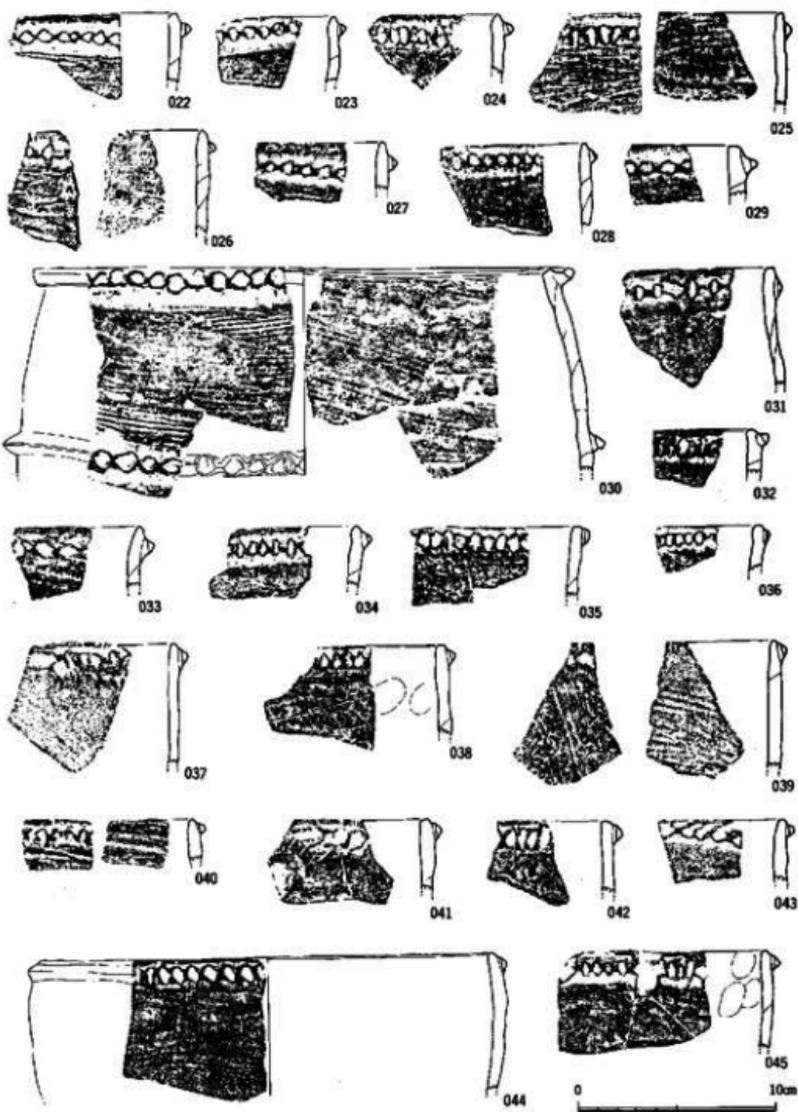
SD1000出土土器・土製品(第6～10図)

多量の縄文土器が出土したが、その多くは細片あるいは胴部片であるために図化することができない。

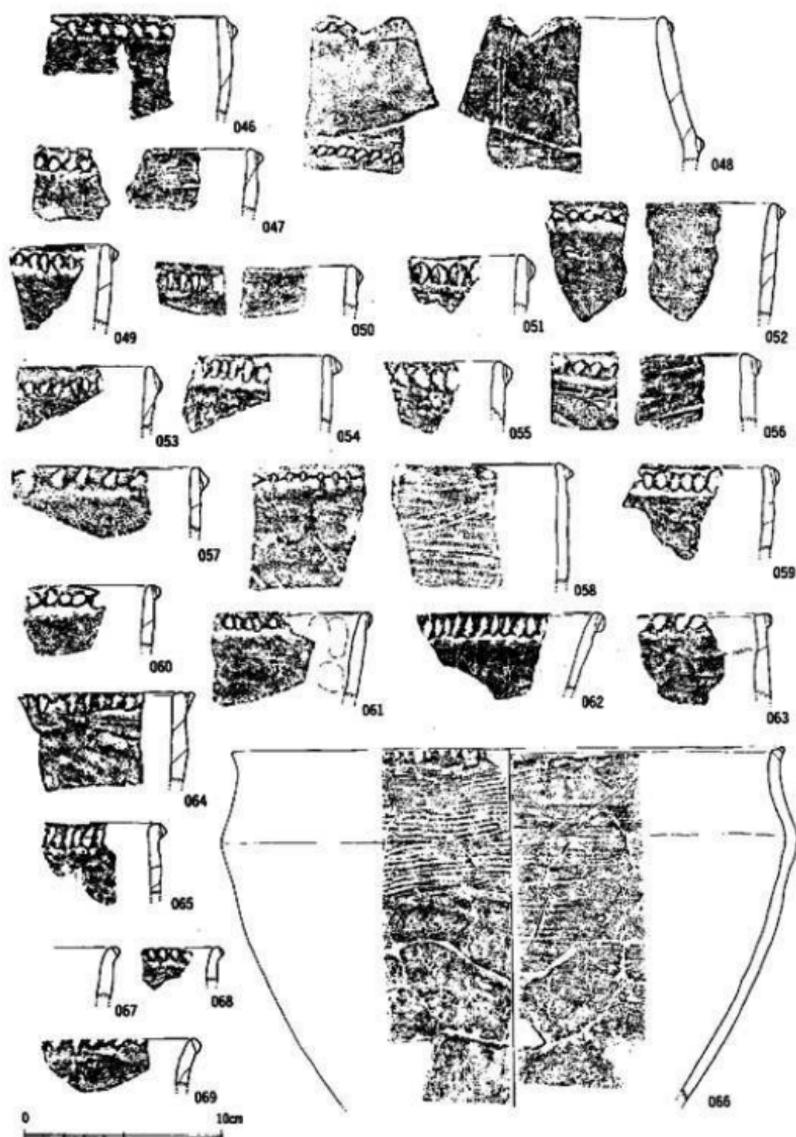
001—073は甕形土器である。001—017は胴部から口縁部にかけて外へ開く器形をなし、口縁部よりかなり下った位置に刻目突帯を貼り付けるものである。器面調整は外面が貝殻条痕、内面には貝殻条痕あるいは横ナデを施すものが多数あるが、001では両面に横方向(右→左)の削り痕がみられ、突帯の刻目は指先を使用したものである。006の外面には板状工具によるナデ、009の内面にはヘラ状工具による横方向の沈線文が残る。刻目は棒状工具を使用しての施文と、002・003にみられる刻目のようにヘラ状工具によるものがある。018—024では刻目突帯の位置には変化はないが、胴部あたりに若干の外への膨らみが認められるものである。018の突帯の刻目は棒状工具でハの字状に施す。019の内面の削りは右→左方向で、刻目には粗いヘラ状工具を使用する。020は細いヘラ状工具による刻目である。024の刻目はやや細いヘラ状工具を用いる。025—029の刻目突帯はこれまでと同様に位置的に全く変化はないが、口縁から全く傾きがなく、ほぼ垂直に胴部近くに至る器形をなすものである。030・031は胴部から口縁部にかけて内傾するもので、030の傾きは口縁部と口縁部突帯がほぼ平行となる。さらに胴部に刻目突帯をもち、刻目には指先を使用したの施文である。032は口縁部が内側に折れるもので、刻目はヘラ状工具によるものである。033は口縁部が外反する。034—057は刻目突帯が口縁部より若干下がり気味の位置にある。034の刻目はヘラ状工具を使用しての施文である。037—043は口縁部からほぼ垂直に胴部近くを下る器形のもので、037・038と040の刻目はヘラ状工具によるもの。041はヘラ状工具の施文が突帯直下あたりまで延びる。038の内面の削りは右→左方向。039の外表面は斜方向の条痕である。044—047は胴部がわずかに外へ膨らむ器形をなす。045の刻目は



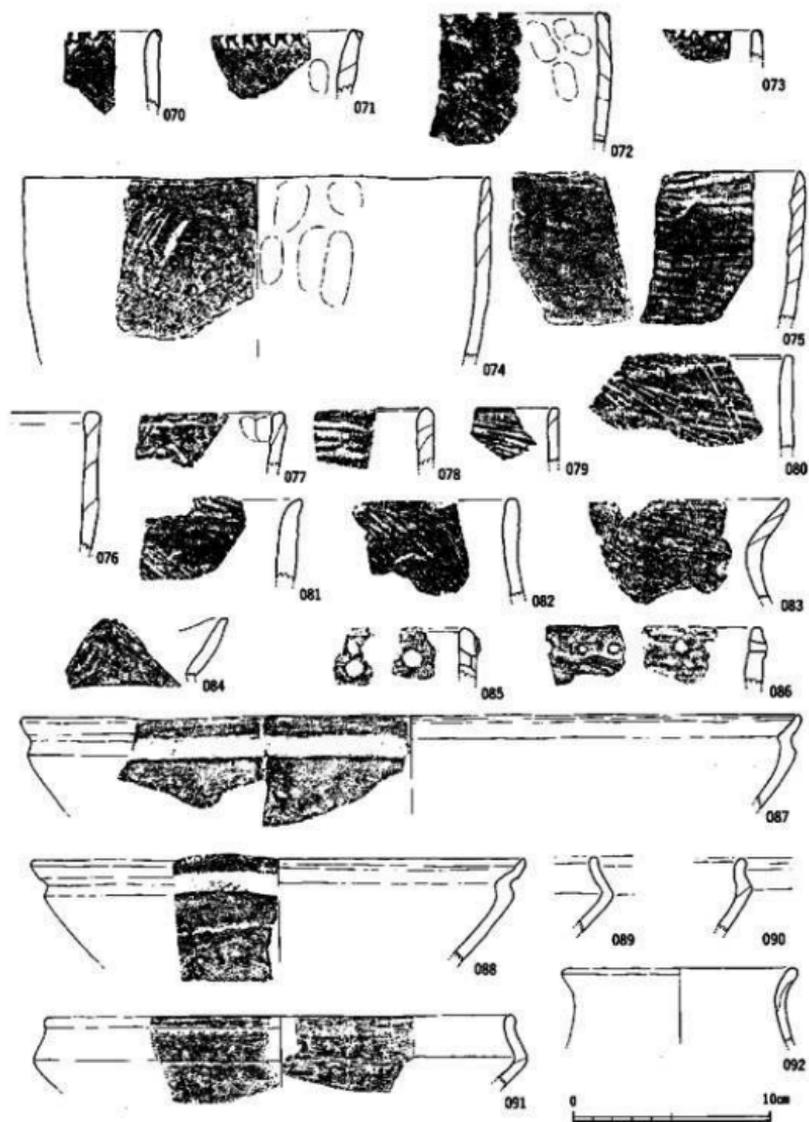
第6圖 SD1000出土土器1 (縮尺1/3)



第7图 SD1000出土器2 (縮尺 1/3)



第8图 SD1000出土土器3 (縮尺1/3)



第9图 SD1000出土土器4 (縮尺 1/3)

へら状工具によるもの、他は棒状工具を使用する。048は口縁部と胴部の屈曲部に刻目突帯をもち、屈曲部より内傾しながら外湾ぎみに立ち上がる。口縁部内面には板状工具によるナデの痕跡が残る。049—059は口縁端部に接するように下向に刻目突帯が貼り付けてあるもので、049—053では胴部から口縁部へとわずかに外反する。050と053の内面の削りは右→左方向である。054—058は口縁部から垂直に胴部へと下る器形をなすもので、058はへら状工具を使用して突帯直下あたりまで刻目を施す。059は胴部がやや外へ膨れるものである。060—066は口縁端部と平行に接し刻目突帯が貼り付けてあるもので、060—062では口縁部が外へ開き、063では口縁部が若干内傾する。064・065はほぼ垂直に口縁部から下る。066は屈曲部に刻目をもち、外湾しながら立ち上がる。内面のへら削りは右→左方向。へら状工具の使用は062と064にも認められる。067—073は口縁端部に直接刻目を施すものである。067—070では口縁部が外反する。073の刻目はへら状工具を使用しての施文である。

074—084は粗製深鉢形土器の口縁部片である。074—077は内湾ぎみの口縁部をもつもので、074の外面には斜方向のへらによるナデの痕跡がみられる。078—080は口縁部からほぼ垂直に下る。081は口縁部が小さく外反する。082は外反ぎみの口縁部から小さく張る胴部をもつもので、083は大きく外反した口縁部としまった頸部から張り出しの大きい胴部をもつものである。084は波状口縁をもつ深鉢である。

085は口縁端部よりかなり下った位置に断面が台形状を呈する刻目突帯をもち、この突帯直下には補修孔が両側面から錐状工具により焼成後に穿たれている。086は孔列土器である。孔は口縁端部よりもわずかに下った辺りに内面から焼成前に穿たれる。これら土器の胎土には少量の砂粒が混り、焼成は良好である。

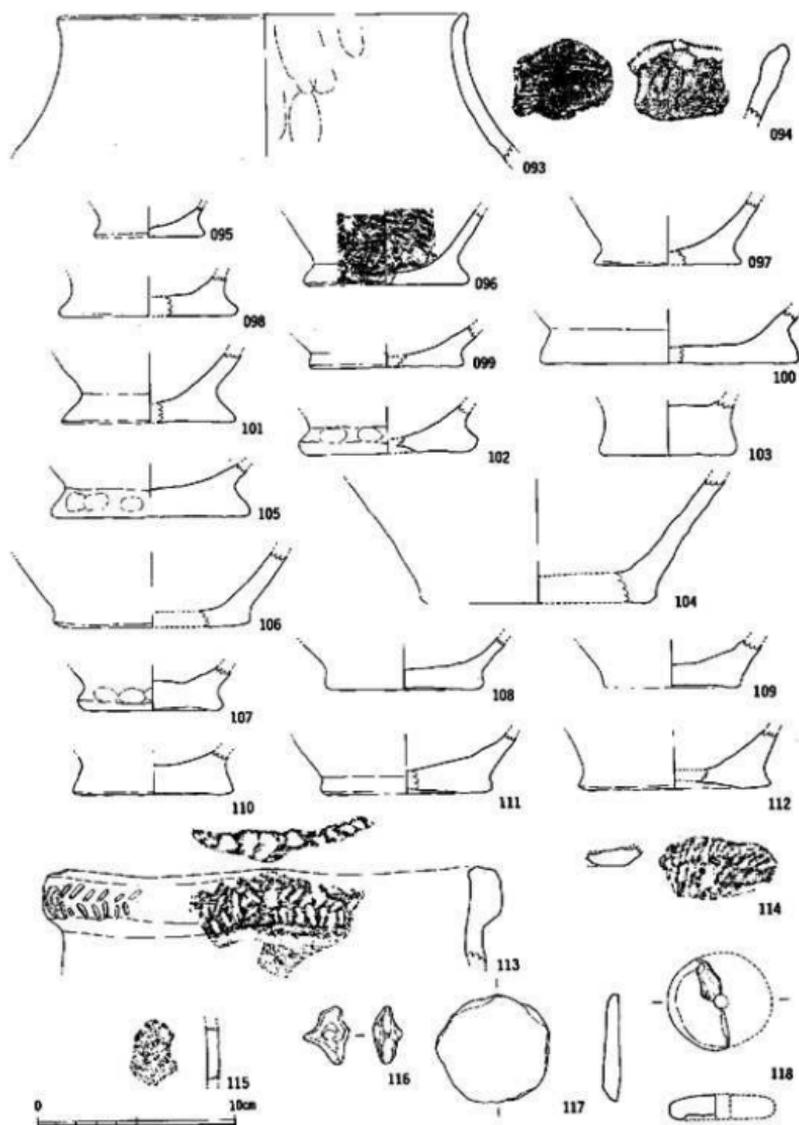
087—091は精製浅鉢形土器である。087・088は屈曲部からの低い立ち上がりをなす口縁部は大きく外反し、端部は引き上げられ、端部直下の内面には明瞭な稜がみられる。089—091は屈曲部から内傾しながらゆるやかに立ち上がり、口縁端部で小さく外反する。

092・093は壺形土器である。092のように口縁部が大きく外反するものとそうでない093がある。

094は粗製浅鉢形土器である。波状口縁を呈する口縁部は外へ大きく開き、端部直下の内側には一条の溝をもうける。

095—112は甕、壺形土器の底部である。095—104は甕の底部と思われるもので平底状を呈する底をもつ。105は壺の底部と思われるものである。106は底の端が若干丸みを帯びる。107—112は上げ底状を呈するもので、甕の底部と思われる。

113は北久根式の深鉢形土器の口縁部片である。突帯を貼り付け、粗いへら状工具により綾杉状に刻目を施文する。波状口縁を呈する口唇部には指先を使用した刻目がある。胎土には砂粒が多く混る。



第10圖 SD1000出土土器5、土製品 (縮尺 1/3)

114は深鉢形土器の底部片と思われる。外面には縄文を施文する。胎土には砂粒が比較的少なく混る。

115は胴部細片で、胎土には滑石が多量に混る。いわゆる阿高式系の土器であろう。

116—118は土製品である。116は異形土製品で、星形状を呈するが、その用途は不明である。117は円盤形土製品で、土器の胴部破片からの転用したものである。円形状に整形が施されている。胎土には砂粒が多く混る。118は紡錘車である。1/2程が欠損する。胎土には比較的多くの砂粒が混る。復元径5.2cm、堆定厚1.25cmである。

a 区縄文遺構出土土器（第11—13図）

ここではa区西北部で検出した縄文遺構（第5図）およびその周辺で採集した土器について観察する。出土遺構などについては巻末の一覧表によられたい。

119・120は短く外反する口縁部直下に押し引き文を巡らす。119の外面には燃糸状のものが認められ、その上に線がきする。ともに暗褐色で、焼成良好。

121—128は縄文を残存部のほぼ全面に施す土器である。121—125はキャリバー状の口縁部をもつ。121は縄文上に線がきする。123の口縁端部は肥厚し、その外側には外面からの縄文が繞き、内側には刻目がある。124は口縁端部が波うち、表面には刻目を入れた突帯がはう。126は口縁部が内傾し、端部にも縄文を施す。外面口縁部下は横ナデし、またその下に焼成前の穿孔がある。器面には凹凸がある。127・128は口縁部が直立気味で、外面には突帯を巡らす。127の外面は突帯下に指一本分の横ナデがある他は突帯上まで縄文を施す。128は内面にまで縄文がおよぶ。突帯上の刻目は貝殻腹縁による。これらの土器は焼成良好、126の外面が黄褐色であることを除けば黒褐色～暗褐色の色調でよく似る。彦崎ZⅡ式（黒木Ⅰ式）系統の土器であろうか。

129は擦り消されたような縄文上に突帯を貼付け飾る。口縁部はキャリバー状で、端部は肥厚する。焼成はややあまく、暗黄褐色～黒褐色を呈する。

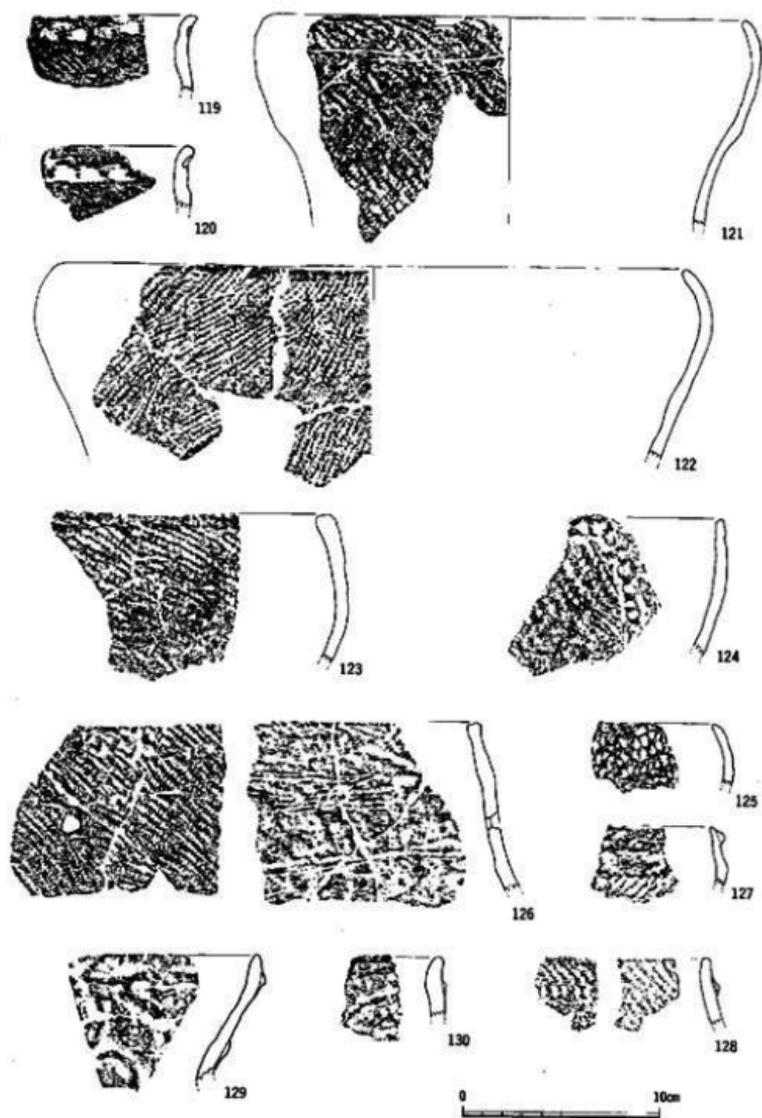
130は不明瞭な縄文上に細い突帯を貼付ける。直立気味の口縁部下がやや肥厚する。焼成は良好で、淡褐色。

131・132は凹線と列点状刺突文を施す口縁部片。131は口縁端部とその下に列点文を巡らせ、その間を縦横の凹線で区画する。133は接合しないがその特徴からみて131の胴部片と考えられる。擦り消し風の縄文上に凹線を入れ、内面は条痕を施す。131・133が焼成良好で、暗茶褐色を呈するのに対し、132は焼成あまく、黄褐色をなす。

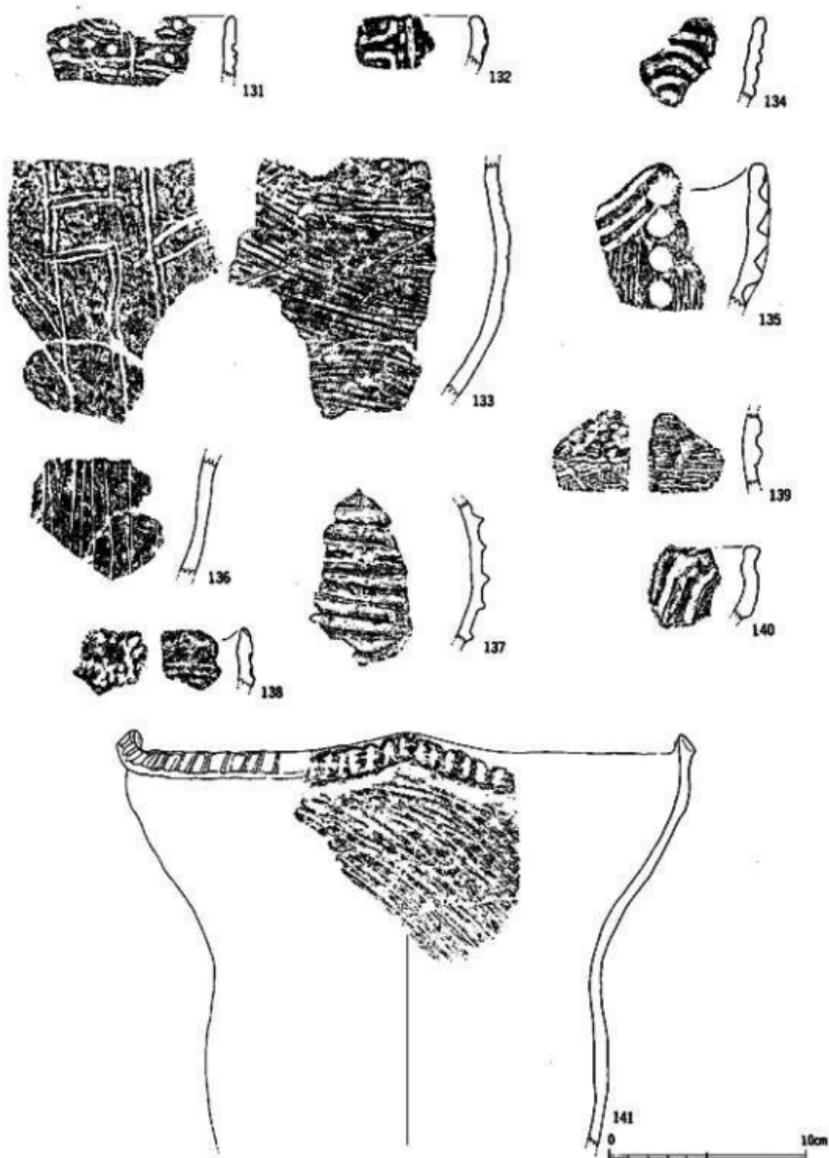
134は渦文状の凹線を施すもの。焼成良好で、赤褐色。

135は口縁端部に沿うように3条の凹線を入れ、頂部から下方向に円形凹文を連続して施した波状口縁部片である。施文間は条痕。器壁厚い。外面は褐色から暗褐色、内面は赤味をおびた褐色。

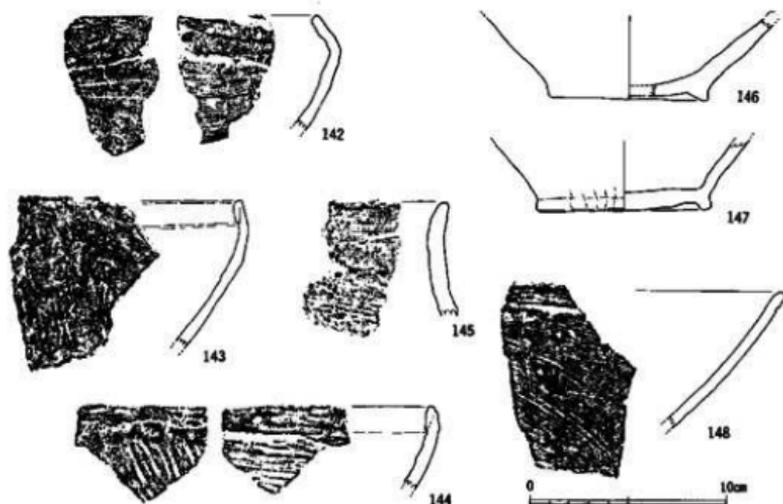
136は縦方向の線がきを多数施した胴部屈曲部片である。焼成は良好で、淡赤褐色を呈する。



第11图 ○区縄文遺構出土土器 1 (縮尺 1/3)



第12图 ■ 区划文遺物出土土器 2 (縮尺 1/3)



第13図 a区縄文遺構出土土器3、c区SD01出土土器（縮尺1/3）

137は外面に多数の断面三角形の突帯を貼付ける。突帯上には指頭によるつまみの凹凸がある。焼成良好、黄褐色を呈する。溝式系か。

138は口縁部を外側に折り返したように肥厚させ、この上下端に刺突文を入れる。またこれから下に延びる突帯を設け、この上にも刺突文を施している。焼成良好で、淡赤褐色を呈する。

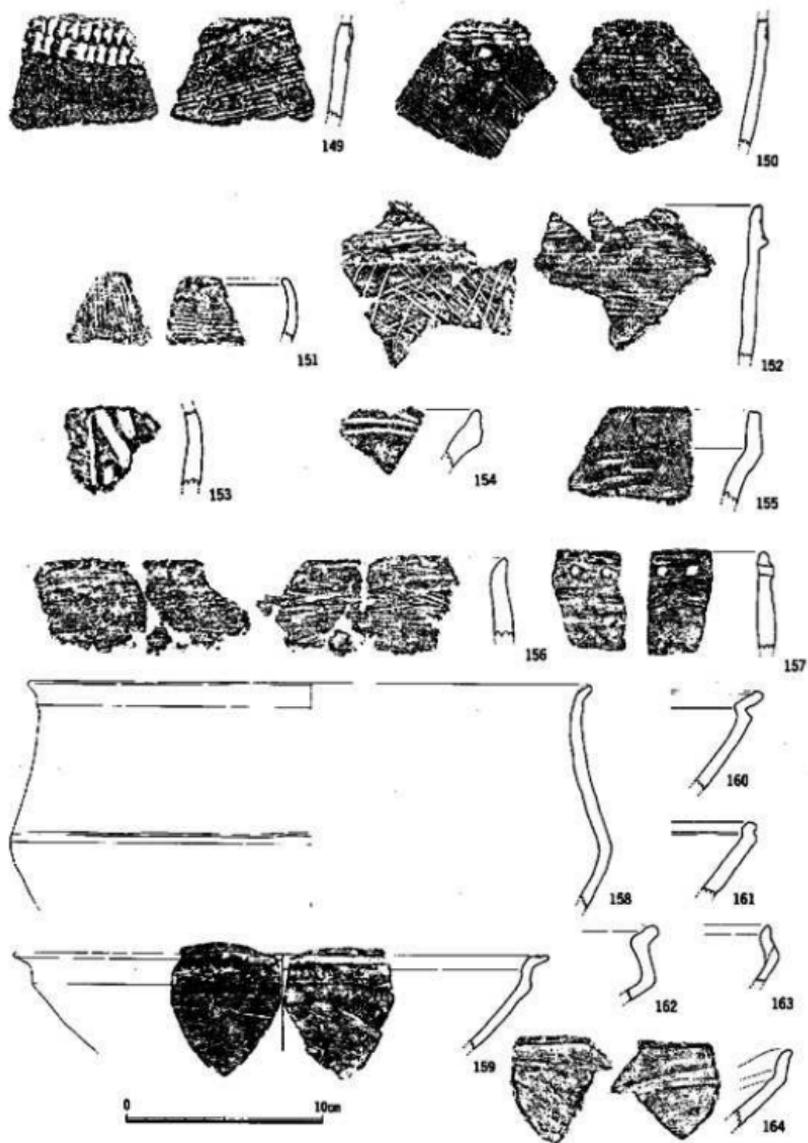
139は線がきの地文上に雑な凸帯を貼付け、その上に刺突状の刻目を入れる。胎土・焼成・色調などはさきに述べた縄文を全面に施す土器群に似る。

140は縦方向に突帯を貼付けたもの。胎土には砂粒が多く、焼成良好、暗褐色を呈する。

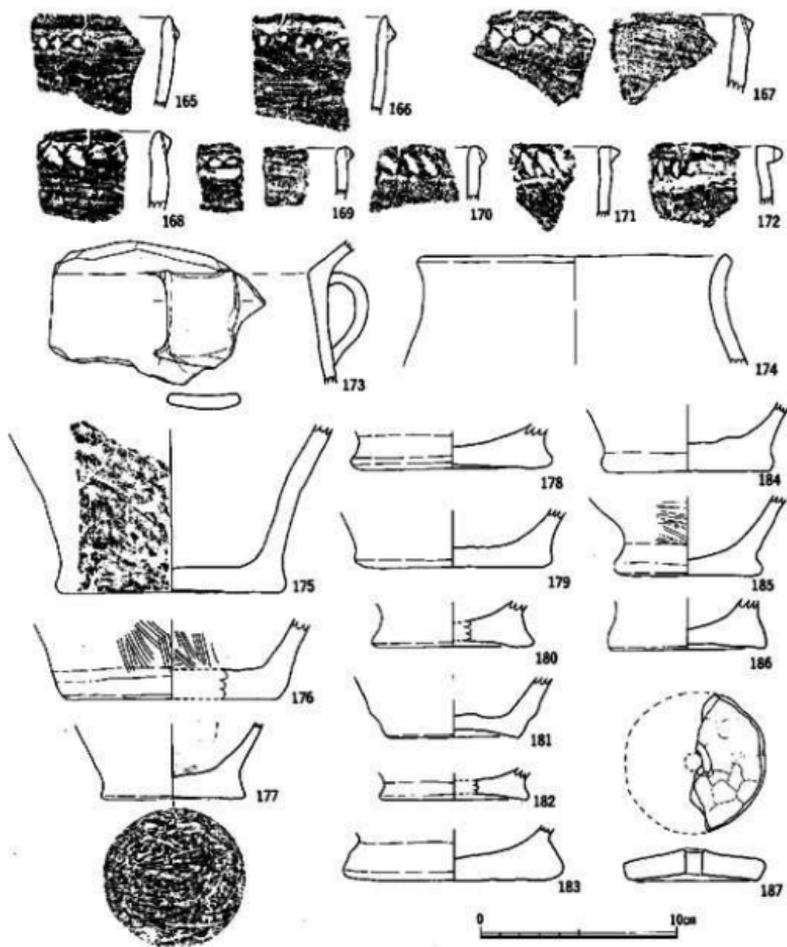
141-144は器面調整が条痕で、キャリパー状の口縁部形態をなすものである。141は波うつ口縁端部を肥厚させ、その上に押し引き風の刻目を入れる。内外面の条痕は荒い。口縁部と胴部は直接接合せず、図上復元である。胎土には砂粒が多く混じり、焼成良好、暗黄褐色を呈する。142は形態的には125に近い。焼成良好、暗褐色。143・144は口縁端部内側を折り返して肥厚させる。ともに焼成良好、143は暗褐色、144は黒褐色を呈する。

145も器面調整が条痕で、口縁端部はわずかに外反し、丸くおさめる。胎土には砂粒を多く混え、焼成良好。外面暗茶褐色、内面淡茶褐色。

146・147は底部端を高台風にした底部片。146の外面には条痕が認められる。胎土には砂粒を多く混え、焼成はややあまい。赤褐色を主としてなす。147は焼成あまく、内面黒色、外面黄褐



第14圖 出土縄文土器 1 (縮尺 1/3)



第15図 出土縄文土器2、土製品 (縮尺1/3)

色～暗褐色を呈する。

c区SD01出土土器 (第13図148)

出土遺物は少なく、図示できたのは148の精製浅鉢1点にとどまる。口縁部は直線的に開き、外面口縁下には段がつく。内面ヘラ研磨、外面には条痕が残る。晩期。

その他の縄文土器・土製品 (第14・15図)

ここでは古代から中世の遺構、表土などから出土した上記遺物についてみてゆく。出土遺構などについては巻末の一覧表によりたい。

149・150は押し引き文のある胴部片。150の押し引きは貝殻腹縁によるものである。ともに内外面とも軽い条痕がみられる。胎土には砂粒を混え、焼成はややあまい。

151は外面に燃糸状の施文を行う。口縁部はキャリバー状になるものか。口縁端部は肥厚する。内面は条痕。焼成あまく、黄褐色を呈する。

152は直立気味の口縁部下に突帯を巡らせ、その間に二列の刺突文を施す。また口縁端部にも刻み目を入れる。胴部は格子状の線がき。内面は条痕。胎土には砂粒を混え、焼成良好、黒褐色を呈する。

153は外面を凹線で飾るもので、胎土には滑石を混え、赤褐色を呈する。阿高式系か。

154は肥厚した波状口縁に凹線を二条入れる深鉢。三万田式系。

155は口縁部が屈曲して立ち上がる深鉢。屈曲下には条痕が認められる。胎土には砂粒が多い。

156は内外面とも条痕で仕上げる深鉢。口縁端部は尖り気味になる。胎土は粗く、暗褐色。

157—174は晩期の土器。157は口縁部下に孔列をもつ深鉢。穿孔は内側から焼成前に行われる。外面調整は条痕。158は屈曲する胴部と、短く外反する口縁部をもつ深鉢。屈曲部の上には一条の凹線を巡らす。赤褐色。159—164は浅鉢。口縁端部の形態には時期差によるバラエティーがある。164は波状口縁。いずれもヘラ研磨で仕上げ、黒色に近い色調を呈するが、159は内外面とも黄灰色、164の内面は赤褐色。165—172は刻目突帯文の甕。突帯の形態、貼付け位置には相違がある。調整は条痕によるものが多い。167は内外面とも黒色。173は深鉢に板状の把手を取り付けたもの。器面はナデで仕上げる。胎土には砂粒を多く混える。174は壺。口縁部は短く外反し、丸くおさめる。表面磨滅するが、ナデ仕上げか。胎土には砂粒が多く、赤褐色。

175—186は底部片。平底、上げ底などがある。多くが晩期の所産であろう。

187は土製紡錘車。復元径約7cm。断面やや上方に反る。指ナデ仕上げ。

3) 出土石器

今回の調査で出土した石器は縄文時代後期の遺構を中心に数多く出土した。又弥生時代の石器として周知されている玄武岩製の磨製石斧・磨製石鎌を始めとして、多くの石器が出土している。今回までの田村遺跡群の発掘調査で縄文時代の遺物・遺構がいずれも検出されており、本遺跡も縄文時代の遺構が検出されることは調査前から予測できた。これは縄文時代後期の特殊泥炭層から自然遺物・栽培植物・人工遺物を数多く出土した四箇遺跡を載せる台地のつづきで、直線距離にして約1kmも離れていないことや、四箇遺跡の東500mの圃場整備事業でも後・

晩期の住居跡が検出されたことから明らかであった。田村遺跡Ⅰ～Ⅳの報告書の中にも数多くの縄文時代の遺構・遺物が掲載されている。第2次調査の埋壘、第3調査の溝状を呈するSX31があるが、今回報告するSD1000やSC01、02等明確な遺構が検出でき、縄文時代後期の遺構がほぼ全域に確認できた。今回掲載した遺物はSD1000等の遺構出土を中心とし、包含層の遺物は最小限にとどめた。又遺構の遺物も数多く掲載することに努めたが、点数の多いことと紙上に限りがあることから割愛せざるをえなく、縮尺を縮めることでより多くの遺物を図示した。紙上の関係から個別の説明は一覧表とした。遺物は器種ごとに図示しているため出土遺構については一覧表に示した。

遺物は器種ごとに大別しながら説明していくが、使用痕のある剥片、折(切)断剥片については点数が多く触れることができない。遺構ごとの石器の数は、SD1000が総数796点の内、石核61点、石鏃13点、Tool、102点である。SD1001が総数21点、SD1002が総数49点、SD1003が総数4点、縄文拡張区からSC01が4点、SD02から2点、Pitから71点で合計947点が縄文時代の遺構から出土した。

石核 (第16図)

石核と認定できたものは153点で、この内22点を図示した。これらの石核をタイプ別に区別すると5種に大別できる。C1タイプ…打面は調整打面で打撃方向が一方向を示す。30057、30180がこのタイプである。C2タイプ…打面が自然面で打撃方向が一方向を示す。30052、30053、30060、30062、30173、30216のほか5点ある。C3タイプ…調整打面で上下二方向の剥取面を持つ。これは類鈴桶技法と呼んだもので〔注〕、図示した石核は小型が多く、技法的に類似しているもの30056、30288がある。しかし剥片には明らかに類鈴桶技法で剥取した剥片30210、30258もある。C4タイプ…打面が自然面で上下二方向の剥取面を持つもの30055、30061、30198がある。C5タイプ…打面が3～5面あり、一見不規則に見えるが連続的に剝離する技法として旧石器時代からあるもので、剥片に自然面が多く残る。又縦長剥片ではなく横長剥片に多いのが特長である。この石核が一番多くて30054、30058、30059、30137、30155、30168、30169、30172、30174の9点図示したが、実際にも41点で最も多い。

〔注〕「田村遺跡Ⅱ」の中で山口眞治氏が考したもので、類鈴桶型石核、剥片剝離技法が非常に類似するもので類鈴桶型石核、類鈴桶型刃器技法と称すべきものとしている。

石鏃 (第17図)

石鏃は出土した31点すべて図示し、5種に大別出来る。A1タイプ…縄文時代後期の代表的な石器である剥片鏃である。これも形態によって細別出来る。脚部が僅かに挿入部をもつもの30039、30043、30044、30051、30165、30191がある。三角形を呈するいわゆる三角鏃と称するもの。30046、30161、30209、30253がある。脚部の挿入が著しいもの。30050、30192、30211、30291、30249がある。A2タイプ…両面に細かな押圧剝離を加え三角形に整える形態を呈する

もの。30042、30045、30049、30271、30290がある。A 3 タイプ…両面に細かな押圧剝離を加え、脚部に僅かな抉入をもつもの30190がある。A 4 タイプ…二等辺三角形を呈し抉入は深い30047、30292がある。A 5 タイプ…断面が厚く、そのほとんどがサスカイトで作られているもので、剥片鏃、三角鏃の種類30138、30205、30277、30278がある。A 6 タイプ…サイド・ブレイドか鏃か明らかではないが、先端部が丸みをもつもの30120がある。

スクレーパー (第17、18図)

エンド、サイド、コンケーブ・スクレーパーに区別できる。又縄文時代にみられる石匙も出上している。エンド・スクレーパーは30066、30124、30136、30162、30202、30207、30247の7点を図示した。30162は切断面を持つが、側片部に丁寧な加工を加えていることからスクレーパーとした。30213は主要剝離面側にみられる側辺部と下端に加工を加え刃部としている。

30193、30215、30289は横型の石匙である。全面に二次加工を加え、つまみの部分には大まかな剝離のみで仕上げている。

30142、30160はコンケーブ・スクレーパーと考えられる。30142は主要剝離面にはまったく加工を施していない。30160は表・裏とも大まかな二次加工を加えるが、一見端部がドリル状を呈する。サイド・スクレーパーは30038、30068、30090、30156、30166、30189、30203、30212、30258の9点を図示した。

楔形石器 (第18図)

30073、30149、30157、30164が楔形石器である。断面が厚く両端に剝離痕が認められる。

サイド・ブレイド (第18図)

10点 (30074～30078、30123、30139、30144～30146) を図示した。折(切)断した剥片や小型の剥片を使用しており、殆どが側辺部にリタッチを施している。

つまみ形石器 (第18図)

切断して折り取っているもの30072、30125、30217と、折断したもの30281がある。30281は両側辺に切断するための二次加工を加えているが、その部分とは異なる所で折り取っている。つまみ形石器の殆どが縦長剥片の頭部を残す形をとるが、30125だけは頭部を切断している。

二次加工石器・彫器・ドリル (第18図)

30071、30122は二次加工石器である。断面三角形を呈し、側辺部に細かなリタッチを加えている。用途は不明。30070は彫器である。端部に三面の細かな剝離を加え彫刻面を造りだしている。又下端にも同様の彫刻刀面がある。30069はドリルである。先端部の断面は○である事から縄文時代の特徴を示している。

折(切)断剥片 (第19、20図)

折断と切断の2つの用語を区別して使用する。切断剥片とは両側辺に二次加工を加え、えぐり部分を造り出し、中心部分を折取るもので30089、30126、30140、30163、30167、30176、30178

の7点を図示した。折断剥片は上・下・横位方面からの一打の打撃で、折取る方法である。30035、30037、30089、30099、30101、30113、30128、30129、30159、30171、30183、30204、30206、30208、30283の15点を図示した。

石核 (第22図)

サヌカイト製の石核である。打面は自然面で連続的剝離技法を有するもので、石核技法の5タイプに属する。

打製石斧 (第22図)

5点出土した。石材に安山岩と凝灰岩を使用しているが、安山岩製は主に石核から剝取された大剝離面を殆ど残している。30133、30158は両側面に加工を加え、刃部となる端部には、細かな剝離は加えていない。両方とも刃部が磨滅を受け、形態的には短冊形を呈する。30116は楕円の形状を呈し、両側面からの加工で仕上げている。素材を活かし上端部を狭く仕上げ、刃部には磨滅痕が認められる。30117は上端部が欠損しているため全体の形状は不明であるが、恐らく磨製石斧の未製品と思われる。30286は断面が分厚く、両側辺から数多くの二次加工を加えているため、素材の面は認められない。又、刃部にも細かな加工を加えている。上記の4点とは用途が異なるものと思われる。ちなみに30116の重量が182gに対し、30286は360gと2倍である。

局部磨製石斧 (第22図)

30034、30245の2点がある。両方とも凝灰岩製で刃部及び刃部付近を研磨している。30034は縦に半割、上部欠損。30245は上部欠損。

磨製石斧 (第22図)

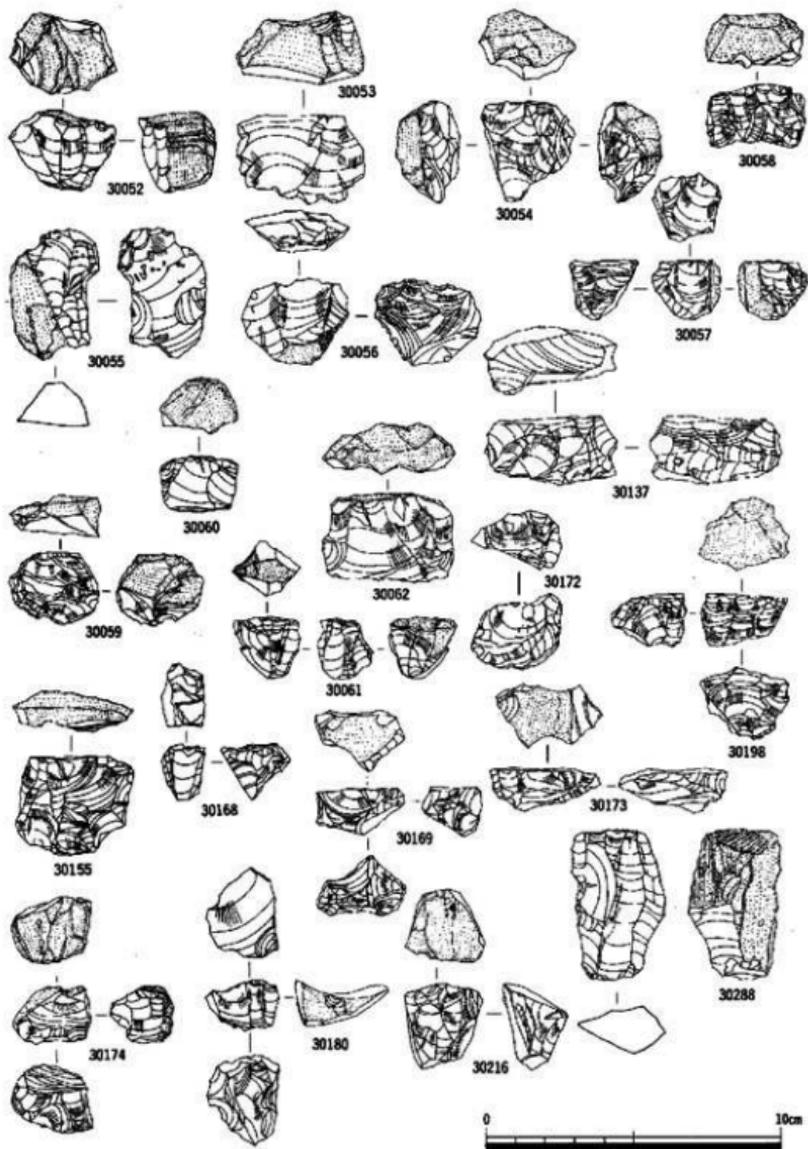
上部がわずかに欠損している30134は、断面レンズ状を呈し、全面に研磨が施されている。30246は刃部の一部だけが残存している。両側面とも丁寧に研磨されている。

磨石 (第22図)

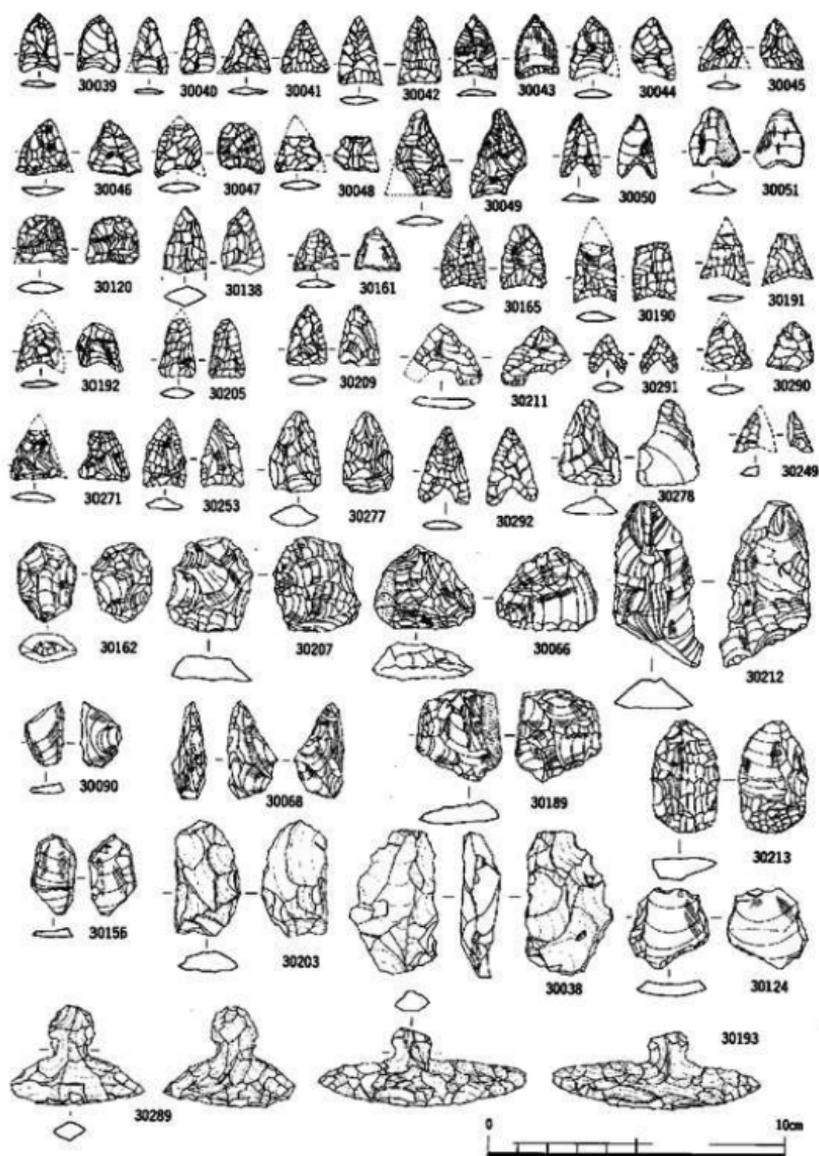
30001、30287の2点がある。30001は全面が研磨されているが、上下両端に潰れが認められ、叩き石としての使用も考えられる。30287は全面が、敲打を受けた状態であるが、端部に一部研磨された部分が認められる。又、上端には潰れた状態も認められる。

砥石 (第22図)

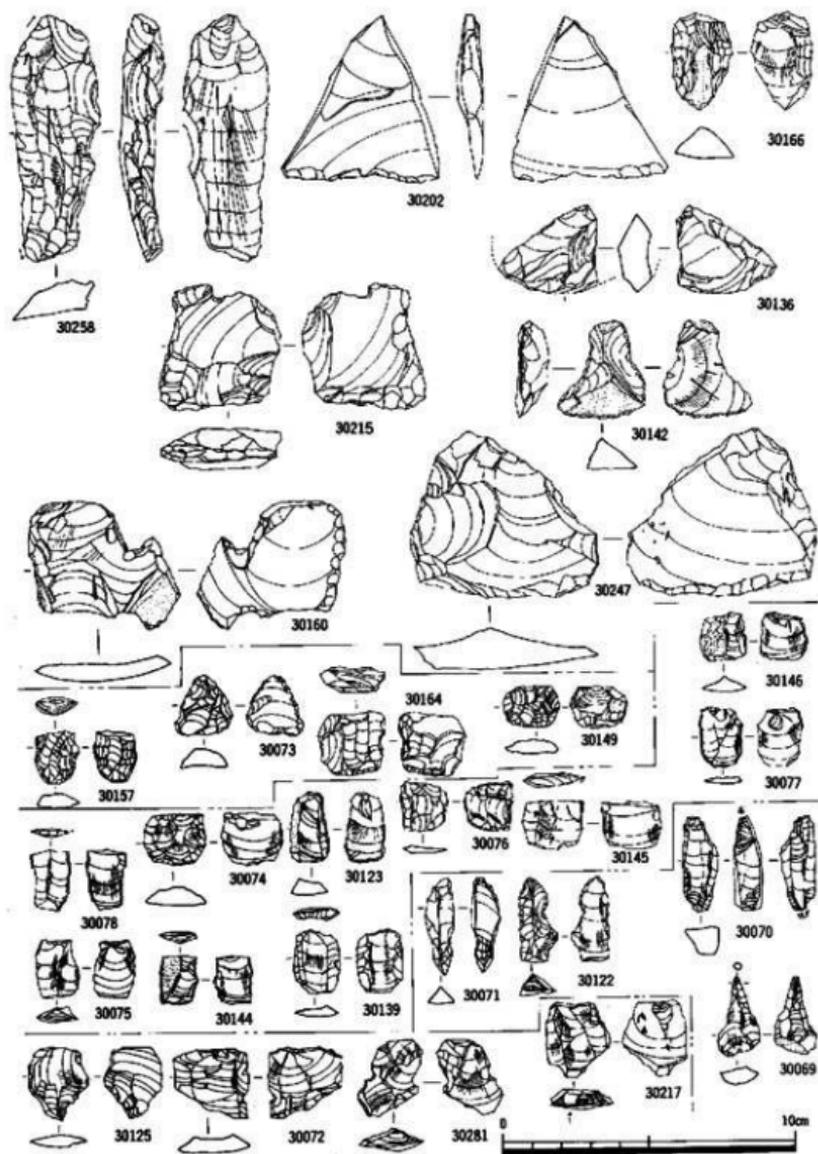
30002、30009の2点がある。30002は、ほぼ全面を砥石面としたものであろうが、かなり欠損している。しかし面的には、かなりの使用頻度が認められる。又、火を受けた痕跡が認められ、非常に脆くなっている。30009は砥石面と凹部分を有する。全面はほぼ研磨された状態であるが、凹部分だけは研磨が認められない。



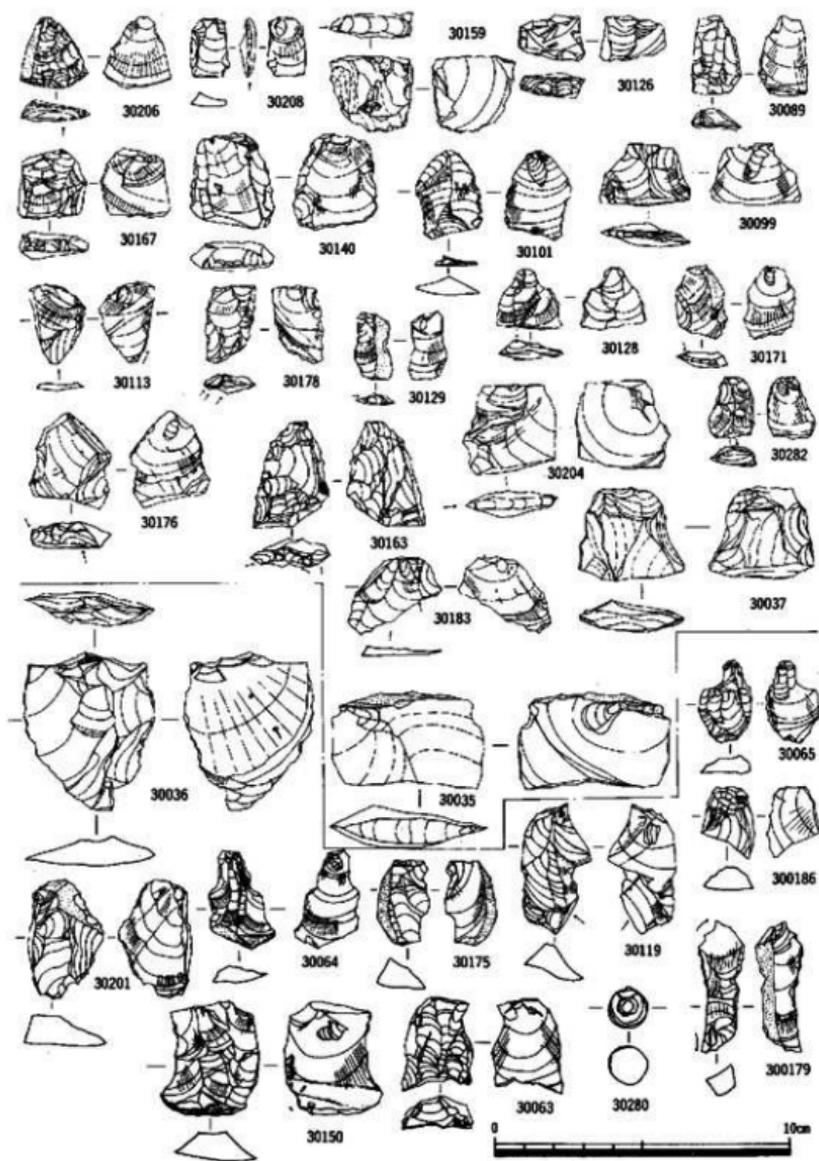
第164图 出土縄文石器1 (縮尺 1/2)



第17圖 出土繩文石器2 (縮尺 1/2)



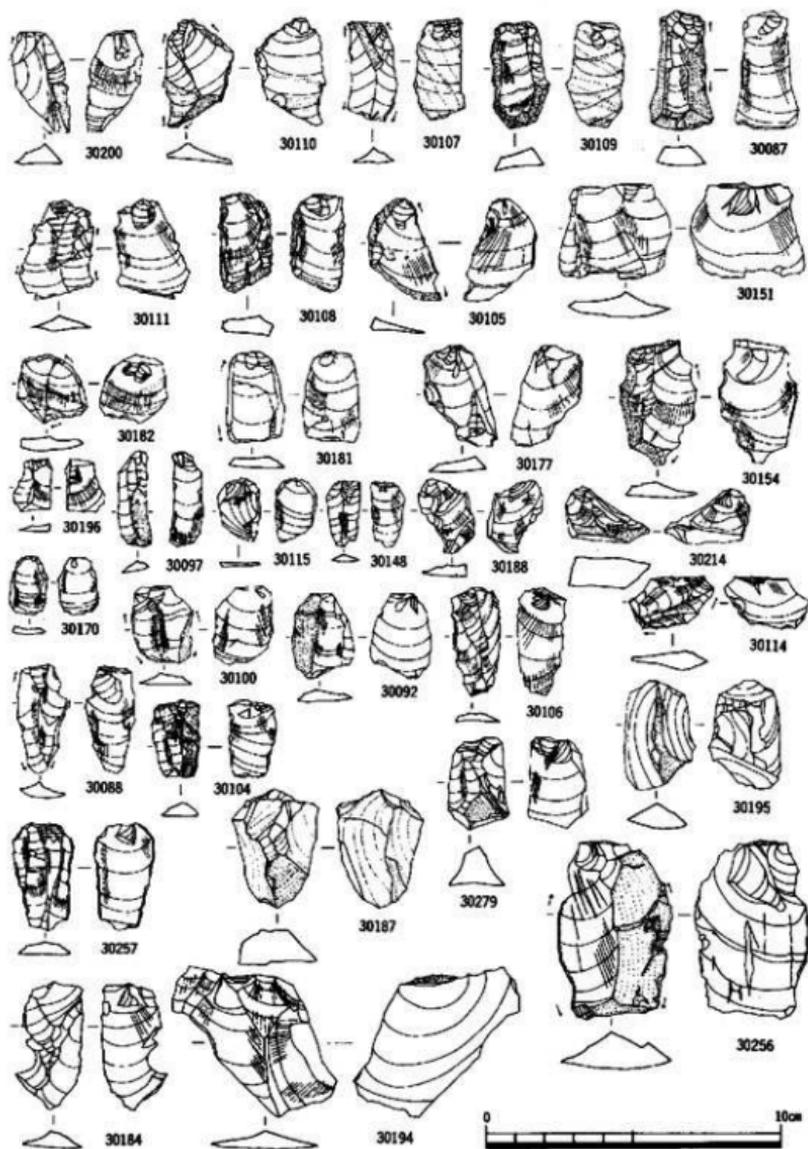
第18图 出土燧石器3 (縮尺1/2)



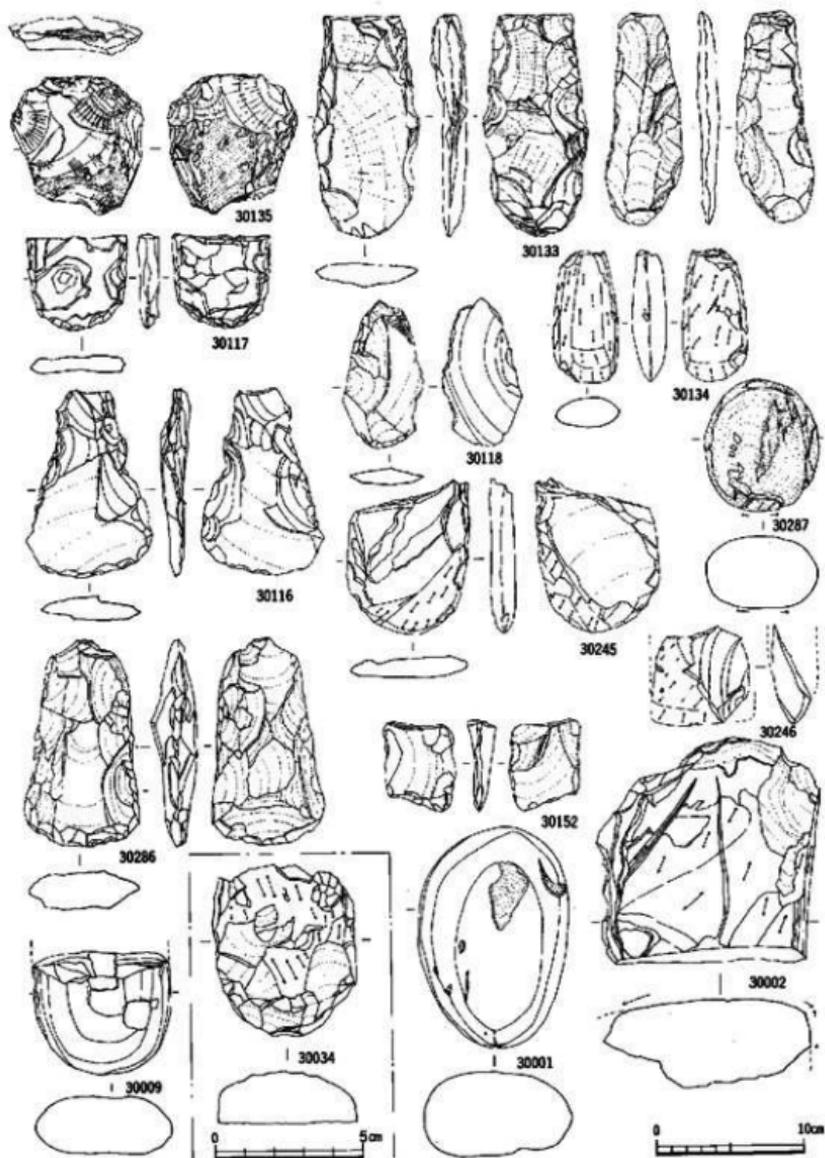
第19圖 出土繩文石器4 (縮尺1/2)



第20图 出土绳文石器5 (縮尺 1/2)



第21图 出土縄文石器 6 (縮尺 1/2)



第22图 出土縄文石器7 (縮尺1/2・1/4)

2 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で検出した弥生時代の遺構は甕棺墓18基だけである。また後世遺構からの遺物も調査面積に比べれば多いとはいえない。ただ土器・石器とも前期のものが主体となっている。

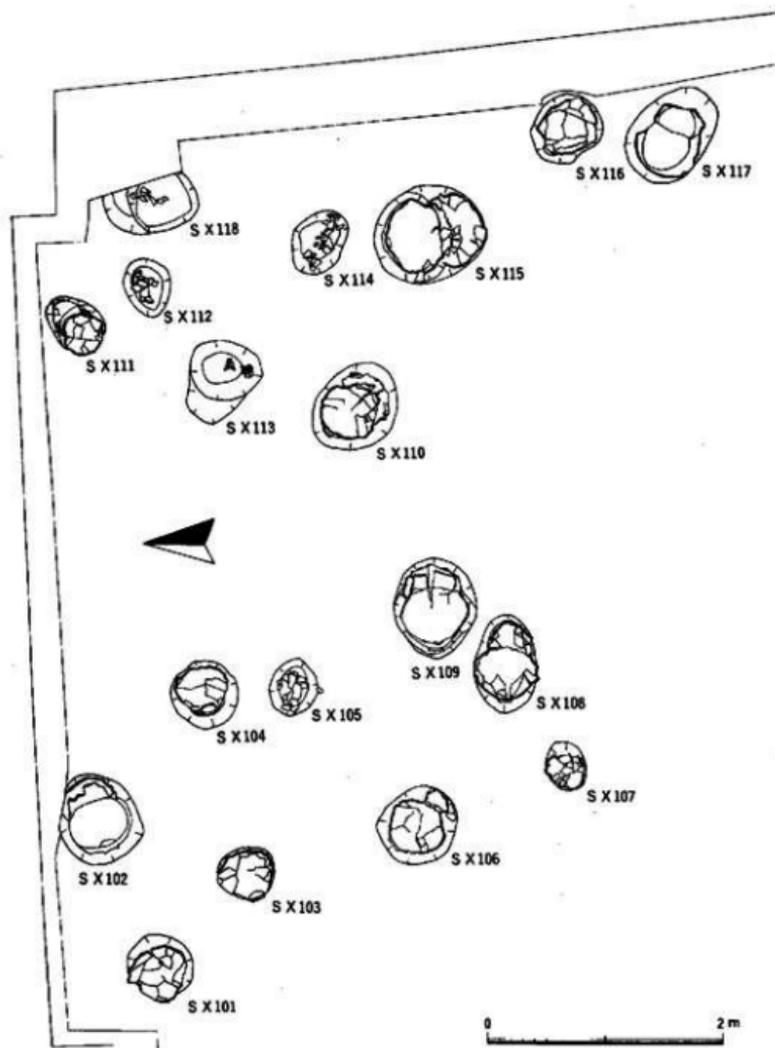
1) 甕棺墓

第10地点a区東北隅で18基の甕棺墓を検出した。これらの甕棺墓はSX101から109とSX110から118の2群に分かれ、前者は2列埋葬の形態をとる。後者はSX116・117を除けば2列埋葬ともいえるし、また全体で方形区画をなすともいえる。しかし墓地全体を検出したものでもなく、前群は西北方向に、後群は東北から南東方向に墓が続くようである。検出した甕棺墓の残存状態は良好とはいいがたく、多くは削平を受け棺の下半部が残るにすぎない。SX112・113・114にはその残片のみみられるだけである。

各墓の形態などについては第2表にまとめた。墓墳は前述したように削平が著しく、棺その

墓No.	群	墓 墳	棺				
			形 式	組合せ	挿入方位	埋置角度	穿孔
SX101	I	径35cmの円形。深さ15cm。	単棺?	壺	N-67.5°-E	37.5°	有
102	I	79×68cmの楕円形。深さ27cm。	香 口	壺+壺	N-66.5°-E	28.0°	有
103	I	50×45cmの楕円形。深さ10cm。	単棺?	壺+壺	N-71.0°-E	40.5°	有
104	I	60cmの不整形。深さ12cm。	単棺?	壺	N-75.5°-E	24.5°	有
105	I	50×45cmの楕円形。深さ10cm。	単棺?	壺	E-9.0°-S	39.0°	不明
106	I	70×65cmの楕円形。深さ20cm。二段掘り。	香 口	壺+壺	E-53.5°-S	21.0°	無
107	I	44×33cmの楕円形。深さ10cm。	単棺?	壺	N-61.0°-E	23.0°	有
108	I	85×55cmの楕円形。深さ12cm。二段掘り。	接 口	壺+壺	E-2.0°-S	46.5°	無
109	I	86×71cmの楕円形。深さ28cm。二段掘り。	香 口	壺+壺		31.0°	有
110	II	82×66cmの楕円形。深さ19cm。	香 口	壺+壺		32.0°	有
111	II	54×43cmの楕円形。深さ10cm。二段掘り。	香 口	壺+壺		水平?	有
112	II	51×39cmの楕円形。深さ10cm。	不 明	不明	(N-68.0°-E)	不明	不明
113	II	72×60cmの不整形。深さ12cm。二段掘り。	不 明	(壺)		不明	不明
114	II	58×45cmの不整形楕円形。深さ8cm。	不 明	(壺)		不明	不明
115	II	96×82cmの楕円形。深さ32cm。二段掘り。	香 口	壺+壺	E-79.0°-S	28.0°	有
116	II	63×54cmの不整形楕円形。深さ18cm。	香 口	壺+壺	E-47.0°-S	26.5°	有
117	II	84×64cmの楕円形。深さ30cm。二段掘り。	接 口?	壺+壺	E-27.5°-S	38.0°	有
118	II	長径80cmの楕円形。深さ15cm。二段掘り。	不 明	(壺)	(N-10°-E)	?	不明

第2表 検出甕棺墓一覧



第23図 瓦片配置圖 (縮尺 1/50)

ものが耕作土に突き出ているといった状態であったので、検出面での法量を示した。合口棺のものは、墓墳のその部分に小さなテラス、あるいは段を作るものが多い。棺の形式のうち単棺？としたものは、削平された現状のもので、あるいは合口棺であったかもしれない。しかし、破片を調査した限りにおいては別個体とみられるものはなかった。呑口としたものは下甕を上甕が覆うものである。SX116では中型の口頸部打欠き壺の下甕が、大型の口頸部打欠き壺の上甕にほぼ全体を覆われて埋置されていた。接口としたものは合せ部が接するものであるが、数は少ない。合せ部における粘土の目張りなどは認められなかった。挿入方位のうち（ ）でくったものは墓墳の長軸方位である。なお棺内からの人骨、遺物の出土はなかった。

以下は棺の特徴などについて各墓ごとにみてゆく。

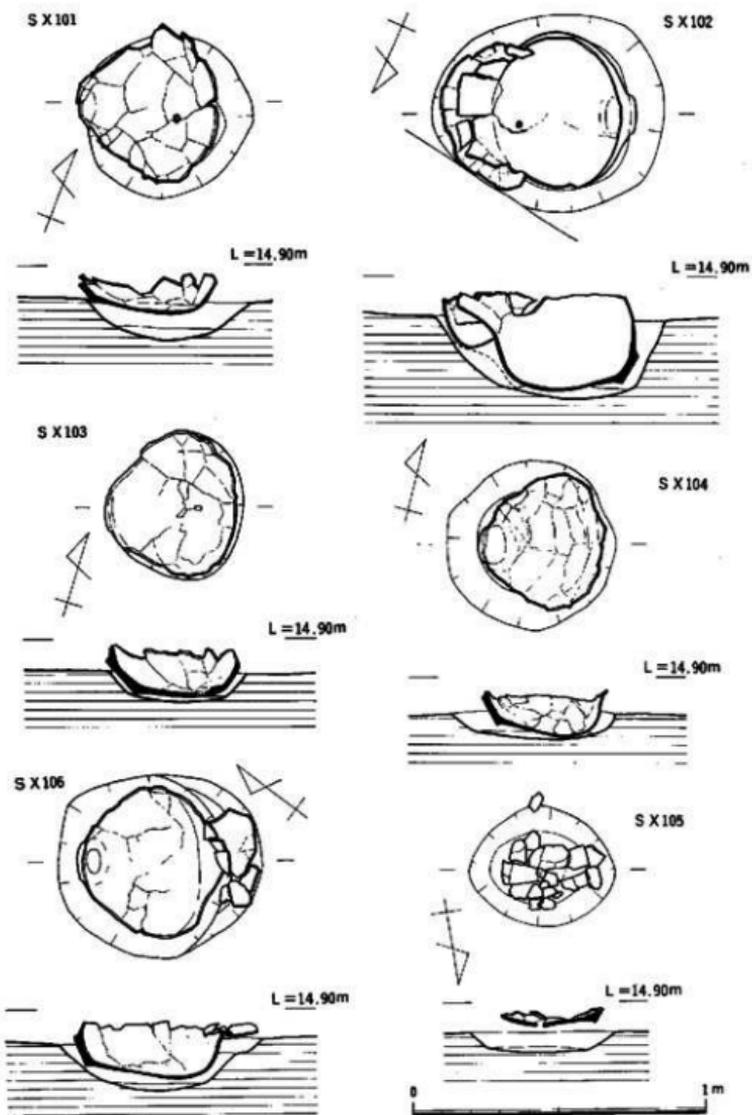
SX101棺 (第27図1) 口頸部を欠損する。胴上位の張りは大きく、径13.3cmの底部はわずかにあげ底となる。外面は丹塗りで、胴部上位から中位までが横方向、それ以下が斜方向のヘラ研磨で仕上げる。底部端には指押えが残る。内面は指ナデで仕上げるが、下半にはその後の板ナデが認められる。胎土には砂粒を混え、焼成良好。胴部上位には径15cmの黒斑がある。

SX102棺 (第27図2・3) 2は上甕の壺。口頸部を打ち欠き、底部は欠損する。頸部と胴部の間には2条の凹線が残る、その下にヘラ描きによる4本の複線山形文が施される。外面は丹塗。外面調整は胴部最大径あたりまでが横方向、それ以下は斜方向のヘラ研磨。内面は指押えナデ。胎土は微砂粒を混えた精良なもので、焼成も良好。胴部上位には黒斑がある。3は下甕の壺。口頸部を打ち欠くが、わずかに口縁下の段が残る。胴部はやや腰高で、浅い一条の凹線をはさんで頸部が長く内傾する。底部端は直立気味になる。外面は丹塗。器面調整はヘラ研磨で、頸部から胴部最大径までが横方向、それ以下は次第に斜めとなり、底部近くでは縦方向となる。内面は指ナデで仕上げる。胴部外面の穿孔部分に径20cmほどの黒斑がある。胎土には砂粒が多く、焼成良好。

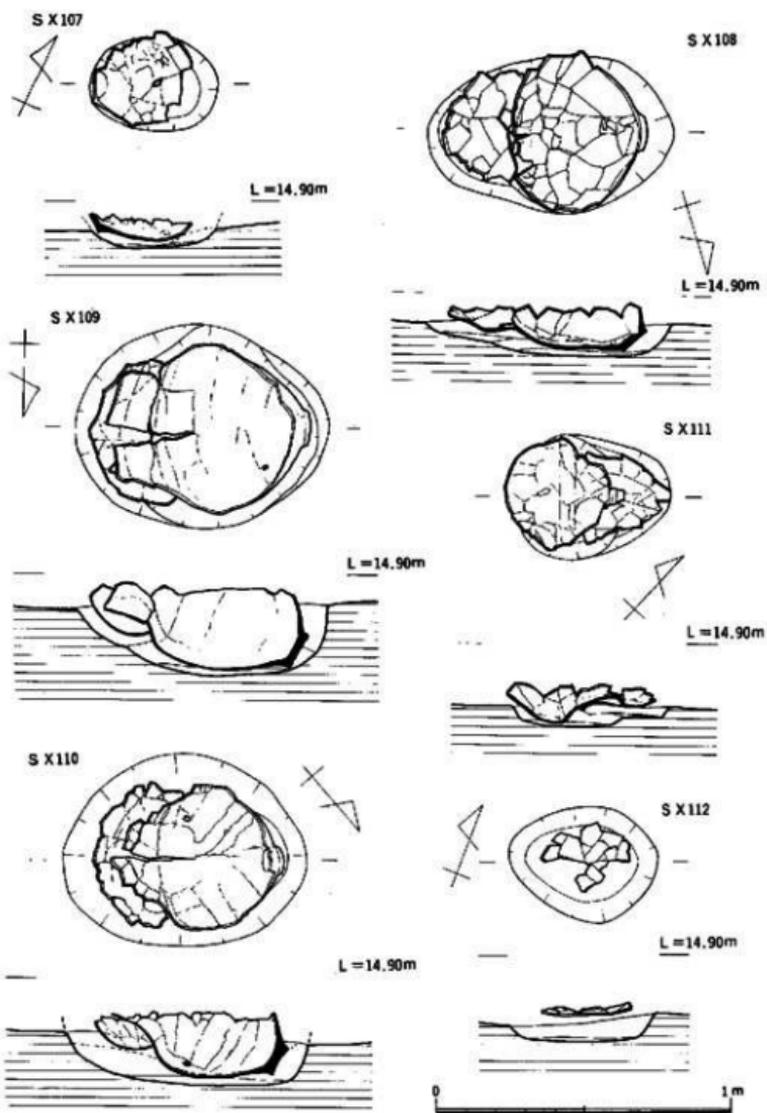
SX103棺 (第27図4) 口頸部を欠損する壺。胴部は大きく張り、ゆるやかに底部へとすぼむ。底部はあげ底。外面は胴部最大径付近までが横方向、それ以下が縦方向のヘラ研磨。底部端は指押えナデ。内面も指ナデで仕上げるが、部分的に板ナデも認められる。外面丹塗りだが、全体に磨減が激しい。胎土は砂粒が混り、焼成良好。

SX104棺 (第27図5) 口頸部を欠損する壺。頸部片も接合できないものの残存する。頸部と胴部の間には1条の凹線がめぐる。胴部はその上位で大きく張る。底部は円盤貼付け状に直立する。外面は丹塗りで、器面調整はSX103棺とほぼ同じ。内面は指ナデ。外面凹線付近に径5cmほどの黒斑がある。胎土は砂粒を混えるものの精良で、焼成も良好。

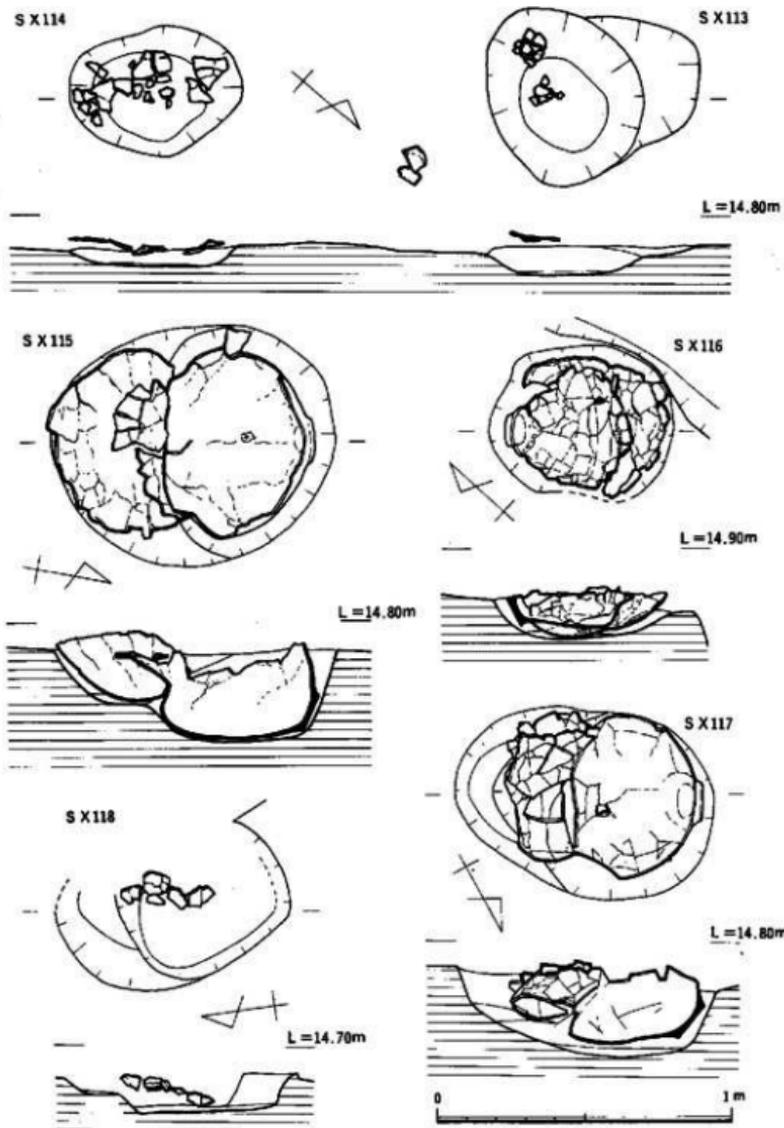
SX105棺 (第27図6) 胴部下半から底部近くまでが残存するが、底部のみしか図化できなかった。壺か。凹底で、外面には刷毛目が残る。内面は磨減著しい。胎土には砂粒を多く混え、焼成良好。



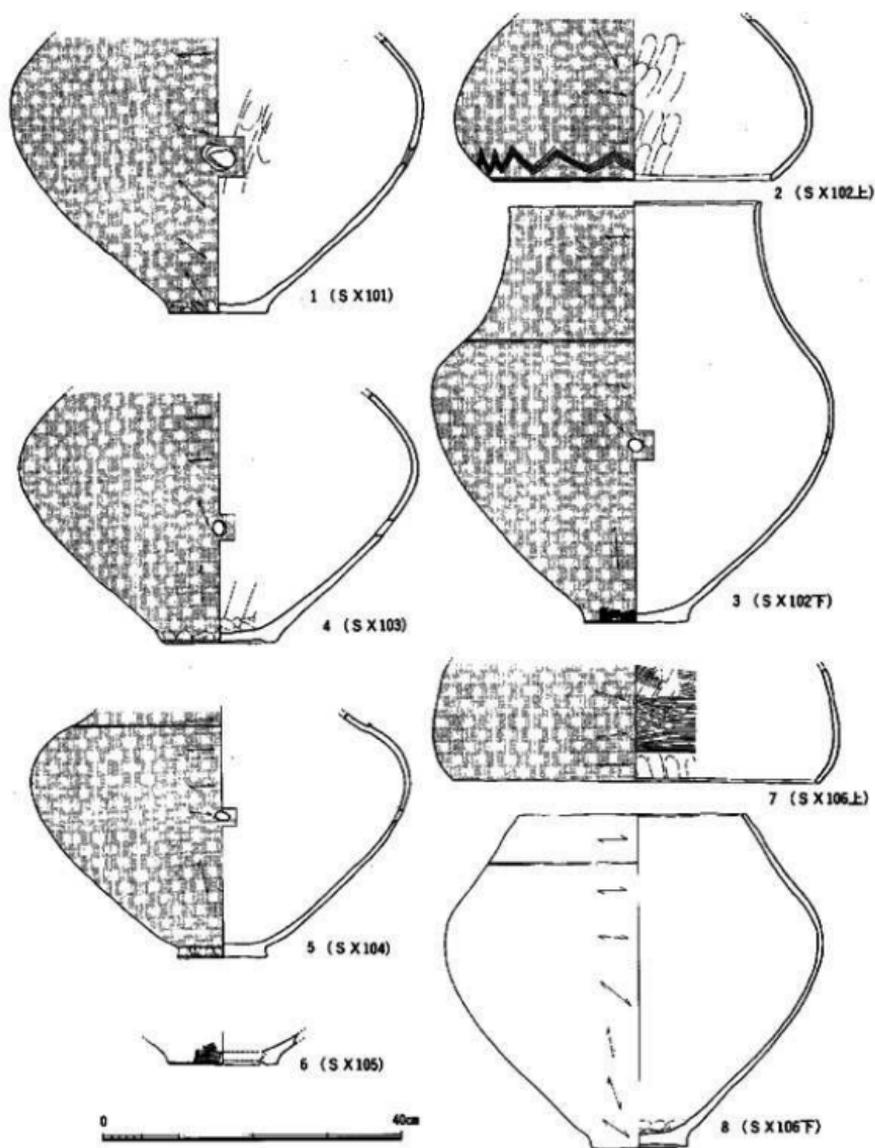
第24图 S X 101 · 102 · 103 · 104 · 105 · 106 (縮尺 1/20)



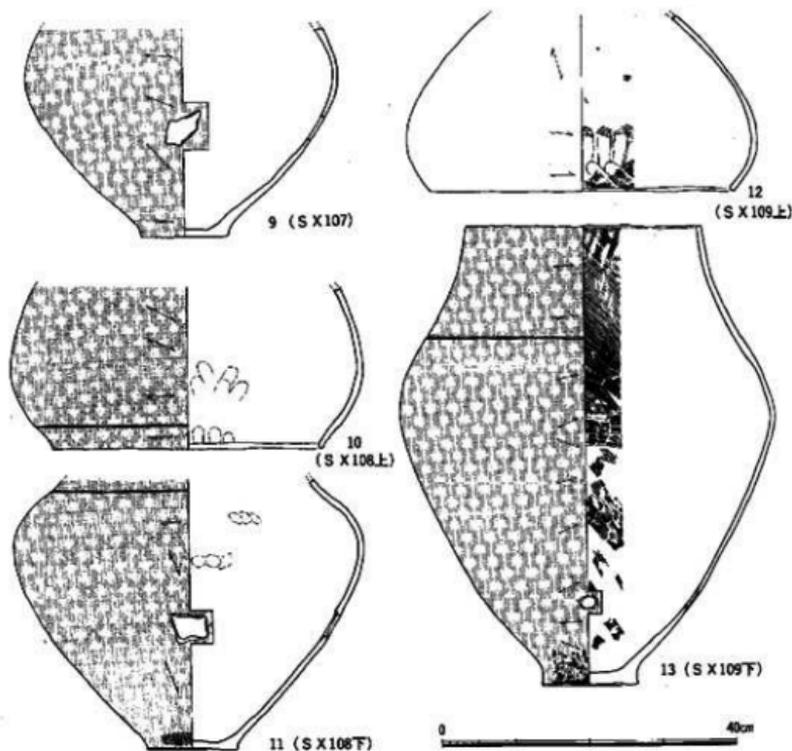
第25图 S X 107 · 108 · 109 · 110 · 111 · 112 (縮尺 1/20)



第26圖 S X 113・114・115・116・117・118 (縮尺 1/20)



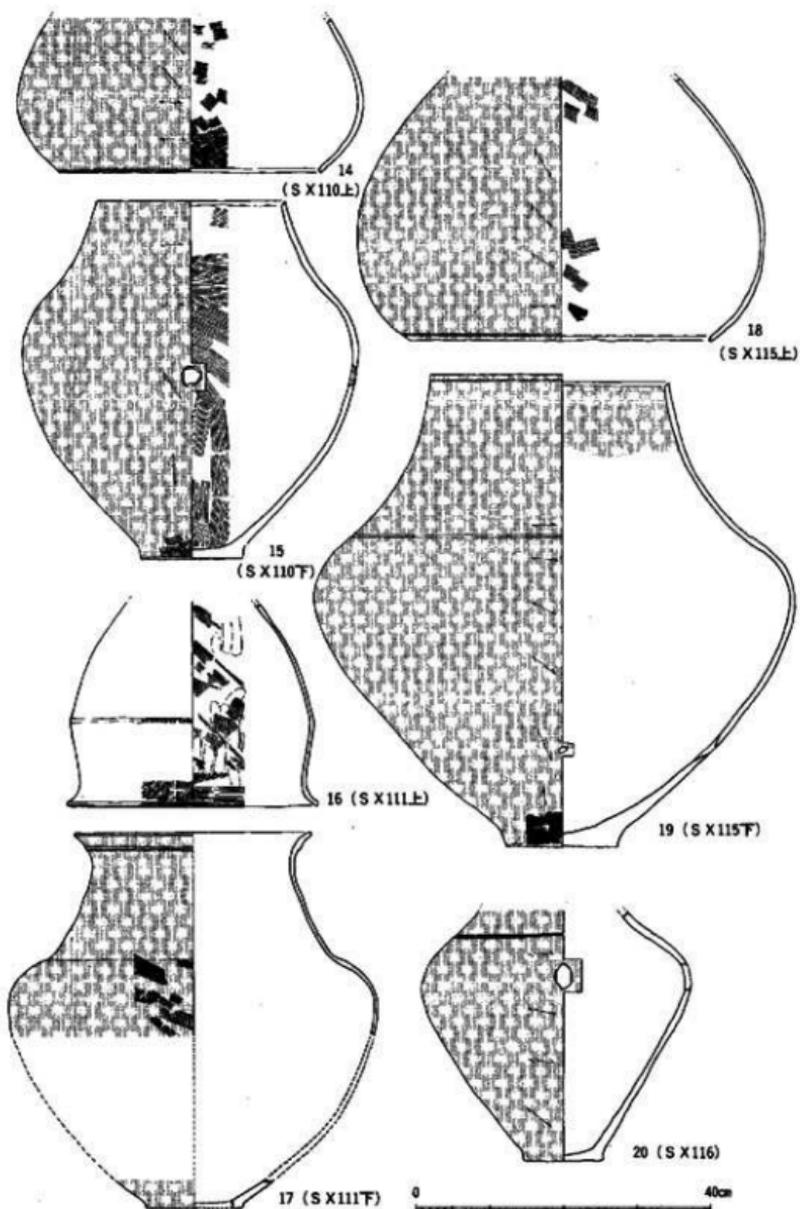
第27圖 出土樂鐘1 (縮尺 1/8)



第28図 出土壺棺 2 (縮尺 1/8)

S X 106棺 (第27図 7・8) 7は口縁から頸部下までを打ち欠いた上壺の壺。底部は欠損する。胴部は大きく張る。外面は丹塗りで、横から斜め方向のヘラ研磨。内面は指押しと横刷毛目調整。胎土には砂粒を多く混え、焼成良好。8は下壺の口縁部から頸部中位までを打ち欠いた壺。胴部の張りはS X 102下壺に近いが、最大径部分は下がる。頸部と胴部の間にはヘラによる凹線をめぐらす、その変換は不明瞭である。底部はあげ底で、端部は直立気味。外面調整はS X 102下壺とほぼ同じ。内面は板ナデにより仕上げる。胴部最大径付近に15×9cmの楕円形黒斑がある。丹塗りは認められない。胎土には砂粒を多く混え、焼成良好。

S X 107棺 (第28図 9) 口縁部から胴部上位までを欠損した壺。形態的にはS K 06の下壺に似る。ただし底部は平底。外面は丹塗りで、調整はヘラ研磨。胴部最下径付近までは横方向、それ以下は斜方向、さらに底部付近で横方向となる。内面はナデか。磨滅著しい。穿孔は破損



第29図 出土壺3 (縮尺 1/8)

部があり図示したようになったが、本来はもっと小さいものと考えられる。胎土には砂粒を多く混え、焼成良好。

S X 108棺 (第28図10・11) 10は口縁から頸部途中までを打欠いた上甕の壺。底部は欠損する。頸部と胴部の境には凹線を1条めぐらせる。胴部の張りは小さい。外面は横方向から斜方向のヘラ研磨。内面は指ナデ。外面は丹塗りでであろうか。胴部最大径付近に黒斑がある。胎土には砂粒を多く含み、焼成良好。11は口頸部を打欠いた下甕の壺。頸部と胴部の境には凹線をめぐらせる。上甕に比べ胴の張りが大きく、底部へとすぼむ。底部はわずかにあげ底。内外面の調整は上甕に似るが、底部端には刷毛目が認められる。外面丹塗り。胎土には砂粒を混え、焼成良好。

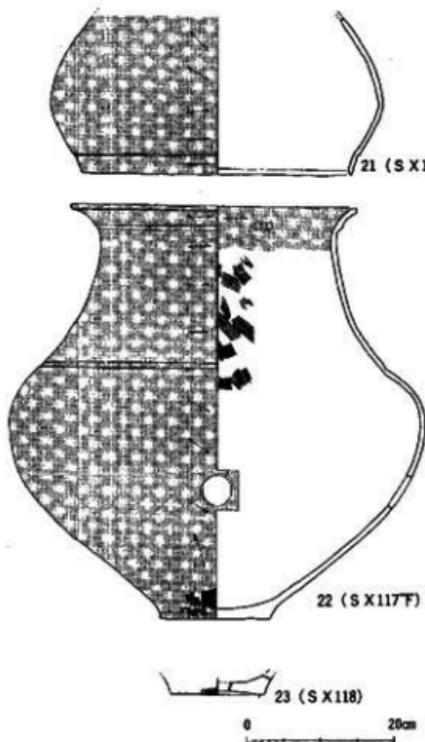
S X 109棺 (第28図12・13) 12は口頸部を打ち欠いた上甕の壺。底部は欠損する。外面調整はヘラ研磨で、胴部中位で横方向から縦方向へと変化する。内面は指ナデだが、その後粗い刷毛目を施す部分もある。胎土には砂粒を多く混え、焼成良好。13は口縁部を打欠いた下甕の壺。張りのない腰高の長い胴部で、頸部との間には小さな段がつく。底部はやや外に張り出し、凹底となる。外面調整はヘラ研磨で、胴部最径付近までが横方向、それ以下は斜方向となる。底部付近は細い刷毛目。内面は指ナデの後、弱いナデ風の刷毛目。胴部上位には黒斑がある。胎土には砂粒を多く混える。焼成良好。

S X 110棺 (第29図14・15) 14は口頸部を打ち欠いた上甕の壺。底部は欠損する。形態的にはS X 109の上甕と同じだが、頸部と胴部の境の凹線が部分的に残る。調整も変らない。ただ内面の刷毛目の調子は強い。胎土には砂粒を多く混える。外面は丹塗りが。胴部下半に黒斑がある。15は口縁部を打ち欠いた下甕の壺。胴部は腰高で、明瞭な段をもたないまま頸部が内傾する。底部はわずかに凹底。外面調整はヘラ研磨で、胴部最大径部分までは横、それ以下は斜め、さらには縦方向となる。底部端は刷毛目。内面は刷毛目調整で仕上げる。胎土には砂粒が混る。外面丹塗り。

S X 111棺 (第29図16・17) 16は上甕の甕。如意形口縁の下端に比較的大きなヘラの刻目を入れる。胴部上位の屈曲部は垂れ下がったようになっており、そこに貝の腹線による刻目を入れる。外面ナデ調整。ただ口縁下には縦刷毛目が残る。内面は刷毛目で仕上げるが、磨減が著しい。胎土には砂粒が多い。胴部下半には黒斑がある。17は下甕の壺。ほぼ全形をうかがえるが、胴部下半がうまく接合せず、復元となった。口縁部は短く外反し、外側が肥厚する。頸部は長く、ゆるい段をなして上位が大きく張る胴部へと続く。底部は平底。内外面とも磨減が著しく調整は不明瞭。外面は丹塗りで、胴部には細い刷毛目が認められる。胎土には砂粒が多く、また赤色粒も目立つ。胴部最大径付近には16×8 cmの楕円形状の黒斑がある。

S X 112棺 外面にヘラ研磨、内面に刷毛目調整を行う壺胴部から底部片が出土した。

S X 113棺 外面丹塗りでヘラ研磨を行う壺胴部片、わずかに凹底の底部片などが出土した。



第30図 出土壺棺4 (縮尺 1/8)

部に向って縦方向となる。底部端は刷毛目。内面はナデ。ただ口縁部下はへら磨きを行なっており、外面からこの部分まで丹塗りが施される。胎土は砂粒を含むものの精良。胴部に数ヶ所黒斑がある。

S X 116棺 (第29図20) 上壺は胴部上位から下位までの壺の破片がある。外面は丹塗りで、へら研磨を行う。図示できない。20は口縁部から頸部の途中までを打ち欠く下壺の壺。胴部は腰が高く、頸部との間には段がつく。底部はやや外に張り、平底。外面調整はへら研磨で、胴部下位で横方向から斜方向に変わる。内面には細い刷毛目が残るが、表面磨滅して不明瞭。胎土には砂粒を混える。外面は丹塗りで、胴部最大径付近に黒斑がめぐる。

S X 117棺 (第30図21・22) 21は口頸部を打ち欠いた上壺の壺。底部は欠損する。形態・調整ともS X 108の上壺と同じである。胴部と頸部の境の段は明瞭である。胎土には砂粒を多く含

またこれとは別個体の外面から底面まで丹が残る底部片もあるが、墓墳外から出土している。

S X 114棺 頸部から胴部上位にかけての壺の破片が2個体分ある。ともに外面丹塗りでへら研磨。一方の内面は刷毛目調整で仕上げている。

S X 115棺 (第29図18・19) 18は口頸部を打ち欠いた上壺の壺。底部は欠損する。頸部との境に不明瞭な凹線をめぐらせ、最大径は中位にある。外面丹塗りでへら研磨。方向は上位が横、最大径付近から斜めになり、さらに縦となる。内面はナデで仕上げるが、部分的に刷毛目がみられる。胎土には砂粒を多く混える。数ヶ所に黒斑がある。19は口縁部を打ち欠いた下壺の壺。今回出土した壺棺の中で最も大きいものである。形態的にはS X 111下壺に似る。頸部と胴部の境には浅い凹線をめぐらす、不明瞭な部分もある。外面はへら研磨で、頸部から胴部上位までは横、最大径部分から斜めになり、底

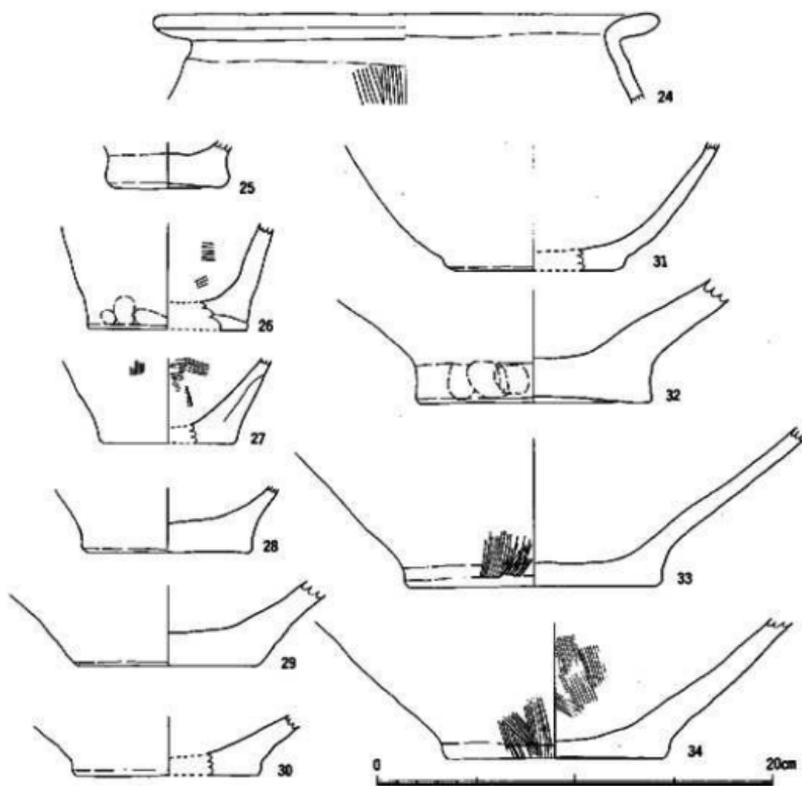
む。外面はあざやかに丹塗りが残る。また胴部最大径付近には黒斑がある。22は下壺の壺。口縁部は外反し、外側が肥厚する。頸部と胴部の境は段をなし、胴部は中位近くで大きく張り、わずかにあげ底の安定した底部へと続く。口縁部内面から外面にかけてへら研磨を行い、その部分には丹を施す。研磨方向は内面から胴部上位までは横、それ以下は斜めとなり、底部に近づくとつれ縦となる。底部端は刷毛目。内面はナデで仕上げるが、部分的にその後刷毛目調整が行なわれる。胎土には砂粒を混える。胴部に2ヶ所黒斑が認められる。

S X 118棺 (第30図23) 図示したのはわずかに凹底の壺底部片である。外面には刷毛目が残る。他に頸部と胴部の段付近の破片、丹塗りの胴部片などがある。胎土・色調などからすると2個体分であろうか。

以上の壺棺の特徴についてみてきた。その多くが口縁を打ち欠き、また上壺の破損度が大きい。そのため、棺の全容をがうかがえるものはS X 117の下壺(22)にとどまった。棺の組合せは、S X 111の上壺(16)が壺、下壺(17)が壺であることを除けば残りはすべて壺どうしであり、単棺としたものもまた壺を用いている。壺の形態はおおまかに3分類できる。①胴部が長く腰高のもので、胴部そのものの張りは他のものに比べ小さい。13・15・20がこれにあたる。②最大径を胴部上位から中位にもち、胴部が張るもの(1・2・3・8・9・10・11・12・14・18)。③最大径部位は②と同じであるが、その部分が大きく外に張り、腰が低いもの(4・5・17・19・22)。このうち①の15は頸部と胴部の境が明瞭でない唯一のもので、形態的には古いものといえよう。また13は長胴をなし、小さな段こそつくものの頸部から胴部は継続的であり、古い形態を示している。これに対し③は17と組合わさる壺(16)の特徴、また腰の低い胴部などからみて①より新しい形態であるといえよう。口縁部が残存しているのはこの③の一部だけで、それは外側が肥厚し、頸部との境に段がついている。②は①と③の中間的な形態をとる。したがって形態的には①→②→③の変遷をたどれることになる。しかし棺には①と②、②と③が組合わされるものがあり、また器面調整などにも著しい差は認められない。これらの棺は弥生前期前半(板付I式)にほぼ相当し、①～③の形態差はこのなかでの時間差としてとらえられるものと考えられる。

田村遺跡群ではこれまで、第10地点の東側に当たる第5地点(第3次調査)で夜臼・板付I式期の竪穴遺構が検出されており、この墓地との関係が求められる。弥生時代の墓地そのものは今回の壺棺墓が初めてのものであるが、古河川中に同時期の大形壺、後出する金海式壺棺片などが散見しており、他に墓地があった可能性も強い。

早良平野の弥生墓地としては藤崎、西新町、野方、野方久保、有田、吉武、四箇などの遺跡が知られているが、前期末～中期初頭の金海式壺棺以前のものはきわめて少なく、藤崎遺跡などに少数認められるだけである。前期前半のほぼ単純時期の壺棺墓のみで構成された墓地が、沖積平野の中央に出現したのはいかなる背景があったのか興味をひくところである。



第31図 出土弥生土器 (縮尺 1/3)

2) 出土土器 (第31図)

24は逆し字状をなす甕の口縁部片。端部は丸くおさめる。胴部外面は縦刷毛目、他はナデで仕上げる。中期。25-34は底部片。25はわずかにあげ底をなす円盤貼り付けの底部で、小型壺のものであろう。26-28は甕の底部。26・27の胴部下半が直線的であるのに対し、28は丸みをもつ。29-34は壺の底部。29・30は底部端に明瞭な立ち上りをみないまま胴部下半に向かってふくらむ。31-34は明瞭な立ち上りをもつ。32-34は前期の大型壺であらう。31は砂粒を混えるものの精良な胎土で、内面黒色、外面灰白色を呈する。焼成はあまい。

3) 出土石器

弥生時代の遺構としては、前期の甕棺墓のほか明確に出来るものは検出しなかった。遺物から見ると量的には少ないが、種々の重要な遺物が出土している。朝鮮式磨製石鏃や大型の三角形石庖丁、柱状挟入片刃石斧、大型蛤刃石斧等時期的に古い要素をもったものが多く、多種多用の器種が出土している。出土地点をみると表土から30028～30032、S D1000の上層から30004～30008が出土している。S D100からは30012、30013、30016、S D110からは30019、S D01からは30020が出土している。又、Pitからも30022、30023が出土し、S K202からは30003が出土している。これらの遺構は弥生時代のものではなく、遺物の出土状態も埋土からのものが殆どである。強いて上げるとすればS D1000の上層の遺物が遺構に伴うものと考えられるが、S D1000の下層は縄文時代後期の遺物しか含まず、S D1000自体の時期設定は、縄文時代後期と考えられる。いずれにしろ、これらの遺物を有した遺構があったことは明らかであり、後世の遺構によって破壊された可能性が高い。遺物を順次説明していく。

勾玉 (第32図)

滑石製の勾玉である。穿孔部分が欠損しているが、削り部分が多いため未製品であろう。

石剣・磨製石鏃・石庖丁 (第32図)

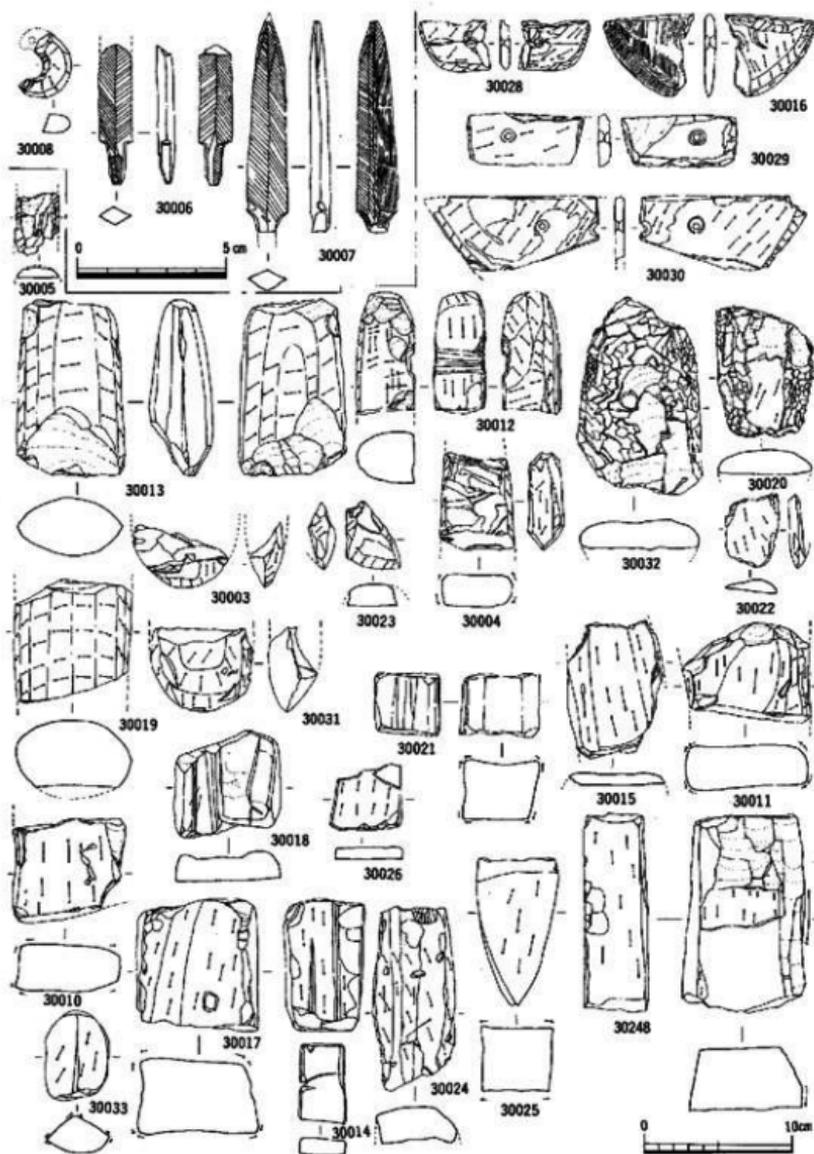
30005は半割しているためその全容は不明であるが、断面がレンズ状を呈するものと思われる。30006、30007の2点はS D1000上部から出土した朝鮮式磨製石鏃である。30006は先端部が欠損しているが、やや小型のもので断面菱形を呈し、30007は基部と先端部が欠損している。石庖丁は四種に区別できる。30028は凝灰岩製の小型石庖丁である。30016は輝緑凝灰岩製の石庖丁で、幅が広く全面に丁寧な研磨を施す。30029は未製品であるが長方形を呈し、穿孔も1ヶ所しかない。ただ研磨も進行しているところから形状はこのままと考えられる。30030は大型の石庖丁である。復原すると18cm程となり大型の三角形を呈する。

磨製石斧 (第32図)

10点図示した。30012は柱状挟入片石斧の先端部で、刃部は欠損している。全面に丁寧な研磨を施す。30004は柱状石斧の中段部分で、先端、刃部とも欠損している。大型蛤刃石斧として30013、30019、30031、30032が上げられる。30032は敲打段階(一部に研磨を開始)で半割されている。他は丁寧な研磨により仕上げられている。石材も玄武岩、凝灰岩、頁岩とそれぞれ用途によって使い分けている感が強い。

砥石 (第32図)

12点図示した。使用された時代は確定できない。出土地点もS D01、14、100、110、Pitと様々である。石材は硬質砂岩、粘板岩、花崗岩、玄武岩が使用されている。30018は3条の稜を持ち、その形状は鋳型的であるが、器種名は不明である。その破片を砥石として利用している。



第32图 出土弥生石器 (縮尺1/2・1/4)

3 古代・中世の出土遺物

概刊の『田村遺跡Ⅴ』に報告されるべき出土遺物の整理の際、当方の不手際で若干数の遺物の掲載漏れがあった。以下、それらの遺物について述べる。

S K 20出土遺物（第33図、図版19）

棒状土製品（1～6）用途不明の棒状の土製品である。断面形は1・2が隅丸の多角形、4～6が隅丸方形を呈し、それぞれ同一個体の可能性がある。3は双方の中間的形態をとっている。1・4・5には先端部分がみられ、割り込みをもつ。いずれも長軸にそってナデを施す。胎土には粗い砂粒を含む。瓦質に焼成され、灰色～灰黒色を呈する。

S K 63出土遺物（第33図、図版19）

白磁

椀（7）細く低い高台をもち、体部上半は欠失している。内面にヘラ及び櫛状工具を用いて、花文を施す。胎土は黄色味を帯びた灰色、釉は灰白色を呈する。

龍泉窯系青磁

椀（9）体部外面に蓮弁をヘラ彫りし、底部は欠失する。胎土は粗く、灰色、釉は灰緑色を呈する。

皿（10）平坦な内底見込みに櫛状工具を用いて、草文を施す。体部中位で屈曲し、胎土は灰色、釉は淡灰緑色を呈し、胎土は灰色、釉は淡灰色を呈し、全面施釉後、外底部の釉をカキ取り露胎とする。底部はやや上げ底。

同安窯系青磁

椀（8）体部上半は欠失し、体部外面に櫛状工具を用いて条線、内面にはヘラ状工具による雷光文を施す。胎土は淡黄灰色、釉は鉛色を呈する。

S D 01出土遺物（第33図、図版19）

土師器 底部はヘラ切り離しによる。体部は横ナデ、内底部はナデ、外底部には板状圧痕がみられる。

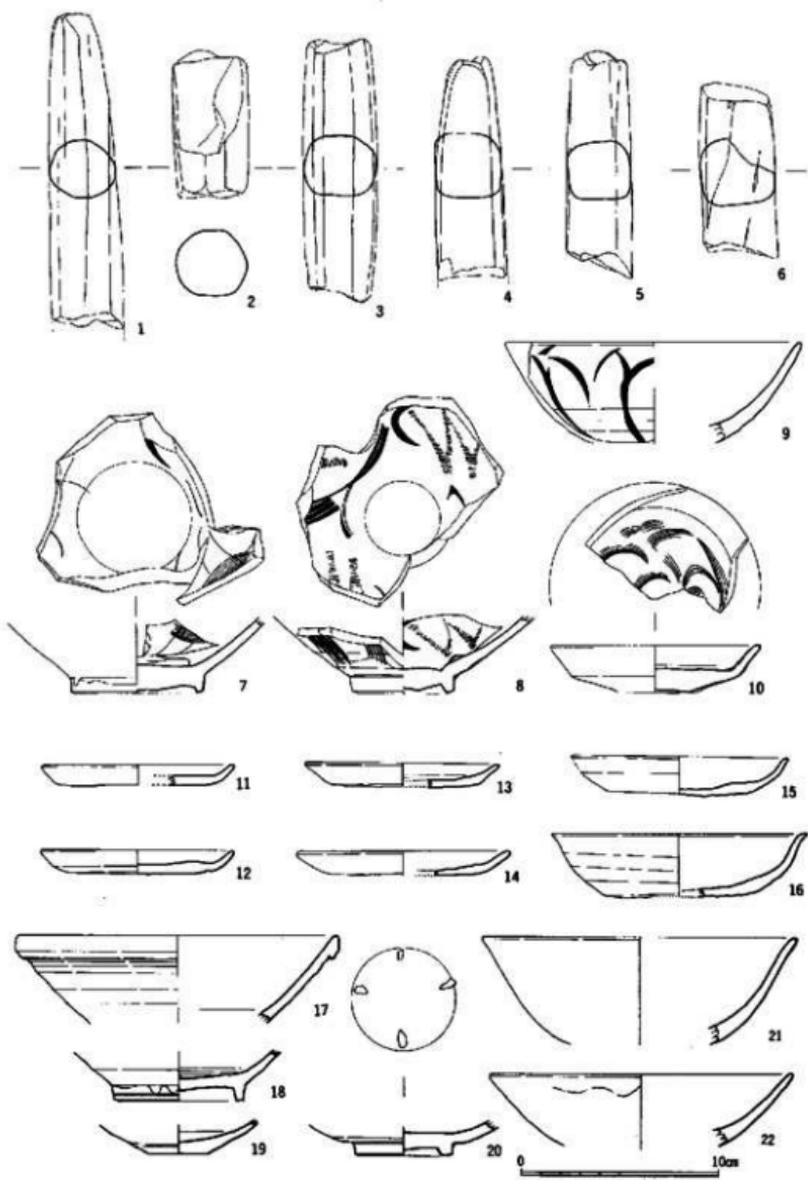
小皿（11～14）口径9.6～10.9cm、器高1.1～1.3cmを測る。

杯（15・16）15は杯と小皿が分化する以前のものである。口径11.0cm、器高2.0cm、底径7.0cmを測る。16は分化した段階のもので11～14とセットをなす。口径12.5cm、器高3.2cmを測る。

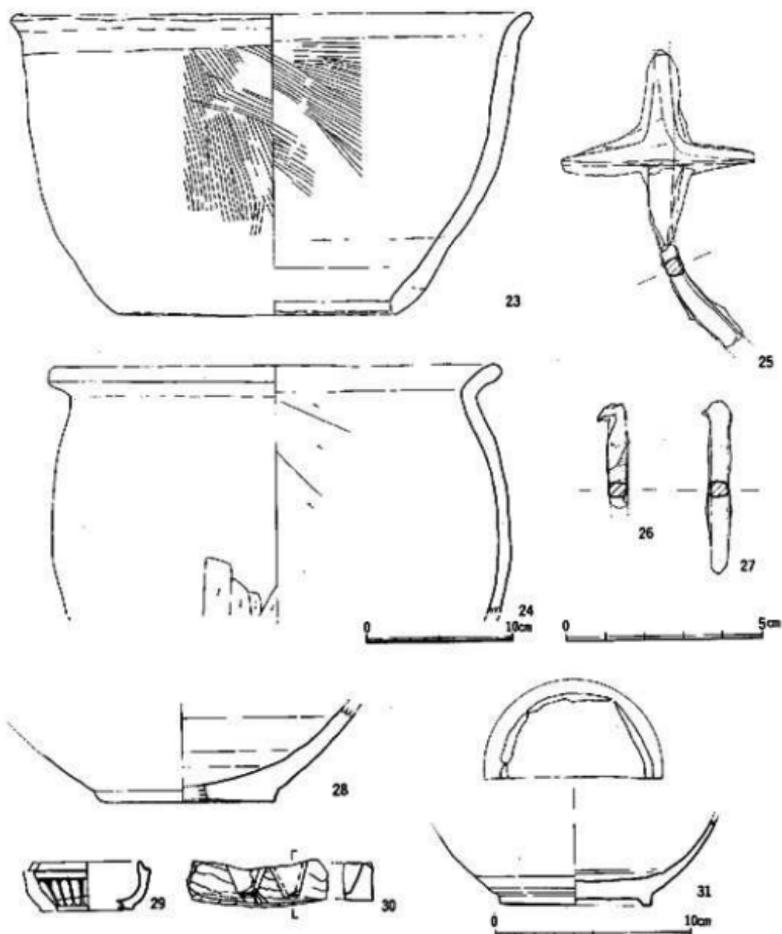
S D 21出土遺物（第33図、図版20）

白磁

椀（17・18）17は口縁部を折り返し、玉縁状にする。内底見込みに段がつくが、それより下部は欠失している。胎土は灰白色、釉は灰白色を呈する。18は内底見込みの釉を輪状にかき取る底部片である。胎土は灰白色、釉は白色を呈する。



第33图 出土古代・中世遺物 (縮尺1/3)



第34図 出土古代・中世遺物 (縮尺2/3・1/3・1/4)

皿 (19) 平底の底部片で、内面に段がつく。胎土は灰色、釉は黄色味を帯びた灰色を呈する。

龍泉窯系青磁

碗 (21) 内外面とも無文で、胎土は黄色味を帯びた灰色、釉は緑色を呈する。

小碗 (20) 内底見込みに4足の目跡を残す底部片で、胎土は灰色、釉は火中に入ったためか、

剝離が著しく、緑白色を呈する。

杯 (22) 小片であるため、傾き、口径は確かではない。胎土は灰色、釉は灰緑色を呈し透明感を欠く。

S D01上面出土遺物 (第34図、図版20)

土師器

鍋 (23) 口縁部は外反し、体部は内湾気味に外上方へ延びる。底部は外周から丁寧に打ち欠かれている。口縁部は横ナデ、外面体部中位以上は斜め刷毛目を施し、部分的にナデ消しがみられる。内面体部上半は口縁直下が横刷毛目のほかは斜め刷毛目、下半はナデを施し、磨滅が著しいが、粘土紐の接合痕がみられる。

甕 (24) 口縁部はくの字形を呈し、体部は球形に膨らむが、下位は欠失している。口縁部は横ナデ、内面体部、外面体部上位はナデ、外面体部下位は縦方向にヘラ削りする。

青白磁

合子 (29) 側面に蓮華座を型押しする身の破片で、胎土は白色、釉は灰白色を呈し底部付近までかけられ、蓋受け部は釉をカキ取っている。

表土出土遺物 (第34図、図版20)

須恵器片口鉢 (28) 体部下位から底部にかけての破片資料で、底部は糸切り離しによる。体部は丸味を持ち、外面は横ナデ、内面は不定方向のナデを施す。

越州窯系青磁碗 (31) 口縁部を欠失する。断面方形の輪状高台を持ち、体部は内湾気味に外上方へ延びる。内底見込みに段がつき、その内周と高台畳付には目跡を残す。胎土は灰色で、褐色を帯びたオリーブ色の釉が全面に施釉されている。

石製品 (第34図、図版19) (30) 截頭円錐形の穴を2個連らねて挟り込む用途不明の滑石製品である。穴が連らなる方向で二つに割れ、その一方が欠失している。石鍋片を再利用したとみられ、その湾曲が残り、穴が挟り込まれた面は研磨され、反対の面にはノミ状工具による削痕がみられ、前者が石鍋の内面、後者は外面であったことが推測される。SX17出土。

鉄製品 (第34図、図版19) いずれもSD100出土。

紡錘車 (25) 銹化がかなり進行し、本来の形状はとらえ難いが、笠形の紡錘車本体に断面隅丸方形の軸を嵌入したものとみられる。出土した時点で軸が折れ曲がっていた。

鉄釘 (26・27) いずれも断面方形の角釘で、頭部は折り曲げられる。26は先端部が欠失している。

※登録番号については原につく遺跡調査番号の8408を省略(第3-8表)

遺物番号	母体	内径	出土遺構	遺物種類	口径	底(脚)径	器高	調整	色調	その他の特徴	登録番号
001	6	7	SD1000	縄文・埴	(27.7)			口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	褐色		20003
002	6	7	SD1000	縄文・埴	(23.4)			口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色		20006
003	6	7	SD1000	縄文・埴	(22.0)			口縁部滑り、外底面ヘラナア	暗褐色		20005
004	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20038
005	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	内外面に條付管	20011
006	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	褐色		20025
007	6	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	褐色	磨滅ある	20045
008	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管、磨滅ある	20037
009	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	淡褐色	外側に條付管	20032
010	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	黒褐色		20046
011	6	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	暗褐色	外表面磨りしい	20041
012	6	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	暗褐色		20036
013	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、外底面ヘラナア	褐色	外側に條付管、磨滅ある	20031
014	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色		20047
015	6	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	褐色		20043
016	6	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	淡褐色		20048
017	6	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	褐色	外側に條付管	20063
018	6	7	SD1000	縄文・埴	(22.0)			口縁部滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20022
019	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、外底面ヘラナア	褐色	外側に條付管	20029
020	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	内面に磨滅ある	20010
021	6	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	淡褐色		20026
022	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	褐色		20039
023	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20049
024	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色		20035
025	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20024
026	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	内外面に條付管	20033
027	7	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	淡褐色	外側に條付管、磨滅ある	20054
028	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、外底面ヘラナア	赤褐色	磨滅著しい	20030
029	7	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	褐色	外側に條付管	20074
030	7	7	SD1000	縄文・埴	(24.2)			口縁部滑り、外底面ヘラナア	褐色		20001
031	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20027
032	7	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	暗褐色		20073
033	7	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	淡褐色		20040
034	7	7	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20042
035	7	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	暗褐色	外側に條付管	20022
036	7	7	SD1000	縄文・埴				滑りナア	暗褐色		20064
037	7	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	磨滅著しい	20023
038	7	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	淡褐色		20009
039	7	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管、磨滅著しい	20021
040	7	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20026
041	7	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	褐色		20034
042	7	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外表面磨りしい	20052
043	7	8	SD1000	縄文・埴				滑りナア	褐色	内面に磨滅著しい	20050
044	7	8	SD1000	縄文・埴	(22.4)			口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	赤赤褐色		20007
045	7	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	暗褐色	外側に條付管	20008
046	8	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	褐色	磨滅ある	20004
047	8	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	黒褐色		20059
048	8	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	淡褐色	外側に條付管	20012
049	8	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	黒褐色		20061
050	8	8	SD1000	縄文・埴				口縁部滑り、内面滑り、外底面ヘラナア	淡褐色		20072

第3表 揚龍縄文土器一覽1

製品番号	規格	材質	出 産 地	産物種類	口径	底(脚)径	器 高	調 整	色 調	その他の特徴	製品番号
051	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	暗褐色		20653
052	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底ナゲ	灰褐色	外面磨減著しい	20660
053	8	8	SD1000	縄文・壺				内面磨り、外底横ナゲ	暗褐色		20644
054	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	黒褐色		20656
055	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	淡褐色		20662
056	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	褐色		20651
057	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底不明	褐色	外面に磨減著しい	20618
058	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	黒褐色	外面に横付着	20620
059	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、横ナゲ	暗褐色	口縁部横ナゲに赤色顔料	20658
060	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	暗褐色	外面に横付着	20657
061	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	黒褐色	保存者、磨減もらい	20616
062	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	暗褐色		20615
063	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、横ナゲ	褐色		20614
064	8	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底不明	灰褐色		20617
065	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	暗褐色	外面に横付着	20655
066	8	8	SD1000	縄文・壺	(28.2)			口縁部横ナゲ、内面へつり、外底へつりナゲ	明茶褐色	外面に横付着	20619
067	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	明褐色		20667
068	8	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	灰褐色	黒化、磨減著しい	20670
069	8	8	SD1000	縄文・壺				調整値不明	暗褐色	黒化、磨減著しい	20665
070	9	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、他不明	暗褐色	磨減著しい	20666
071	9	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	黒褐色		20668
072	9	8	SD1000	縄文・壺				口縁部横ナゲ、横ナゲ	暗褐色	磨減著しい	20613
073	9	8	SD1000	縄文・壺				横ナゲ	暗褐色	西面に横付着	20669
074	9	8	SD1000	縄文・深鉢	(23.5)			口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底へつりナゲ	褐色	外面に横付着、磨減著しい	20692
075	9	8	SD1000	縄文・深鉢				内面横ナゲ、外底へつりナゲ	褐色	外面に磨減ある	20682
076	9	8	SD1000	縄文・深鉢				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底へつりナゲ	暗褐色		20681
077	9	8	SD1000	縄文・深鉢				横ナゲ	暗褐色		20671
078	9	8	SD1000	縄文・深鉢				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	黒色		20684
079	9	8	SD1000	縄文・深鉢				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	褐色		20687
080	9	8	SD1000	縄文・深鉢				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	暗褐色		20683
081	9	9	SD1000	縄文・深鉢				内面横ナゲ、外底横ナゲ	黒褐色		20686
082	9	9	SD1000	縄文・深鉢				内面横ナゲ、外底横ナゲ	褐色	内面に炭化物付着	20685
083	9	9	SD1000	縄文・深鉢				内面横ナゲ、外底横ナゲ	暗褐色		20689
084	9	9	SD1000	縄文・深鉢				横ナゲ	暗褐色		28121
085	9	9	SD1000	縄文・深鉢				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	暗褐色	外面に横付着	20119
086	9	9	SD1000	縄文・深鉢				口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	黒褐色	外面に横付着	20118
087	9	9	SD1000	縄文・浅鉢	(39.3)			口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底ナゲ	灰褐色	外面に横付着	20675
088	9	9	SD1000	縄文・浅鉢	(25.0)			口縁部横ナゲ、内面横ナゲ、外底横ナゲ	灰褐色	内口縁部と外面に横付着	20676
089	9	9	SD1000	縄文・浅鉢				内外面横ナゲ	暗褐色		20679
090	9	9	SD1000	縄文・浅鉢				内外面横ナゲ	暗褐色		20678
091	9	9	SD1000	縄文・浅鉢	(23.6)			横ナゲ	暗褐色		20677
092	9	9	SD1000	縄文・壺	(11.5)			横ナゲ	黒褐色	磨減ある	20690
093	10	9	SD1000	縄文・壺	(20.3)			横ナゲ	灰褐色	磨減著しい	20691
094	10	9	SD1000	縄文・浅鉢				内面横ナゲ、外底横ナゲ	暗褐色		20688
095	10		SD1000	縄文・壺	(5.6)			外底ナゲ、内底ナゲ、横ナゲ	褐色	磨減ある	20110
096	10		SD1000	縄文・壺	(7.9)			外底ナゲ、内底横ナゲ、横ナゲ	褐色	外面に横付着	20693
097	10		SD1000	縄文・壺	(7.2)			外底磨り、内底ナゲ、横ナゲ	褐色		20103
098	10		SD1000	縄文・壺	(8.6)			外底ナゲ、内底ナゲ、横ナゲ	灰褐色		20105
099	10		SD1000	縄文・壺	(7.8)			外底磨り、内底ナゲ、横ナゲ	黒褐色	外面に横付着	20106
100	10		SD1000	縄文・壺	(13.0)			外底ナゲ、内底ナゲ、横ナゲ	淡褐色		20100

第4表 掲載縄文土器一覧2

建物番号	種別	出土地	遺物種類	口徑	底(脚)径	高さ	調整	色	調整	その他の特徴	登録番号
101	10	SD1000	縄文・壺		(8.3)		外壁埋り、内蓋ナド、粘 土ナド	緑褐色			20099
102	10	SD1000	縄文・壺		(8.0)		外壁埋り、内蓋ナド、粘 土ナド	淡赤褐色			20096
103	10	SD1000	縄文・壺		(6.5)		外壁埋り、内蓋ナド、粘 土ナド	褐色			20109
104	10	SD1000	縄文・壺		(11.1)		外蓋ナド、内蓋ナド、粘 土ナド	褐色			20108
105	10	SD1000	縄文・壺		(9.9)		外蓋ナド、内蓋ナド、粘 土ナド	褐色			20097
106	10	SD1000	縄文・壺		(9.7)		外蓋不明、内蓋ナド、粘 土ナド	暗褐色			20095
107	10	SD1000	縄文・壺		(6.5)		内蓋埋り、外蓋ナド、粘 土ナド	褐色			20101
108	10	SD1000	縄文・壺		(7.4)		外蓋ナド、内蓋ナド、粘 土ナド	暗褐色		二次焼成のためもろい	20102
109	10	SD1000	縄文・壺		(6.6)		外蓋ナド、内蓋ナド、粘 土ナド	暗褐色		蓋縁はもろい	20107
110	10	SD1000	縄文・壺		(8.0)		外壁埋り、内蓋ナド、粘 土ナド	淡赤褐色			20098
111	10	SD1000	縄文・壺		(8.0)		外蓋ナド、内蓋ナド、粘 土ナド	淡褐色			20104
112	10	SD1000	縄文・壺		(9.6)		内蓋ナド、内蓋不明、粘 土ナド	淡褐色			20094
113	10	SD1000	縄文・深鉢	(20.5)			内蓋不明、外蓋埋りナド	褐色			20122
114	10	SD1000	縄文・深鉢		(10.8)		内蓋ナド、外蓋埋り	褐色			20120
115	10	SD1000	縄文・深鉢				ナド	赤褐色		磨石を少量に含む	20125
116	10	SD1000	黒彩土製品				ナド	淡褐色			20124
117	10	SD1000	円形土製品	最大径:4cm、最大厚:5mm			ナド	赤褐色			20126
118	10	SD1000	紡錘車				ナド	褐色			20127
119	11	a 区 SD104	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に押し引き文、沈 線文	20171
120	11	a 区 SD104	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に押し引き文	20172
121	11	a 区地山直上	縄文・深鉢	(24.0)			内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に沈線文	20129
122	11	a 区縄文 S C 01	縄文・深鉢	(31.6)			内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		口縁内面に炭化物付着	20145
123	11	a 区縄文 S C 02	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		口縁内面に炭化物付着	20130
124	11	a 区縄文 P 509	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に押し引き文	20162
125	11	a 区縄文一括	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色			20165
126	11	a 区縄文 S C 02	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	黄褐色		内底面黒点あり	20128
127	11	a 区縄文一括	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	黒褐色			20167
128	11	a 区縄文一括	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色			20135
129	11	a 区 SD104	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	暗赤褐色		外壁に炭化物付着	20176
130	11	a 区縄文一括	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	淡褐色			20169
131	12	a 区縄文 S D 01	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	暗赤褐色		外壁に押し引き文、沈 線文	20142
132	12	a 区 S D 104	縄文・深鉢				内蓋ナド	黄褐色		外壁に押し引き文、沈 線文	20131
133	12	a 区縄文 P 504	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	暗赤褐色		外壁に押し引き文	20159
134	12	a 区 S D 104	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	赤褐色		外壁に押し引き文	20175
135	12	a 区縄文一括	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	褐色		外壁に押し引き文、沈 線文	20168
136	12	a 区縄文 P 501	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	暗赤褐色		外壁に沈線文	20163
137	12	a 区地山直上	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	黄褐色		外壁に炭化物付着	20164
138	12	a 区 S D 104	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	淡赤褐色		外壁に炭化物付着	20173
139	12	a 区縄文一括	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	暗褐色		外壁に押し引き文、沈 線文	20132
140	12	a 区 S D 104	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド	暗褐色		外壁に炭化物付着	20174
141	12	a 区縄文 P 504	縄文・深鉢	(28.0)			内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗赤褐色			20143
142	13	a 区 S D 104	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色			20170
143	13	a 区縄文 P 506	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に炭化物付着	20161
144	13	a 区縄文 P 504	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色			20160
145	13	a 区縄文包舎遺	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗赤褐色		外壁に炭化物付着	20166
146	13	a 区 S D 104	縄文・深鉢	(8.1)			内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	赤褐色			20133
147	13	a 区縄文 S C 02	縄文・深鉢		8.7		内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	黄褐色			20144
148	13	c 区 S D 01 I 区	縄文・浅鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に押し引き文	20141
149	14	b 区 SD100 I 区	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に押し引き文	20202
150	14	b 区 SD100 I 区	縄文・深鉢				内蓋埋り、ナド、外蓋 不明、粘土ナド	暗褐色		外壁に押し引き文	20203

第 5 表 掲載縄文土器一覧 3

遺物番号	発掘回	出土遺構	遺物種類	J 序 区(節) 層 高	調 査	色 調	その他の特徴	図録番号
151	14	10	縄文・深鉢		内面赤褐色	黄褐色	外面に磨糸状文	20183
152	14	10	縄文・深鉢		内面赤褐色、外面赤褐色ナゲ柄し	黒褐色	外面に沈線文、斜交文	20180
153	14	10	d 区南黄土		内面ナゲ	赤褐色	外面に凹線文	20186
154	14	10	a 区 S D 1003		内外面ともナゲ	黄褐色	外面に凹線文	20123
155	14	10	d 区表土		内面ナゲ、外面赤褐色・ナゲ	暗褐色		20184
156	14	10	d 区包含層		内外面とも赤褐色ナゲ柄し	暗褐色		20181
157	14	10	a 区 S D 1002		内面ナゲ、外面赤褐色	暗褐色	孔列文	20117
158	14		d 区包含層	(28.6)	内外面ともヘラ磨き?	赤褐色	外面に凹線文	20177
159	14	10	c 区 S D 01 I 区	(27.2)	内外面ともヘラ磨き	黄褐色		20137
160	14	10	d 区 P 1		内外面ともヘラ磨き	暗褐色		20178
161	14	10	b 区 S D 100 1 区		内外面ともヘラ磨き	暗褐色		20194
162	14		d 区 S K 505		内外面ともヘラ磨き	暗褐色		20188
163	14		a 区 S D 1003		内外面ともヘラ磨き	暗褐色		20080
164	14	10	a 区 S K 505		内外面ともヘラ磨き	暗褐色		20189
165	15	10	a 区 S X 100		内面横ナゲ、ヘラ削り、外面横ナゲ	暗褐色		20147
166	15	10	a 区 S X 100		内面ナゲ・横ナゲ、外面赤褐色ナゲ柄し	暗褐色		20146
167	15	10	d 区包含層		内外面とも赤褐色ナゲ柄し	黒色		20185
168	15	10	a 区 S X 100		内外面とも赤褐色ナゲ柄し	淡褐色		20148
169	15		d 区包含層		内外面とも赤褐色ナゲ柄し	淡褐色		20182
170	15	10	a 区 S D 1001		内外面ともナゲ・横ナゲ	赤褐色		20149
171	15	10	a 区 S X 01		内面ナゲ、外面赤褐色ナゲ柄し	暗褐色		20134
172	15	10	a 区 S X 01		内面ナゲ、外面赤褐色ナゲ柄し	暗褐色		20136
173	15	10	b 区 S D 100 1 区		内外面ともナゲ	暗褐色	縦状磨き付	20204
174	15	10	a 区 S D 1002	(17.6)	内外面ともナゲ?	赤褐色		20115
175	15		b 区 S D 100	11.6	内面ナゲ、外面ヘラナゲ・ヘラ削り	褐色		20192
176	15		d 区 S D 02・5 区	(10.4)	内面横ナゲ目・指押え、外面斜交目・ナゲ	褐色		20152
177	15		a 区 S D 1001	(7.0)	内面ヘラナゲ、外面ヘラ削り、横ナゲ	褐色	外面に横付磨	20116
178	15		d 区 P 3	(10.2)	内外面ともナゲ・横ナゲ	赤褐色		20154
179	15		a 区 S D 01・5 区	(10.0)	内外面ともナゲ・横ナゲ	褐色		20138
180	15		a 区 S X 01	(8.2)	内外面ともナゲ?	淡褐色		20157
181	15		a 区表土	6.6	内面横ナゲ、外面ナゲ	明茶色		20153
182	15		a 区表土	(7.6)	内外面ともナゲ	赤褐色		20158
183	15		b 区 S D 100 II 区	11.2	内外面ともナゲ・横ナゲ	褐色		20198
184	15		d 区 S D 03	(8.7)	内面横ナゲ、外面斜交目	赤褐色		20150
185	15		a 区 S X 100	(7.5)	内面横ナゲ、外面斜交目	褐色		20151
186	15		a 区 S D 1003	(8.0)	内面指押え、外面ナゲ・ヘラ削り	褐色		20155
187	15		a 区 S D 04		土製総重量 復元径7.0cm、最大厚1.3cm、穿孔径0.9cm、重量34.5g		横ナゲ仕上げ	20190

第 6 表 揚載縄文土器一覧 4

発掘番号	発掘区画	出土遺構	遺物種類	口径	底径(脚)	高さ	調整	色調	その他の特徴	発掘番号		
001	27	16	S X 101	壺	最大径 (55.5)	(13.3)			内面刷毛目・底ナダ、外面へつ磨き・指押え	褐色	内形穿孔、外面に丹塗り・黒底	20209
002	27		S X 102	壺	(39.2)	最大径 (48.0)			内面刷毛目・ナダ、外面へつ磨き	褐色	外面に丹塗り・凹線・山形文・黒底	20210
003	27	16	S X 102	壺	(34.0)	13.8	57.0		内面ナダ、外面へつ磨き・刷毛目	明褐色	内形穿孔、外面に丹塗り・凹線・黒底	20211
004	27	16	S X 103	壺	最大径 (53.6)	14.8			内面ナダ、外面へつ磨き・指押え	灰褐色	内形穿孔、外面に丹塗り	20212
005	27	16	S X 104	壺	最大径 (51.0)	12.0			内面ナダ、外面へつ磨き・指押え	灰赤褐色	内形穿孔、外面に丹塗り・凹線・黒底	20213
006	27		S X 105	壺		(14.6)			内外面とも刷毛目・ナダ	明褐色		20208
007	27		S X 106	壺	(49.6)	最大径 (55.0)			内面刷毛目・指押え、外面へつ磨き	褐色	外面に丹塗り	20214
008	27	16	S X 106	壺	30.5	12.7	45.5		内面刷毛目・底ナダ、外面へつ磨き	褐色	外面に凹線・黒底	20215
009	28	16	S X 107	壺	最大径 (42.0)	(11.8)			内面ナダ、外面へつ磨き・ナダ	灰褐色	外形、外面に丹塗り・黒底	20216
010	28		S X 108	壺	(36.4)	最大径 (47.4)			内面ナダ・指押え、外面へつ磨き	褐色	外面に丹塗り?・黒底・凹線	20217
011	28	17	S X 108	壺	最大径 (47.5)	(12.4)			内面ナダ、外面へつ磨き・刷毛目	暗褐色	内形穿孔、外面に丹塗り・凹線	20218
012	28		S X 109	壺	(41.0)	最大径 (47.6)			内面刷毛目・指押え・ナダ、外面へつ磨き	褐色		20219
013	28	17	S X 109	壺	(32.2)	13.2	63.2		内面刷毛目・指押え、外面へつ磨き・刷毛目	暗褐色	内形穿孔、外面に凹線	20220
014	29		S X 110	壺	(35.5)	最大径 (47.0)			内面刷毛目、外面へつ磨き	明褐色	外面に丹塗り?・凹線	20221
015	29	17	S X 110	壺	(25.2)	13.8	48.5		内面刷毛目、外面へつ磨き・刷毛目	暗褐色	内形穿孔、外面に丹塗り	20222
016	29		S X 111	壺	(33.5)				内面刷毛目、内面刷毛目・指押え、外面ナダ	褐色	外面に黒底	20205
017	29		S X 111	壺	(28.9)	(12.9)	(55.0)		内面ナダ、外面刷毛目・ナダ?	赤褐色	外面に丹塗り・黒底	20223
018	29		S X 115	壺	(40.6)	最大径 (55.0)			内面刷毛目、外面へつ磨き	灰褐色	外面に丹塗り・黒底	20224
019	29	17	S X 115	壺	(32.5)	15.1	64.6		内面刷毛目、外面へつ磨き・ナダ、外面へつ磨き・刷毛目	灰褐色	内形穿孔、外面に丹塗り・凹線・黒底	20225
020	29	17	S X 116	壺	最大径 (35.7)	(10.8)			内面刷毛目・ナダ、外面へつ磨き	褐色	内形穿孔、外面に凹線	20227
021	30		S X 117	壺	(36.3)	最大径 (44.8)			内面ナダ?、外面へつ磨き	灰褐色	外面に丹塗り・凹線・黒底	20228
022	30	17	S X 117	壺	(39.0)	14.4	56.5		内面刷毛目、外面へつ磨き・刷毛目	明褐色	内形穿孔、内面に丹塗り、外面に凹線・黒底	20229
023	30		S X 118	壺		(12.6)			内面ナダ?、外面刷毛目	灰褐色		20207
024	31		b区SD100・I区	壺	(25.6)				外面刷毛目、底ナダ	明褐色		20196
025	31		d区灰土	壺		5.4			内面刷毛目・指押え、外面ナダ	灰褐色		20156
026	31		a区SD1001	壺		(8.2)			内面刷毛目・ナダ、外面ナダ	褐色		20112
027	31		a区SD1001	壺		(6.7)			内面刷毛目、外面刷毛目・ナダ	褐色		20114
028	31		a区SD1001	壺		(8.0)			内外面ともナダ・横ナダ	灰褐色		20111
029	31		a区SD01-5区	壺		9.0			内面指押え	灰褐色		20140
030	31		a区SD100・I区	壺		(9.3)			内外面ともナダ?	褐色		20197
031	31		a区SD01・5区	壺		(7.9)			内外面ともへつ磨き?	灰褐色		20139
032	31		b区SD100・II区	壺		11.9			内外面ともナダ	灰赤褐色		20199
033	31		a区SD1001	壺		2.9			外面刷毛目、底へつ磨き	明茶色		20201
034	31			壺		(11.2)			内面刷毛目、外面刷毛目・磨き	灰褐色		20200

第7表 掲載弥生土器一覧

遺物番号	期	版	出土遺構	遺物種類	口径	底(脚)径	高さ	調整	色調	その他の特徴	登録番号
1	33	19	S K20	棒状土製品					灰黒色～ 灰色		03075
2	#	#	S K20	棒状土製品					灰黒色～ 灰色		03076
3	#	#	S K20	棒状土製品					灰黒色～ 灰色		03077
4	#	#	S K20	棒状土製品					灰黒色～ 灰色		03078
5	#	#	S K20	棒状土製品					灰黒色～ 灰色		03079
6	#	#	S K20	棒状土製品					灰黒色～ 灰色		03080
7	#	#	S K63	白磁碗			6.7		灰白色(薄 黄)(脚) 灰白色(脚 上)		03081
8	#	#	S K63	青磁碗			5.2		褐色(脚) 灰黄色(脚 上)	龍泉窯系	03082
9	#	#	S K63	青磁碗	(14.9)				灰緑色(脚) 灰色(脚上)	龍泉窯系	03083
10	#	#	S K63	青磁皿	(10.6)	3.4	2.4		灰 灰 緑 色 (脚) 灰色(脚上)	龍泉窯系	03084
11	#	#	S D01	土師器小皿	9.8	7.3	1.1	体部横ナゲ、内蓋部ナゲ	淡灰褐色	底部回転ヘラ切り、板状圧痕	05028
12	#	#	S D01	土師器小皿	9.8	7.2	1.2	体部横ナゲ、内蓋部ナゲ	黄褐色	底部回転ヘラ切り、板状圧痕	05029
13	#	#	S D01	土師器小皿	9.8	7.5	1.2	体部横ナゲ、内蓋部ナゲ	淡赤褐色	底部回転ヘラ切り、板状圧痕	05030
14	#	#	S D01	土師器小皿	10.9	7.7	1.3	体部横ナゲ、内蓋部ナゲ	淡灰褐色	底部回転ヘラ切り、板状圧痕	05031
15	#	#	S D01	土師器杯	(11.0)	7.0	2.0	体部横ナゲ、内蓋部ナゲ	淡赤褐色	底部回転ヘラ切り、板状圧痕	05032
16	#	#	S D01	土師器杯	12.5	7.5	3.2	体部横ナゲ、内蓋部ナゲ	淡赤褐色	底部回転ヘラ切り、板状圧痕	05033
17	#	20	S D21	白磁碗	(16.4)				灰白色(脚) 灰白色(脚 上)		05034
18	#	#	S D21	白磁碗			6.6		白色(脚) 灰白色(脚 上)		05035
19	#	#	S D21	白磁皿			3.0		灰色(薄黄) (脚) 灰色(脚上)		05036
20	#	#	S D21	青磁小碗			5.0		褐色(脚) 灰色(脚上)		05037
21	#	#	S D21	青磁碗	(16.0)				褐色(脚) 灰色(薄黄) (脚上)	龍泉窯系	05038
22	#	#	S D21	青磁杯	(15.4)				灰緑色(脚) 灰色(脚上)	龍泉窯系	05039
23	34	#	S D01	土師器鍋	35.2	20.5			褐色～ 暗褐色		05040
24	#	#	S D01	土師器釜					褐色～ 暗褐色		05041
25	#	19	S D100	鉄製紡錘車							07026
26	#	#	S D100	鉄釘							07027
27	#	#	S D100	鉄釘							07028
28	#	20	表土	須恵製片口鉢		9.5		体部外面横ナゲ、内蓋部ナゲ	青灰色	底部回転ヘラ切り	08001
29	#	#	S D01	青白磁合子	(5.3)	(4.6)	2.5		灰白色(脚) 白色(脚上)		05042
30	#	19	S X17	滑石製品							30027
31	#	20	表土	青磁碗			7.8		オリーブ濁 色(脚) 灰色(脚上)	龍泉窯系	08002

第8表 掲載古代・中世遺物一覧

o b ; 黒曜石、P.S.S.Q ; 楔形石剣、A-Head ; 石鏃、C.R.F ; 石核再生剣片

登録番号	出土地点	器種	材質	法量(長×幅×厚(単位cm))	特長・備考	重量(g)	採掘地
840830001	10-a, SK-001	磨石	玄武岩	150.5×120.5×59.0	縄文時代、両面に磨れあり 火を焚きもろく 使った	1,220	22
30002	# #	砥石	砂岩	154.0×153.0×60.8	#	1,680	#
30003	10-a, SK-202	磨製石斧	閃緑岩	42.5×64.5×22.5	弥生時代、刃部のみ	49.2	32
30004	# SD-1008	柱状石斧	頁岩	66.0×50.5×22.5	# 上・下端欠損	130	#
30005	# #	石剣	凝灰岩	42.5×31.0×7.5	# 平削されている	10.3	#
30006	# #	磨製石鏃	粘板岩	48.0×11.0×6.0	# 鞘部式石鏃	3.4	#
30007	# #	#	#	71.5×14.0×7.0	# #	6.8	#
30008	# #	勾玉	燧石	22.0×18.0×6.0	# 未製品か	2.5	#
30009	# #	砥石	砂岩	84.4×92.8×39.8	縄文時代、平削されている	440	22
30010	10-b, SD-100	#	硬質砂岩	70.5×75.3×33.2	弥生時代、全周が砥石面	260	32
30011	# #	#	#	68.5×87.0×31.8	# 全周が砥石面 半分以上欠損	220	#
30012	# #	挿入石斧	桂岩	83.5×39.0×35.0	# 刃部欠損	180	#
30013	# #	大型給刃石斧	玄武岩	120.2×67.3×40.0	# #	510	#
30014	# #	砥石	砂岩	95.8×31.5×11.7	# 小量で全周砥石	33.2	#
30015	# #	#	粘板岩	96.0×65.0×8.5	# 平削されている	68.9	#
30016	# #	石磨丁	輝緑凝灰岩	56.0×61.0×7.0	# 平削されている	26	#
30017	10-a, SD-110	砥石	硬質砂岩	91.0×82.3×52.0	# 全周砥石面	680	#
30018	# #	磨製石斧	砂岩	73.5×73.0×20.1	# 磨製の残存部を 絶頂としている	150	#
30019	# #	大型給刃石斧	玄武岩	120.5×73.5×46.0	# 欠損・刃部欠損	530	#
30020	# SD-01	磨製石斧	#	89.0×65.5×17.0	# 研削部 未製品	113.95	#
30021	# SD-14	砥石	硬質砂岩	44.5×54.0×41.0	# 上・下端欠損	145.9	#
30022	10-d, Pit-1	磨製石斧片	凝灰岩	50.1×35.5×8.7	# 平削、研削部欠	21.4	#
30023	10-b, Pit-2041	#	#	47.0×36.8×15.0	# 刃部のみ残存、 研削部欠	24.1	#
30024	#, Pit-2216	砥石	粘板岩	126.0×56.0×23.4	# 平削	220	#
30025	10-a, SD-01	#	玄武岩	100.5×55.5×45.0	# 上・下周が砥石	390	#
30026	10-b, Pit-2593	#	硬質砂岩	45.0×43.5×8.0	# 全周、砥石面	24.75	#
30027	欠番	—	—	—	—	—	—
30028	# 黄土	石磨丁	凝灰岩	35.0×48.0×6.2	弥生時代、平削されている 未製品	10.9	32
30029	# #	#	#	33.5×28.0×8.5	# 四辺形で一尖	41.2	#
30030	# #	#	#	51.0×114.0×6.0	# 研削が丁寧 大型三角	54.35	#
30031	# #	磨製石斧	#	57.5×69.0×33.5	# 刃部のみ研削部 欠	120	#
30032	# #	#	玄武岩	135.0×84.0×20.0	# 削打部欠、一部 未製品、平削している 研削は丁寧	280	#
30033	10-d #	砥石	砂岩	60.5×43.0×25.5	# 前面三角形を呈 する	64.2	#
30034	10-a, SD-1000	磨製石斧	凝灰岩	59.0×49.0×18.0	縄文時代、平削、両面研削	70	22
30035	# #	折衝剣片	サヌカイト	33.5×51.5×14.5	# 自然磨石、縦割 ぎ、Cタイプ	24.3	19
30036	# #	#	#	53.5×44.0×11.5	# P-13 自然磨石、縦割 ぎ、C5タイプ	19.2	#
30037	# #	Side-Scraper	#	31.5×35.5×11.0	# 折衝部有 C5タイプ	10.8	#
30038	# #	Side-Scraper	#	50.0×29.5×13.0	# 折衝部有 C4タイプ	17.0	#
30039	# #	A-Head	#	19.0×14.0×2.2	# A1タイプ-1	0.6	#
30040	# #	#	#	19.0×11.5×1.6	# 三角磨 A5タイプ	0.3	#
30041	# #	#	o b 黒曜石	18.1×16.0×2.5	# A2タイプ	0.4	#
30042	# #	#	#	24.0×15.0×2.5	# 磨部一部欠損、三角磨 A 2タイプ	0.7	#
30043	# #	#	#	22.0×14.5×2.2	# 削片磨 A1タイプ-1	0.6	#
30044	# #	#	#	14.8×21.0×2.2	# #	0.35	#
30045	# #	#	#	17.5×14.2×2.5	# 三角磨 A2タイプ	0.4	#
30046	# #	#	#	19.0×18.0×3.0	# A1タイプ-2	0.8	#
30047	# #	#	#	18.0×16.0×3.2	# 挿入有 磨・削欠損 A4 タイプ	0.7	#
30048	# #	#	#	12.0×15.5×3.0	# 三角 磨	0.3	#
30049	# #	#	#	30.5×19.0×3.2	# 大型三角磨 A2タイプ	1.2	#
30050	# #	#	#	22.0×13.0×2.5	# 削片磨(挿入有) A1タイプ	0.4	#

第9表 第10地点出土石器一覧1

登録番号	出土地点	器種	材質	法長(長×幅×厚)(単位mm)	特長・備考	重量(g)	図印No.
84083051	10-a, S D-1000	A-Head	o b	20.0×17.0×4.2	削片類 A1タイプ-1	1.1	17
30052	# S D-1002	Core (石核)	#	27.5×35.0×26.0	C2タイプ 自然面有	23.75	16
30053	# S D-1000	#	#	29.7×43.4×23.6	行面自然面 C2タイプ	29.55	#
30054	# #	#	#	34.2×32.0×22.4	行面が三方有 C5タイ	18.8	#
30055	# #	#	#	45.0×29.5×15.2	保留再生 C4タイプ	17.15	#
30056	# #	#	#	29.5×36.5×15.0	C3タイプ	12.6	#
30057	# #	#	#	20.2×23.5×20.1	C1タイプ	9.3	#
30058	# #	#	#	21.4×33.0×19.1	行面自然面 C5タイプ	13.4	#
30059	# #	#	#	24.8×30.0×14.0	行面平砥 C5タイプ	8.85	#
30060	# #	#	#	19.0×26.2×18.0	行面自然面 C2タイプ	9.6	#
30061	# #	#	#	21.0×22.8×19.0	# C4タイプ	6.9	#
30062	# #	#	#	30.5×44.0×17.5	# C2タイプ	20.5	#
30063	# #	C.R.F	#	32.0×24.0×11.5	石核再生削片 C4タイプ 行面自然面	7.0	19
30064	# #	#	#	33.5×22.0×5.5	自然面有 C5タイプ 打 面平砥	2.95	#
30065	# #	#	#	28.0×18.0×6.0	行面調整 C1タイプ	3.1	#
30066	# #	End-Scraper	#	28.5×34.0×13.0	自然面有 C3タイプ	18.3	17
30067	# #	U-Flake	#	32.5×30.1×5.0	C, 裏, 厚を利用したと推わ れる C3タイプ	3.6	20
30068	# #	Scraper	#	33.2×17.0×6.5	C5タイプ ナイフ型石核 の背面をしている	4.1	17
30069	# #	Drill	#	26.5×14.5×6.0	断面が○ C2タイプ 自 然面有	1.4	18
30070	# #	Graver	#	32.2×14.0×9.5	上・下2方向に彫削刃面有	3.95	#
30071	# #	Toll	#	32.5×9.5×6.0	断面一向形で端部に加工有	1.9	#
30072	# #	つまみ形石器	#	24.0×24.5×6.2	C2タイプ 行面自然面	4.1	#
30073	# #	P.S.S.Q	#	20.4×20.0×7.0	バネ状む 使用石器	2.5	#
30074	# S D-100	Side-Blade	#	17.5×21.2×6.2	行面平砥 C3タイプ	2.4	#
30075	# S D-1000	#	#	20.0×14.0×5.4	C2タイプ 折断有 行面 自然面	1.15	#
30076	# #	#	#	17.0×16.0×2.5	C1タイプ	0.8	#
30077	# #	#	#	20.2×15.0×2.4	行面自然面 C2タイプ	1.2	#
30078	# #	#	#	21.0×19.0×3.0	C1タイプ 折断有	0.6	#
30079	# #	Side-Scraper	#	53.2×23.2×6.5	行面調整 C1タイプ 自 然面有	8.0	20
30080	# #	U-Flake	#	49.5×21.0×4.0	行面調整 C1タイプ	3.55	#
30081	# #	#	#	40.0×27.5×6.2	行面自然面 C4タイプ	7.3	#
30082	# #	#	#	29.0×44.5×7.5	行面自然面 C5タイプ	6.85	#
30083	# #	#	#	48.0×22.2×7.6	行面調整 C5タイプ	3.7	#
30084	# #	#	#	45.0×19.0×9.5	平砥行面 C1タイプ 自 然面有	6.1	#
30085	# #	#	#	41.0×24.0×7.5	行面自然面 C2タイプ	3.6	#
30086	# #	折断削片	#	38.2×27.5×10.0	行面平砥 C3タイプ	6.6	#
30087	# #	U-Flake	#	40.5×21.4×6.8	使用痕有 C2タイプ 自 然面有, 酸化が濃入している	6.15	21
30088	# #	#	#	32.0×18.6×5.5	# 行面自然面 C 2タイプ	2.55	#
30089	# #	折断削片	#	27.2×17.0×7.3	行面調整 C3タイプ	2.75	19
30090	# #	サマカイト	#	23.8×13.5×4.0	行面平砥 C5タイプ	1.2	17
30091	# #	U-Flake	o b	25.0×44.2×7.9	行面自然面 C4タイプ	6.15	20
30092	# #	#	#	29.1×21.3×4.0	行面調整 自然面有 C1 タイプ	2.95	21
30093	# #	#	#	31.0×22.0×7.0	行面平砥 C1タイプ 自 然面有	4.3	20
30094	# #	#	#	33.0×20.0×5.0	行面自然面 C2タイプ	4.0	#
30095	# #	#	#	27.0×20.0×5.0	# C5タイプ	2.1	#
30096	# #	#	#	28.0×17.0×5.2	平砥行面 C5タイプ	2.25	#
30097	# #	#	#	32.5×11.5×4.0	行面自然面 (削片スボール 状) C1タイプ	1.55	21
30098	# #	#	#	23.0×27.0×5.0	# step flaking し ている C2タイプ	3.85	20
30099	# #	折断削片	#	21.2×30.5×8.2	# C5タイプ	3.65	19
30100	# #	U-Flake	#	28.2×20.5×4.0	# C2タイプ	2.35	21

第10表 第10地点出土石器一覧2

登録番号	出土地点	器種	材質	長さ(長×幅×厚)(単位cm)	特長・備考	重量(g)	編入No.
840830101	10-a, SD-1000	U-Flake	o b	30.0×22.0×6.2	折断片 C3タイプ	2.9	19
30102	# # #	#	#	23.0×11.5×2.5	調整打面 C3タイプ	0.75	20
30103	# # #	#	#	24.5×13.5×3.5	調整打面 C1タイプ	0.9	20
30104	# # #	Flake	#	26.0×16.5×5.0	自然面有 C2タイプ	2.3	21
30105	# # #	#	#	34.5×24.5×4.5	自然面有 C4タイプ	3.25	#
30106	# SD-100	#	#	37.0×16.5×3.0	打面自然面 C2タイプ	2.1	#
30107	# SD-1000	#	#	34.0×17.2×5.2	自然面有 C2タイプ	2.9	#
30108	# # #	#	#	34.0×18.5×7.2	# C2タイプ	4.7	#
30109	# # #	#	#	36.0×19.8×8.0	# C2タイプ	4.65	#
30110	# # #	#	#	36.5×23.5×7.0	# C5タイプ	4.35	#
30111	# # #	#	#	33.5×25.0×5.0	# C1タイプ	3.85	#
30112	# # #	#	#	30.0×27.0×5.2	打面自然面 C2タイプ	2.7	20
30113	# # #	#	#	27.0×19.0×2.2	打面剥片 打面自然面 C5タイプ	1.45	19
30114	# SD-16	U-Flake	#	17.8×28.5×6.5	上、下二方向の削痕がある C4タイプ	2.7	21
30115	# SD-1000	Flake	#	22.0×14.5×1.8	打面自然面 風蝕面の産地が異なる C3タイプ	0.85	21
30116	10-b, SD-100	打製石斧	安山岩	128.5×84.5×17.2	1方向からの斜縁部石斧	182.65	22
30117	# # #	#	凝灰岩	64.0×67.2×12.0	上端欠損	79	#
30118	# # #	打製石斧片	安山岩	111.0×54.5×12.0	C5タイプの斜縁である	74	#
30119	10-a, SD-1003	C.R.F	o b	45.0×23.0×12.8	打面剥片 C5タイプ 自然面有	74.5	19
30120	10-b, SD-100	A-Head	#	16.8×17.0×4.0	A6タイプ	1.0	17
30121	# # #	Scraper	#	33.8×15.0×3.5	自然面有 C2タイプ	2.2	20
30122	# # #	#	#	29.0×13.0×7.0	折断面有 断面三角形 複製に加工有	2.2	18
30123	# # #	Side-Blade	#	24.0×13.5×5.5	C1タイプ 自然面有	1.95	#
30124	# # #	End-Scraper	#	28.0×27.5×5.5	打面調整 C1タイプ	3.5	17
30125	# # #	つまみ形石剣	#	25.0×19.5×4.0	C5タイプ	1.85	18
30126	# # #	End-Scraper	#	16.0×22.5×8.5	C5タイプ	3.05	19
30127	# # #	U-Flake	#	29.5×17.0×3.5	打面自然面 C2タイプ	1.6	20
30128	# # #	#	#	20.8×22.0×7.0	折断片 調整打面 C1タイプ	1.8	19
30129	# # #	#	#	23.0×12.0×4.0	調整打面 C1タイプ 自然面有	0.9	#
30130	# # #	#	#	25.0×11.0×2.5	調整打面 C3タイプ	0.65	20
30131	# # #	#	#	31.2×25.0×5.4	平縁打面 C3タイプ	3.9	#
30132	# # #	#	#	36.5×25.0×4.0	自然面有 C5タイプ	4.3	#
30133	10-a, SD-01	打製石斧	安山岩	148.9×70.7×21.3	C5タイプ	220	22
30134	# SD-03	磨製石斧	蛇紋岩	89.1×42.0×21.0	全磨製	135.35	#
30135	# # #	Core	ヤヌカイト	94.4×87.4×22.4	自然面 C5タイプ	186.65	#
30136	# SD-01	End-Scraper	#	37.1×27.5×10.7	C5タイプ 半削されている	9.0	18
30137	# # #	Core	#	44.3×23.0×18.4	1R C5タイプ	24.25	16
30138	# # #	A-Head	o b	22.8×15.1×8.0	A5タイプ	1.4	17
30139	# # #	Side-Blade	#	21.1×15.0×3.5	折断面有 C3タイプ	1.65	18
30140	# # #	Side-Scraper	#	32.6×27.3×8.4	調整打面 C3タイプ	9.6	19
30141	# # #	#	#	29.1×17.6×3.4	C1タイプ 調整打面	1.6	20
30142	# # #	#	#	30.1×32.0×10.5	コンテップの可能性有 C5タイプ	6.5	18
30143	# # #	U-Flake	#	31.1×16.7×7.1	C5タイプ 自然面有 折断面有	3.5	20
30144	# # #	Side-Blade	#	16.1×12.9×2.2	折断面有	0.5	18
30145	# # #	#	#	16.0×20.1×3.1	C1タイプ 折断面有	1.4	#
30146	# # #	#	#	15.5×15.2×4.7	C2タイプ	1.2	#
30147	# # #	U-Flake	#	51.5×22.4×5.2	打面下縁 自然面有 C5タイプ	6.0	20
30148	# # #	Flake	#	21.0×10.8×2.6	打面自然面 C2タイプ	0.45	21
30149	# SD-02	P.S.S.Q	#	13.5×18.4×4.1	断面レンズ状を呈する	1.3	18
30150	# # #	C.R.F	#	38.5×31.4×9.8	打面自然面 側面再剥片 C2タイプ	13.05	19

第11表 第10地点出土石器一覧3

登録番号	出七地点	器種	石質	法量(長×厚×重)(単位mm)	特長・備考	重量(g)	押印No
840830151	10-a, SD-03	Flake	o b	31.9×35.1×10.0	打面自然面 C2タイプ	7.6	21
30152	# SD-04	打製石片	安山岩	58.0×47.6×20.2	切片を再利用	60.0	22
30153	# #	Flake	#	39.0×15.5×5.4	打面自然面 C2タイプ	3.3	20
30154	# #	U-Flake	#	40.1×25.2×5.8	C1タイプ 自然面有	4.7	21
30155	# SD-08	Core	#	33.2×43.6×11.3	背面に自然面 C5タイプ	15.35	16
30156	# #	U-Flake	#	26.4×14.3×3.8	打面自然面 C2タイプ	1.45	17
30157	# SD-10	P.S.S.Q	#	17.0×13.5×5.0	断面レンズ状を呈する折断面	1.5	18
30158	# SD-11	打製石片	安山岩	142.5×48.4×16.0	C5タイプの製	128.15	22
30159	# #	折断切片	サヌカイト	24.8×27.2×7.7	C5タイプ 自然面有	5.85	19
30160	# SD-12	石匙	#	38.5×49.1×6.8	折断面 打面平坦 C5タイプ	15.8	18
30161	# #	A-Head	o b	15.6×14.7×3.4	切片製 A1タイプ-2	0.5	17
30162	# #	End-Scraper	#	20.4×27.1×10.1	C5タイプ つまみ形石匙を能用	4.95	#
30163	# #	Scraper	#	22.9×40.7×8.2	折断面 C5タイプ	6.5	19
30164	# #	P.S.S.Q	#	20.6×21.8×7.6	C5タイプ	3.6	18
30165	# SD-13	A-Head	#	22.9×15.2×4.1	A1タイプ-1	1.0	17
30166	# #	Side-Scraper	#	21.3×33.4×10.3	C5タイプ	5.65	18
30167	# SD-14	折断切片	#	22.4×21.8×7.6	C5タイプ	4.45	19
30168	# SD-1001	Core	#	21.5×15.0×19.0	C5タイプ	4.75	16
30169	# #	#	#	16.0×30.0×17.0	連続的に三方から剥離する C5タイプ	7.6	#
30170	# #	Flake	#	20.0×13.0×3.0	透明度の高いo b C1タイプ	0.6	21
30171	# #	折断切片	#	25.0×17.5×6.0	C1タイプ	1.6	19
30172	# SD-1000	Core	#	25.5×30.0×19.5	C5タイプ	9.8	16
30173	# #	#	#	14.5×37.5×15.2	C2タイプ	7.15	#
30174	# #	#	#	20.0×30.6×19.5	C5タイプ	11.45	#
30175	# #	C.R.F	#	29.0×16.5×10.5	C4タイプ 石核再生切片 自然面有	4.0	19
30176	# #	折断切片	#	33.0×27.3×8.6	C5タイプ	4.85	#
30177	# #	Flake	#	34.2×24.5×5.5	自然面有 C3タイプ	4.45	21
30178	# #	折断切片	#	26.5×17.0×7.0	剥離打面 C1タイプ	2.0	19
30179	# #	C.R.F	#	45.9×13.5×10.8	使用痕有 自然面有 C5タイプ	4.0	#
30180	# #	Core	#	31.0×25.0×17.5	C1タイプ	7.8	16
30181	# #	U-Flake	#	31.0×15.0×4.0	打面平坦 C1タイプ	3.2	21
30182	# #	#	#	23.5×23.0×5.0	# C2タイプ	2.2	#
30183	# #	#	#	26.5×32.0×3.5	折断面 剥離打面 C3タイプ	2.0	19
30184	# #	#	#	43.5×22.5×5.8	新旧二つの剥離面有 C2タイプ	5.2	21
30185	# SD-1003	#	#	20.2×29.0×7.5	打面自然面 C2タイプ	4.45	20
30186	# #	C.R.F	#	24.2×18.0×8.0	C5タイプ	2.3	19
30187	# S.C-02	Flake	サヌカイト	40.5×29.5×12.4	C5タイプ 自然面有	11.9	21
30188	# #	#	o b	25.0×19.0×4.5	C3タイプ	1.85	#
30189	# SD-21	Side-Scraper	#	29.2×26.1×6.6	C5タイプ 自然面有	6.6	17
30190	# SD-20	A-Head	#	19.3×14.1×2.4	A3タイプ	1.0	#
30191	# SD-26	#	#	17.7×15.7×1.8	高厚磨製石匙 A1タイプ-1	0.5	#
30192	# #	#	#	16.9×13.2×1.9	A1タイプ-3	0.55	#
30193	# S.C-01	石匙	サヌカイト	26.5×70.5×7.0	#	9.5	#
30194	# #	Flake	#	51.0×56.0×6.2	C4タイプ	10.45	21
30195	# P-503	#	#	37.0×24.5×8.7	自然面有 C5タイプ	6.9	#
30196	# P-509	Side-Blade	o b	18.0×13.0×3.2	風文 折断面 C2タイプ	0.6	#
30197	# S.K-01	U-Flake	#	30.5×18.0×4.8	自然面有 折断面 C1タイプ	1.45	20
30198	# #	Core	#	24.8×30.7×18.0	C4タイプ	11.4	16
30199	# #	U-Flake	#	21.3×13.1×5.9	C1タイプ	2.85	20
30200	10-c, SD-01	#	#	34.0×20.0×7.5	C5タイプ	3.45	21

第12表 第10地点出土石器一覽 4

登録番号	出土地点	器種	材質	法量(長×幅×厚)(単位mm)	特長・備考	重量(g)	押印%
840830201	10-c, SD-01	Tool	o b	40.5×25.5×10.8	1区 C5タイプ 自然面有	9.4	19
30202	10-a, SD-104	End-Scraper	サヌカイト	54.0×51.1×6.5	折衝有 C2タイプ	16.5	18
30203	" "	Tool	"	38.5×20.0×8.1	C5タイプ	5.95	17
30204	" "	折衝削片	"	28.9×31.1×7.3	C5タイプ	7.45	19
30205	" "	A-Head	o b	19.5×11.9×3.2	削片跡 A5タイプ	0.6	17
30206	" "	Scraper	"	23.3×21.6×5.2	折衝削片 自然面有 C5タイプ	3.0	19
30207	" "	End-Scraper	"	25.8×30.5×10.0	C5タイプ	9.3	17
30208	" "	折衝削片	"	18.6×11.8×4.8	C2タイプ 打面自然面	1.8	19
30209	10-b, SD-103	A-Head	サヌカイト	30.0×12.5×2.7	A1タイプ-2	0.75	17
30210	10-a, SD-105	Blade	o b	61.3×24.5×7.5	調整打面 C3タイプ	13.0	20
30211	" SD-107	A-Head	"	22.6×14.8×2.5	削片跡 A1タイプ-3	1.05	17
30212	10-a, SD-101	Tool	"	66.1×25.3×10.3	C5タイプ	14.2	20
30213	" SD-104	クレーパー	"	36.3×21.3×8.0	削片尖部跡 C1タイプか	6.0	"
30214	" SK-1002	Flake	"	15.9×27.3×7.9	断面産 自然面有 C1タイプ	3.7	2
30215	" SK-206	石匙	サヌカイト	46.6×45.7×12.2	C3タイプ	21.5	18
30216	" SD-110	Core	o b	24.8×25.9×21.2	自然面有 C2タイプ	13.25	16
30217	" "	つまみ形石器	"	24.7×21.8×5.4	C1タイプ	3.4	18
30218	" "	折衝削片	"	24.0×15.2×3.3	自然面有	1.5	実測値 なし
30219	" SD-111	U-Flake	"	38.0×22.1×7.7	"	7.05	"
30220	" "	"	"	23.5×15.7×4.0	"	1.8	"
30221	" "	Flake	"	19.7×12.2×2.2	"	0.7	"
30222	" "	"	"	31.8×18.3×5.4	平衝跡多し	2.75	"
30223	" SD-114	A-Head	"	19.0×7.8×3.0	平衝	0.4	"
30224	"	欠番					
30225	" SD-114	End-Scraper	o b	23.4×18.7×6.6		3.3	実測値 なし
30226	" "	折衝削片	"	26.7×23.7×5.2	自然面有	3.7	"
30227	" SD-120	Flake	サヌカイト	53.3×35.5×8.7	"	21.5	"
30228	" "	"	o b	24.5×21.2×3.6	"	2.6	"
30229	" "	"	"	25.1×15.6×3.6	"	1.55	"
30230	" "	"	"	19.2×15.5×2.6	" 折衝有	1.0	"
30231	" "	"	"	27.6×14.7×3.6	"	2.0	"
30232	" SD-121	折衝削片	"	15.6×23.2×3.5	"	1.45	"
30233	" SD-125	Side-Scraper	"	27.1×21.3×6.5	自然面有	4.4	"
30234	" "	U-Flake	"	20.3×14.6×2.3	"	1.05	"
30235	"	欠番					
30236	"	"					
30237	"	"					
30238	"	"					
30239	"	"					
30240	10-a, SK-102	Flake	o b	30.9×20.5×7.1	自然面有	4.6	実測値 なし
30241	"	欠番					
30242	10-a, SK-206	Flake	o b	14.0×16.9×4.5	断面産	0.95	実測値 なし
30243	" SK-214	折衝削片	"	32.0×17.3×4.6	使用面有	3.1	"
30244	" SK-250	Flake	"	25.0×13.0×2.7	"	1.0	"
30245	" SK-01	磨製石斧	凝灰岩	90.3×78.7×13.8	"	187.7	22
30246	" "	"	砂岩	58.7×65.5×19.4	"	79.3	"
30247	" SK-503	End-Scraper	サヌカイト	64.0×53.0×14.4	C5タイプ	47.85	18
30248	10-d, Pit-5	砥石	花崗岩	130.5×79.5×42.2	断面が主に磁石質として使 用	830	32
30249	" Pit-1151	A-Head	o b	13.6×5.6×2.2	平衝 A1タイプ-3	0.15	17
30250	" Pit-1361	Side-Scraper	"	33.2×18.1×5.6	"	3.1	実測値 なし

第13表 第10地点出土石器一覽5

登録番号	出土地点	器種	材質	法長(長×幅×厚)(単位cm)	特長・備考	重量(g)	実測図
840830251	10-d, Pit-1502	Flake	o b	33.8×15.2×5.3	使用痕 自然面有	2.85	実測図なし
30252	# Pit-1591	折断削片	#	31.2×22.9×5.3	#	3.8	#
30253	# Pit-1628	A-Head	#	22.7×13.0×3.2	削片部 A1タイプ-2	1.1	17
30254	# #	Flake	#	43.0×16.3×6.6	自然面有	4.85	実測図なし
30255	10-b, Pit-2013	Side-Scraper	#	27.3×18.4×6.2	#	2.95	#
30256	# Pit-2023	Blade	#	57.4×36.6×13.6	自然面有 行面自然面 C2タイプ	25.95	21
30257	# Pit-2754	#	#	35.0×18.7×4.7	使用痕有 折断有 C2タイプ	3.75	#
30258	# Pit-2793	Scraper	#	82.6×27.4×11.8	折断・使用痕有 C3タイプ	25.8	18
30259	10-a, SX-01	Side-Scraper	#	27.2×21.6×5.5	自然面有	3.55	実測図なし
30260	# #	#	#	23.7×22.3×6.0	#	3.55	#
30261	# #	#	#	23.6×14.9×5.8	自然面 折断	2.85	#
30262	# #	P.S.S.Q	#	24.9×22.2×7.9	End-Scraperとも考えられる	4.45	#
30263	# #	つまみ形石器	#	19.1×18.4×5.8	使用痕 加工痕有	2.4	#
30264	# #	U-Flake	#	40.0×17.5×6.2	自然面有	4.1	#
30265	# #	#	#	24.7×19.6×6.2	#	3.9	#
30266	# #	#	#	24.2×22.4×6.1	#	2.35	#
30267	# SX-02	削片	安山岩	116.3×59.2×15.2	#	116.15	#
30268	# #	Side-Scraper	o b	43.6×27.2×12.3	自然面	13.1	#
30269	# SX-10	#	#	22.8×23.9×6.4	#	2.7	#
30270	# #	Flake	#	35.6×19.0×5.0	自然面有	4.05	#
30271	# SX-11	A-Head	#	15.3×16.2×2.9	未完成 A2タイプ	0.85	17
30272	# SX-38	Side-Scraper	#	17.0×27.7×7.0	#	3.75	実測図なし
30273	10-b, SX-53	Flake	#	27.0×11.3×2.6	#	1.65	#
30274	10-a, SX-100	折断削片	#	21.1×19.4×4.4	使用痕有	2.2	#
30275	# #	U-Flake	#	41.2×24.3×5.6	#	4.0	#
30276	# SX-500	#	#	43.0×29.9×6.0	#	6.15	#
30277	# SX-502	A-Head	柱岩	26.4×17.0×7.0	三角縁 A5タイプ	3.1	17
30278	# #	#	サマカイト	28.0×19.9×6.2	# A5タイプ	3.4	#
30279	# SX-503	C.R.F	o b	26.5×18.1×4.2	C5タイプ	8.9	21
30280	# 地山直上	玉	粘土	12.4丸	#	1.2	19
30281	# #	つまみ形石器	o b	21.9×17.6×6.2	使用痕有 C3タイプ 折断有	2.85	18
30282	# #	折断削片	#	20.2×15.1×5.8	# C5タイプ	2.3	19
30283	# #	#	#	18.1×11.9×2.1	自然面有	0.6	実測図なし
30284	# #	#	#	17.5×12.9×2.6	Side-Blade	0.75	#
30285	10-d, 包舎明	#	#	19.3×20.7×6.1	加工痕有	2.85	#
30286	# S-1	打製石斧	安山岩	139.0×75.0×28.3	折面が厚くレンズ状を呈する	360	22
30287	10-a, 表土	磨石	花崗岩	88.3×76.0×46.2	一部に研磨部分有	480	#
30288	10-a #	Core	サマカイト	48.8×29.9×17.0	C3タイプ	27.3	16
30289	10-d #	石匙	#	32.0×43.1×6.2	#	6.0	17
30290	# #	A-Head	o b	16.0×15.0×2.4	先端・側面欠損 三角縁 A2タイプ	0.6	#
30291	10-a #	#	#	13.1×12.0×2.3	製曲縁 A1タイプ-3	0.2	#
30292	# #	#	#	26.1×17.5×2.8	A4タイプ	1.15	#
30293	10-d #	折断削片	#	24.8×22.7×3.2	使用痕有	2.55	実測図なし
30294	# #	Side-Scraper	#	42.8×14.4×3.4	前	2.95	#
30295	# #	#	#	24.4×26.0×7.4	自然面有	5.8	#
30296	# #	#	#	25.1×16.0×7.1	折断	3.05	#
30297	# #	折断削片	#	18.8×11.3×1.9	自然面有 使用痕有	0.9	#
30298	# #	#	#	18.5×11.6×1.5	#	0.6	#
30299	# #	Flake	#	40.3×18.7×6.0	#	4.25	#
30300	# #	#	#	37.5×13.3×5.3	#	2.7	#

第14表 第10地点出土石器一覧6

圖 版

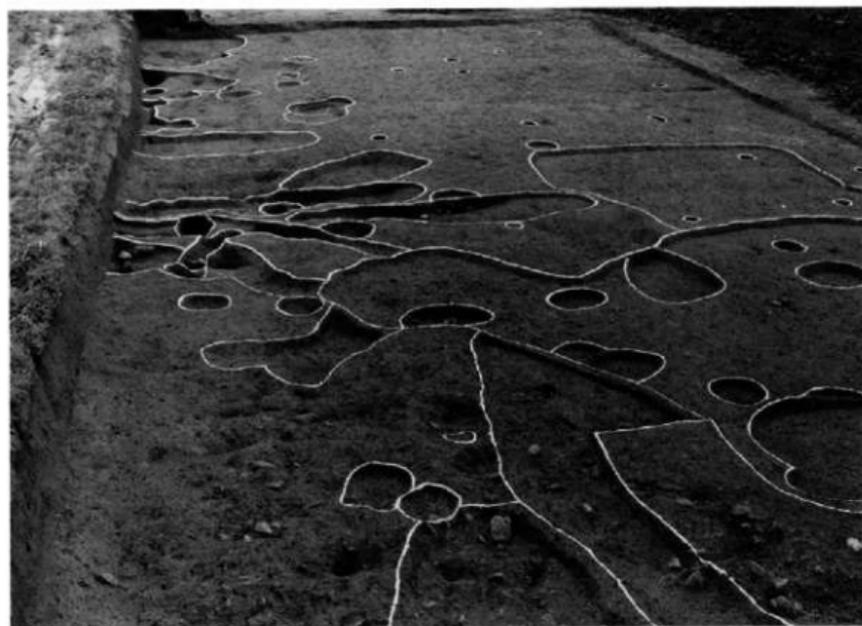


1

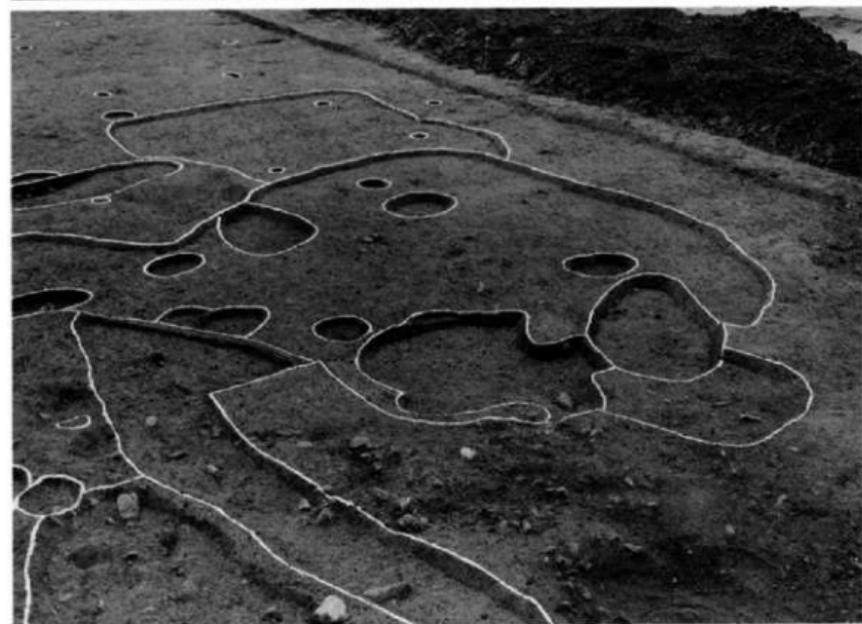


2

1) 田村遺跡第10地点全景 (南上空から) 2) SD1000 (南より)

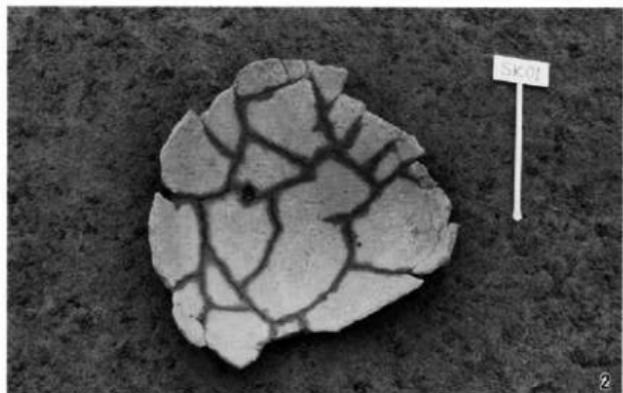


1

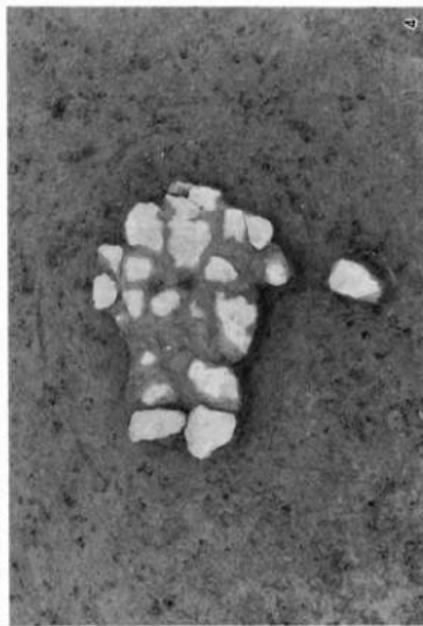
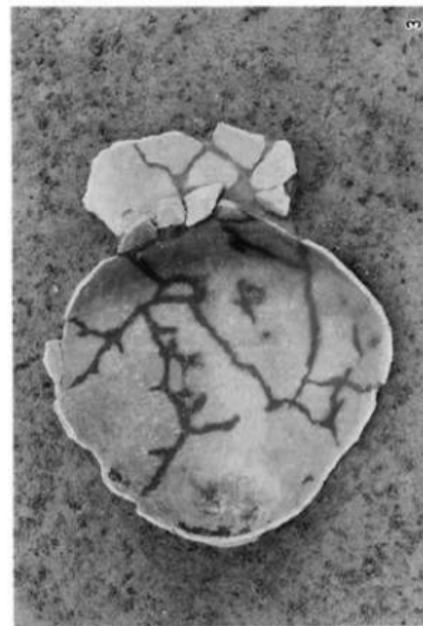
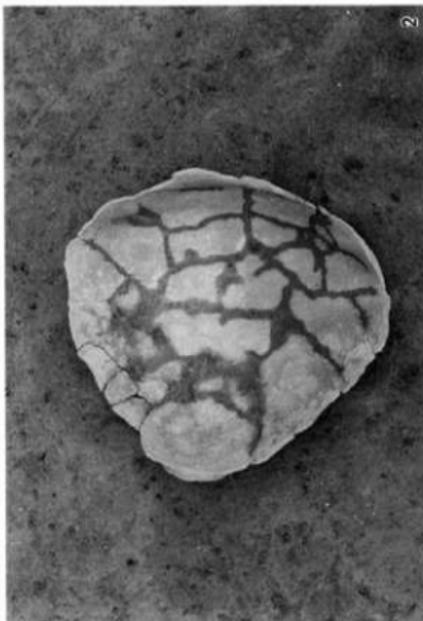
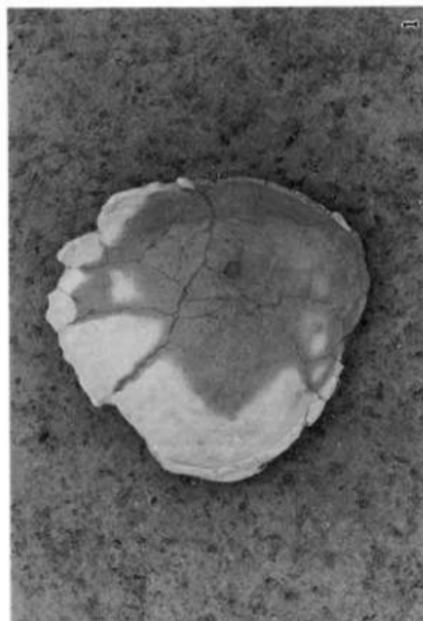


2

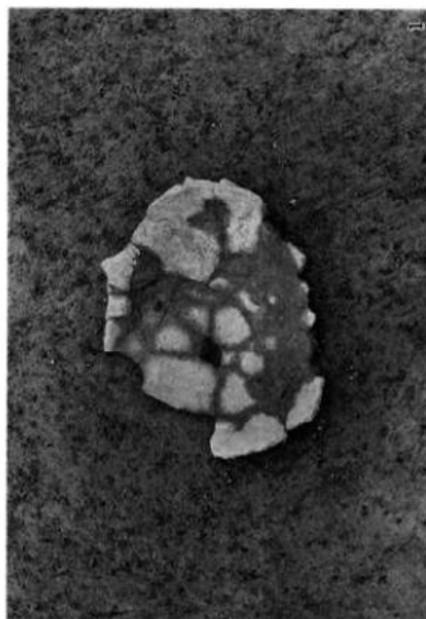
a区縄文遺構 1) 西から 2) 北西から



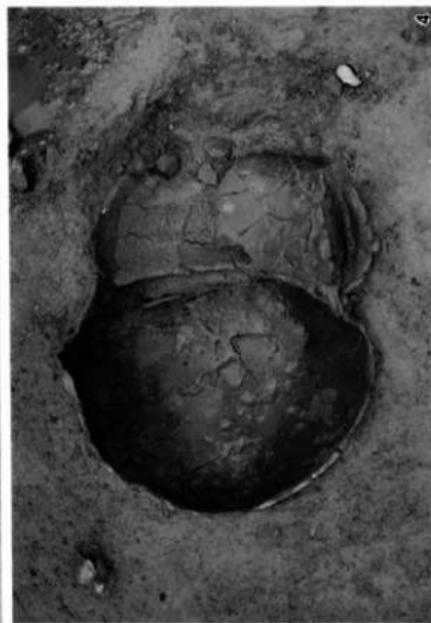
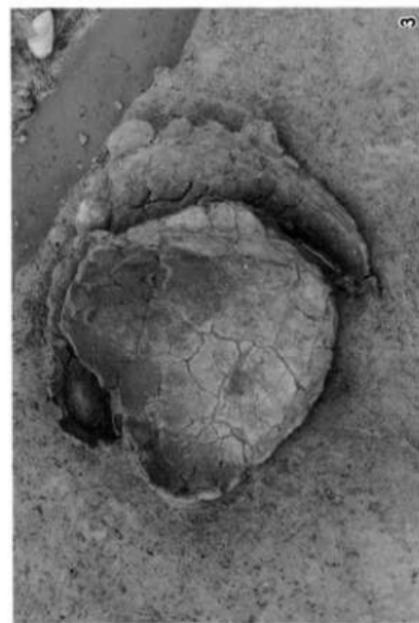
1) 墓棺墓地全景（南西から） 2) SX101 3) SX102



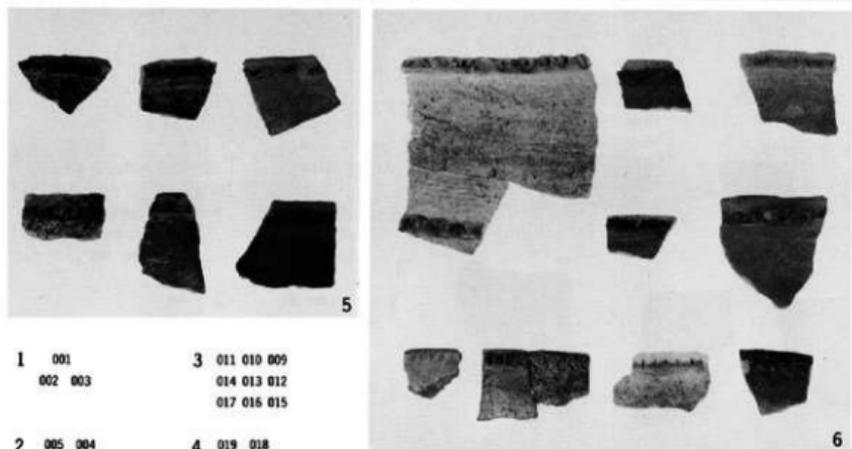
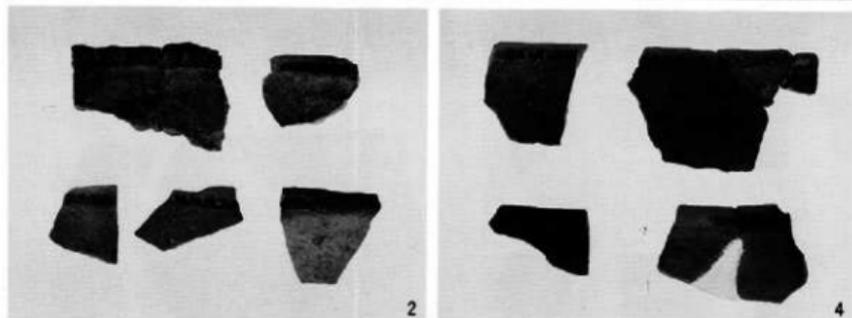
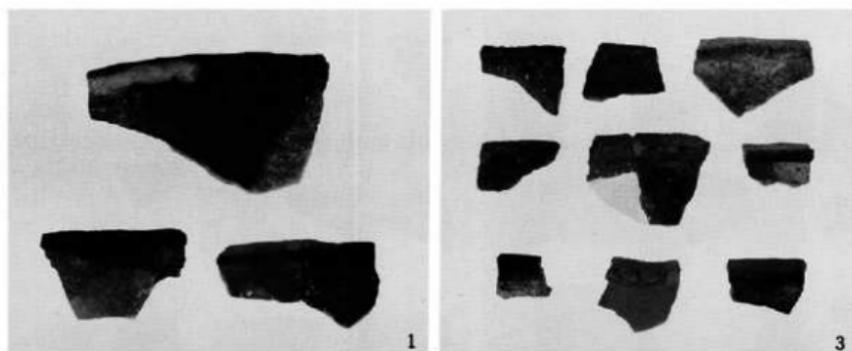
1) SX103 2) SX104 3) SX105 4) SX106



1) SX107 2) SX108 3) SX109 4) SX110



1) SX111 2) SX115 3) SX116 4) SX118



1 001
002 003

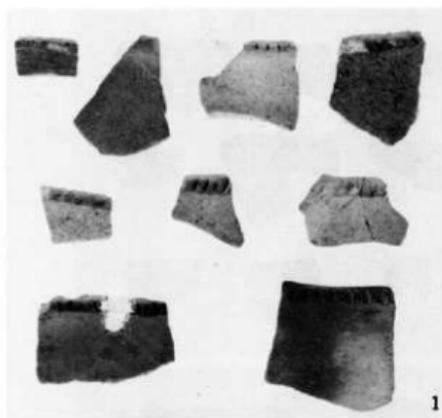
2 005 004
008 007 006

5 024 023 021
027 026 025

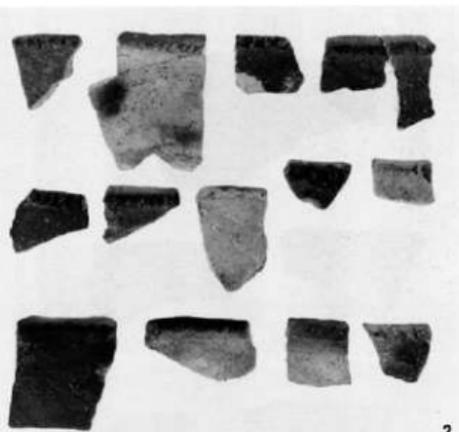
3 011 010 009
014 013 012
017 016 015

4 019 018
022 020

6 030 029 028
032 031
036 035 034 033



1



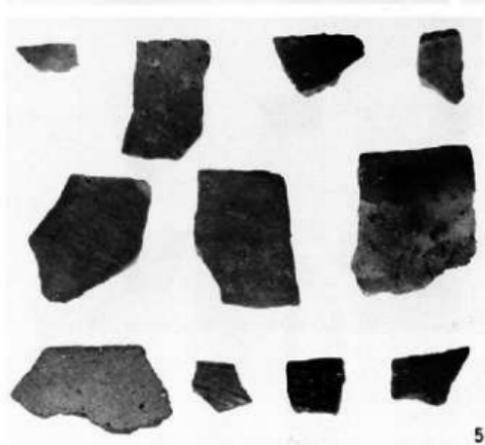
2



3



4



5

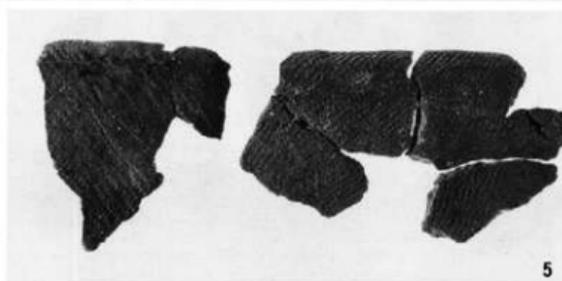
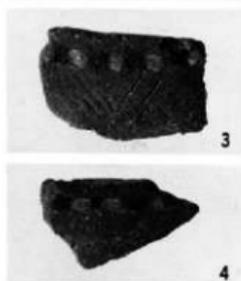
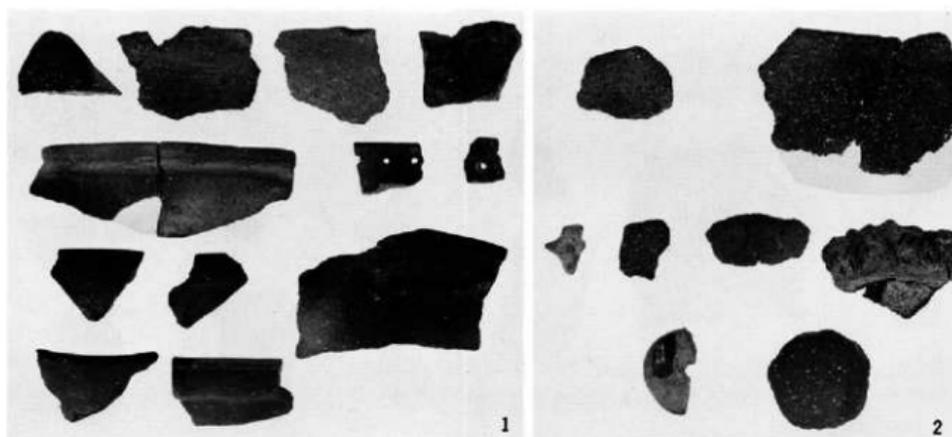
1 040 039 038 037
043 042 041
045 044

2 049 048 047 046
054 053 052 051 050
058 057 056 055

3 062 061 060 059
067 065 064 063
069 068

4 066

5 073 072 071 070
076 075 074
080 079 078 077



1 084 083 082 081
087 086 085
090 089 088
092 091

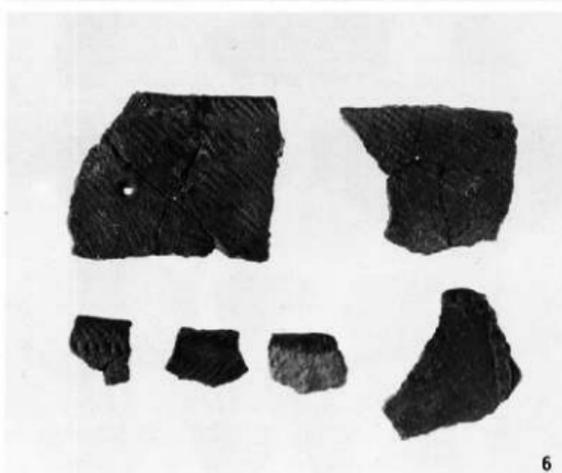
3 119

4 120

2 094 093
116 115 114 113
118 117

5 121 122

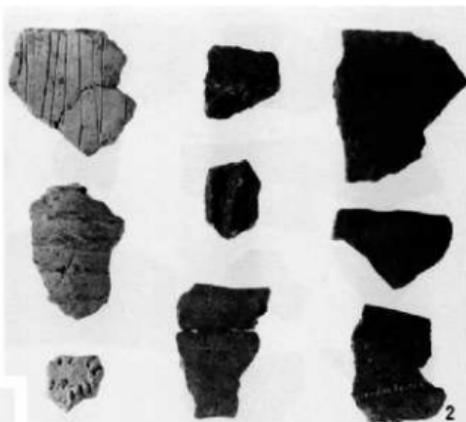
6 125 123
128 127 126 124



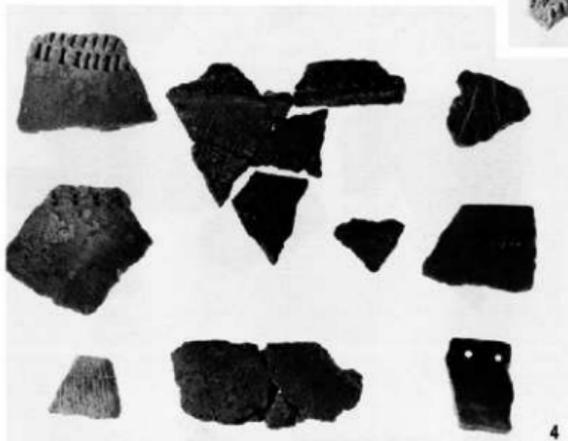
6



1



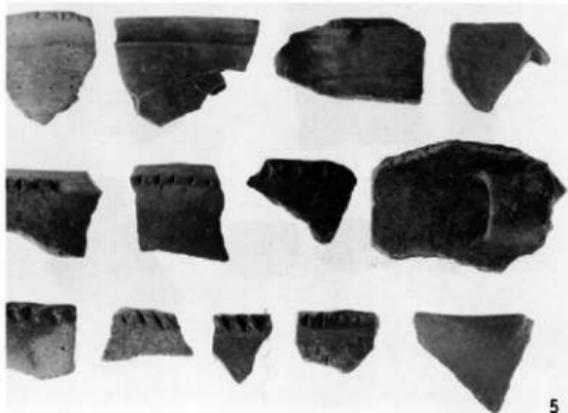
2



4



3



5

1 129 131 132
134
130 133 135

2 136 139 143
137 140 144
138 142 145

4 149 152 153
150 154 155
151 156 157

3 141

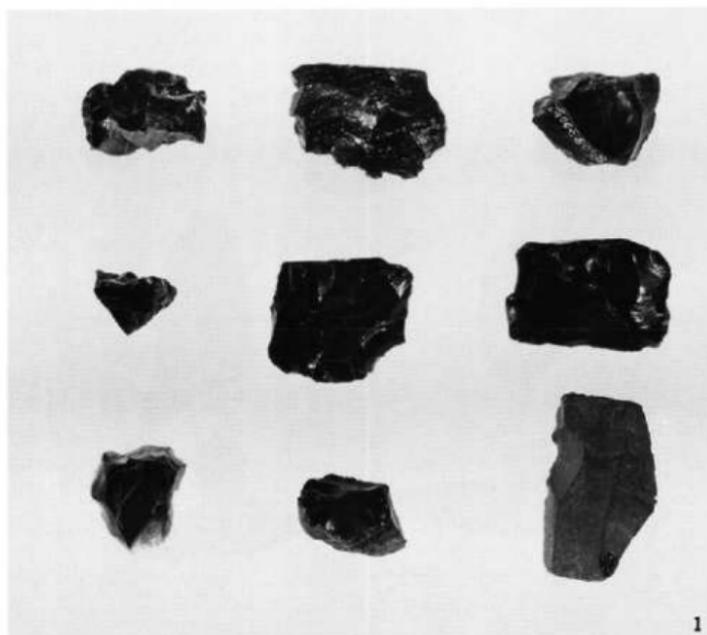
5 159 160 161 164
165 166 167 173
168 170 171 172 174

1

058 053 052

168 155 062

180 174 288



2

(1段目左から)

044 043 042

041 040 039

(2段目左から)

050 049 048

047 046 045

(3段目左から)

190 165 161

138 120 051

(4段目左から)

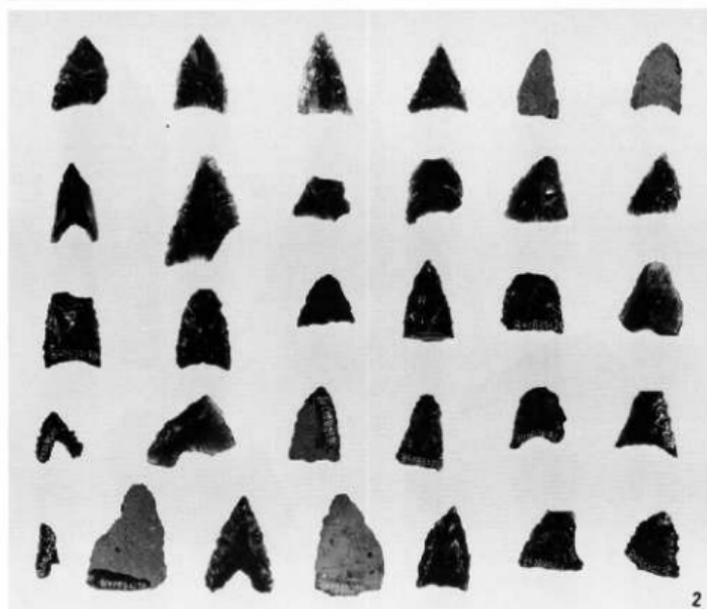
291 211 209

205 192 191

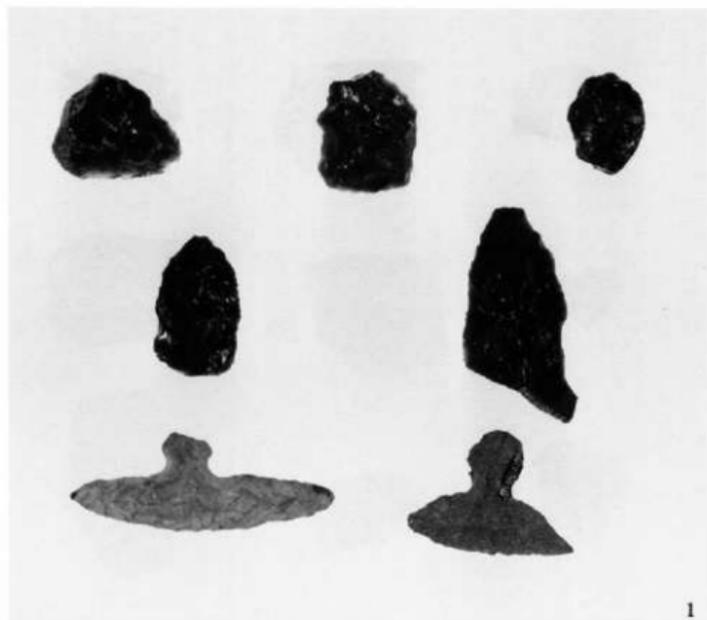
(5段目左から)

249 278 292

277 253 271 290



出土縄文石器 1



1

066 207 162

213 212

193 289

1



2

215 202 258

247 160

2

1

(1段目左から)

123 146 149

164 157

(2段目左から)

075 070 145

076 078

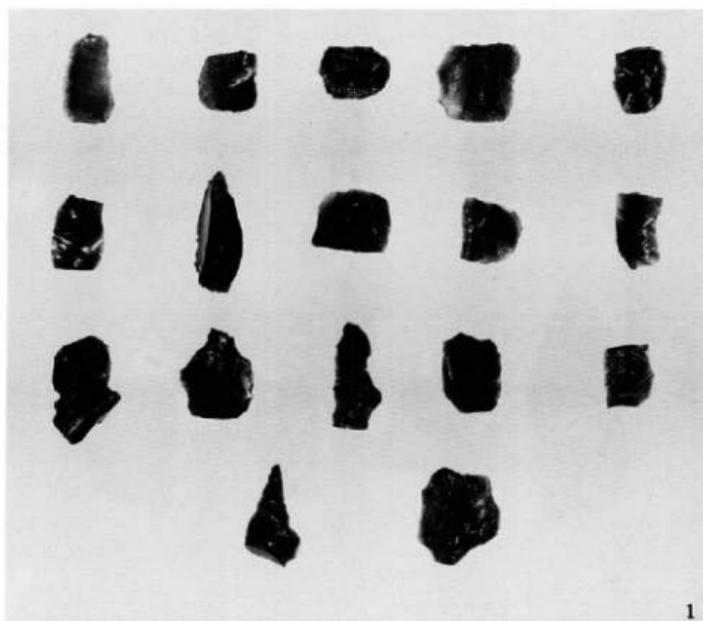
(3段目左から)

281 125 122

139 144

(4段目左から)

069 217

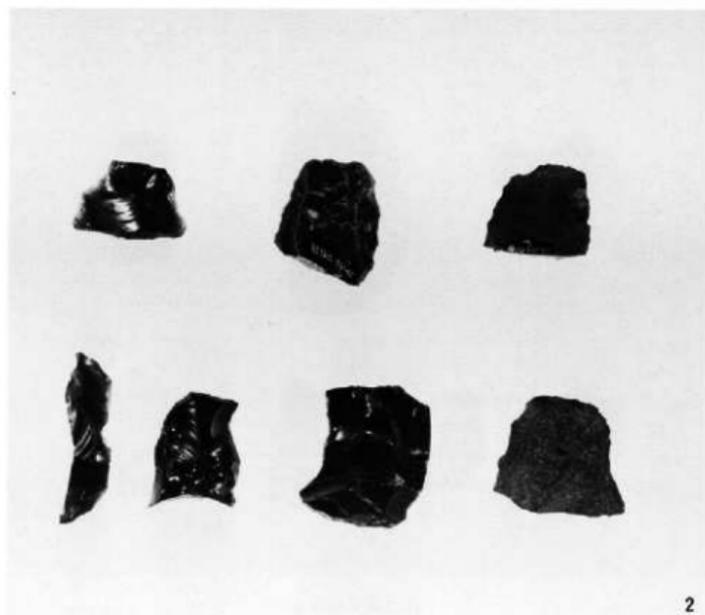


1

2

099 140 159

079 063 150 037



2



1

082 080 079

210 112 094 086

1



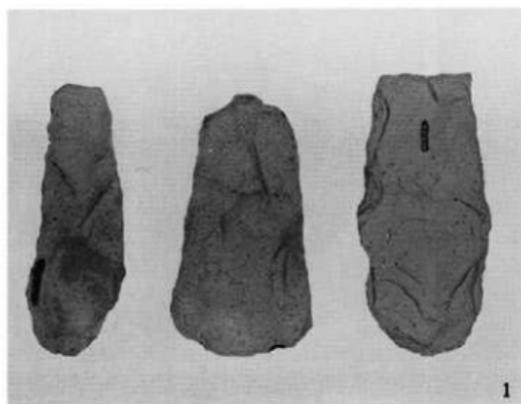
2

151 256 257

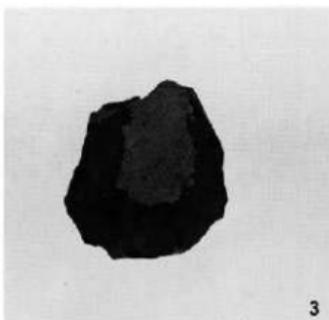
092 100 106 109

2

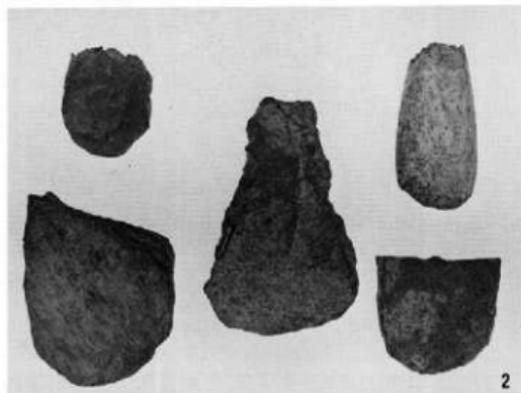
出土繩文石器 4



1



3



2



4

1 151 285 133

3 245

2 034 134

4 002

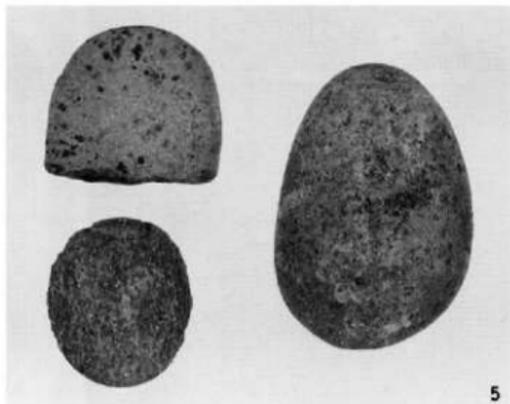
116

045 117

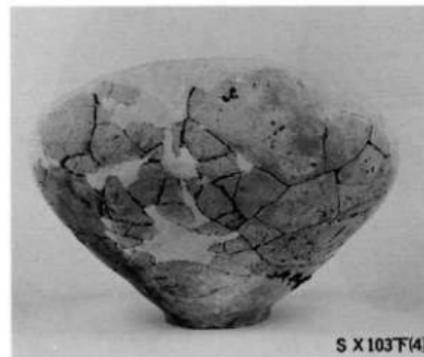
5 009

001

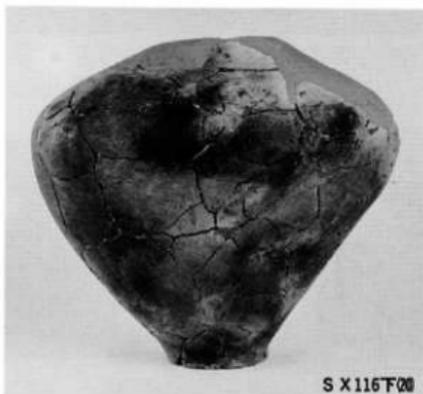
287

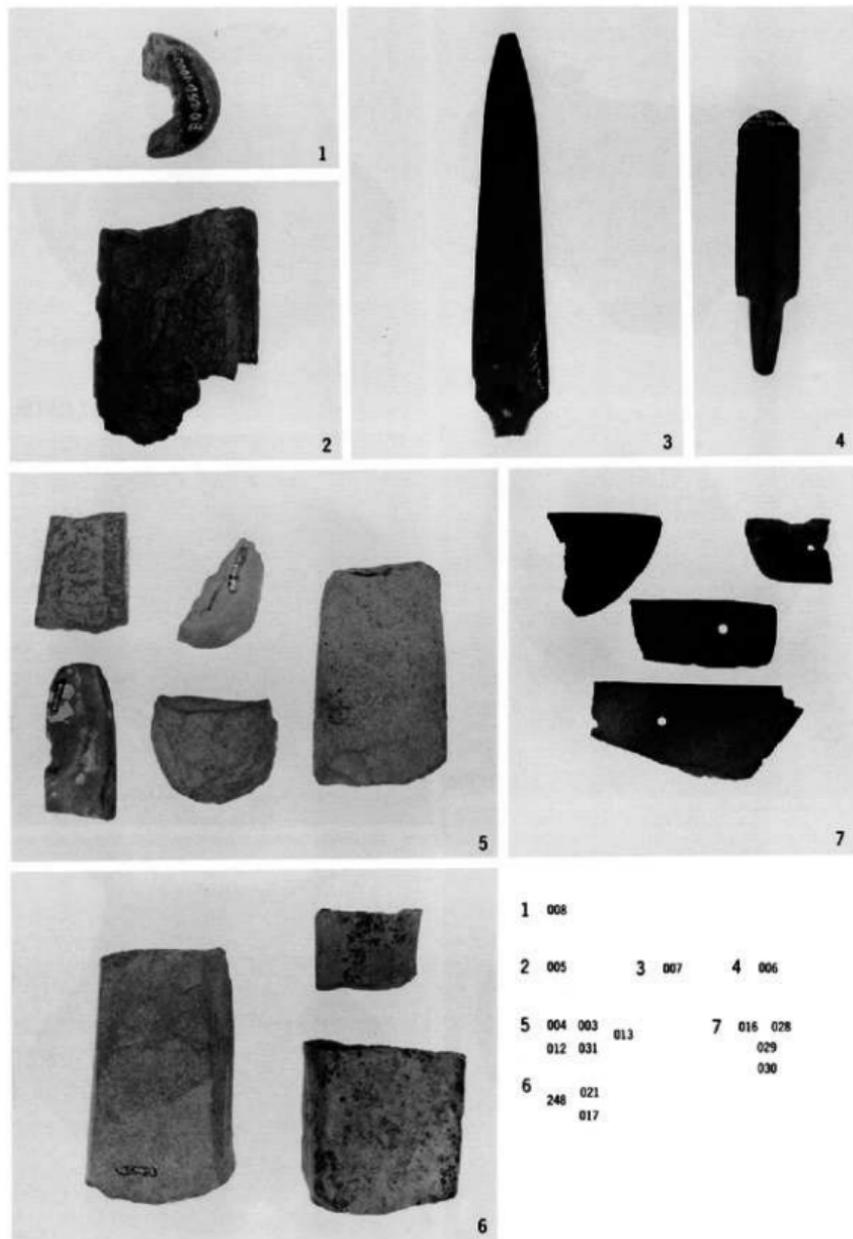


5

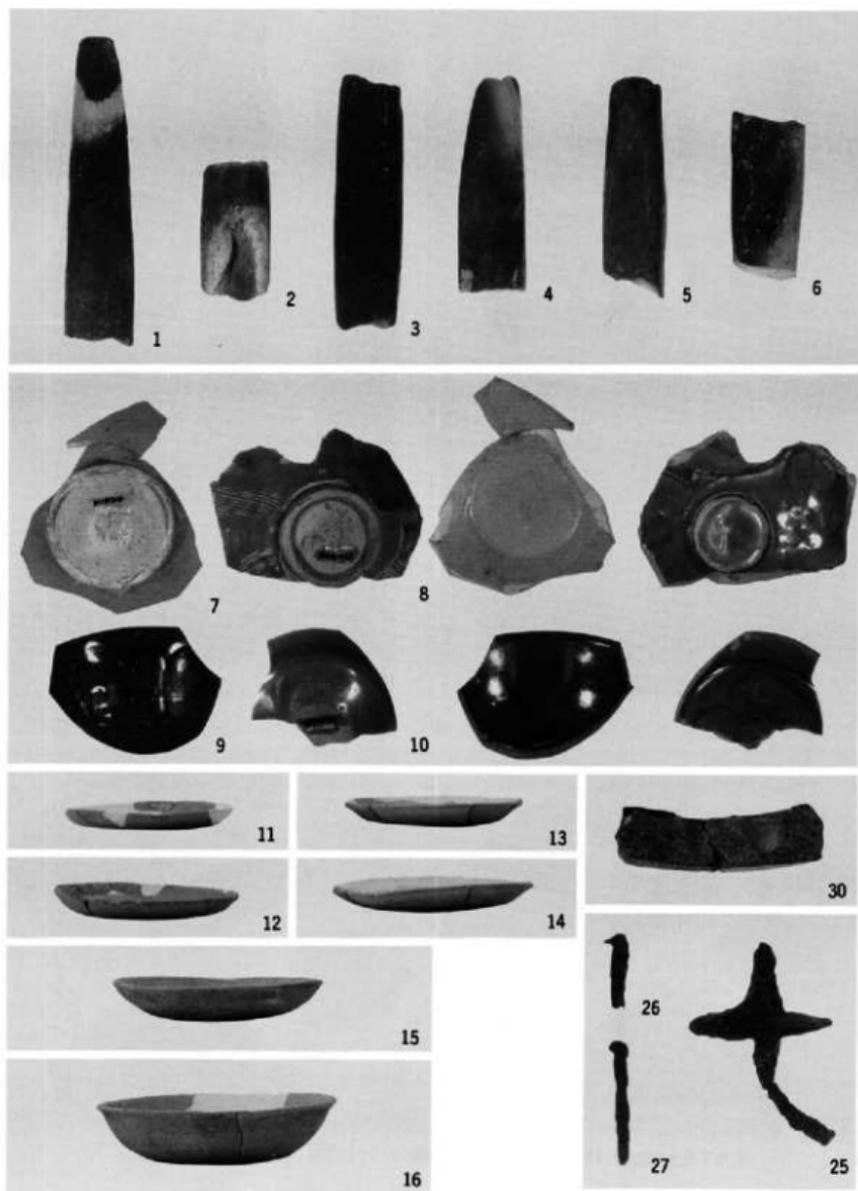


() 内は挿図中の遺物番号



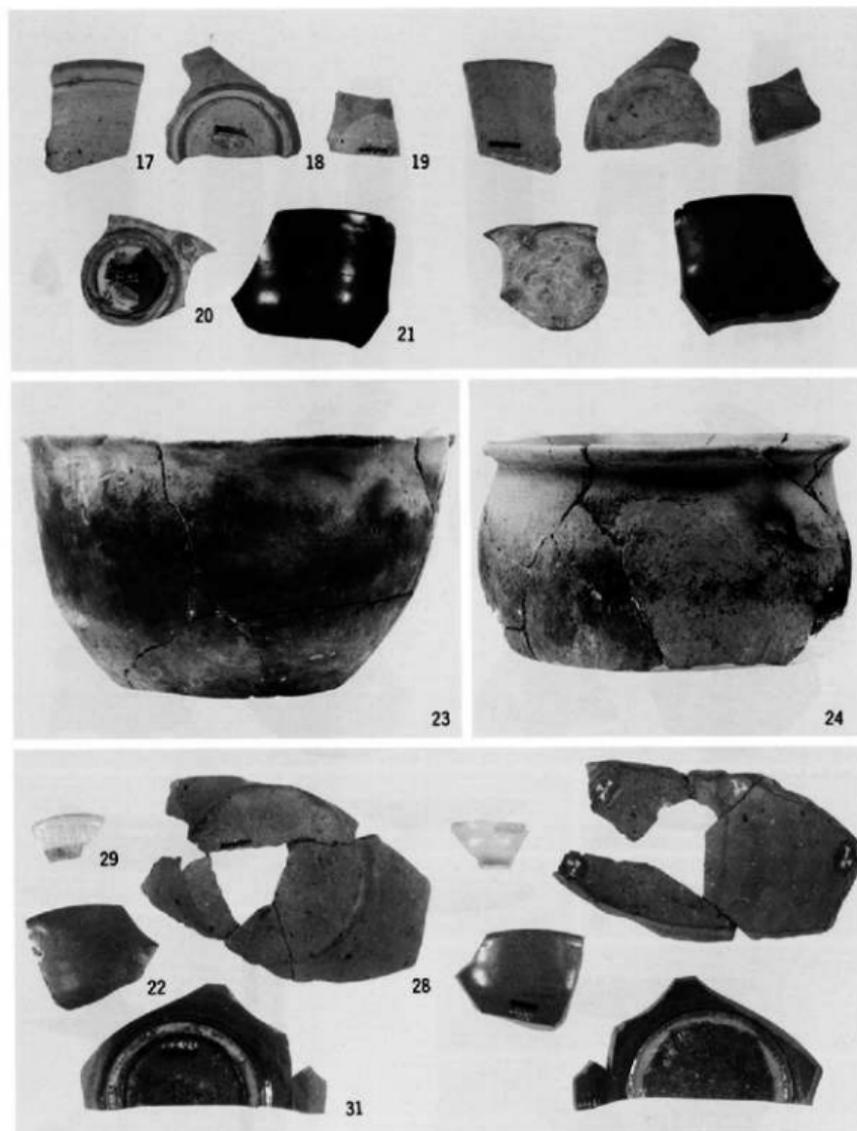


出土弥生石器



SK20 出土遺物 (1~6) SK63 出土陶磁器 (7~10) SD01 出土土器 (11~16)

SD100 出土遺物 (25~27) SX17 出土遺物 (30)



SD21 出土陶磁器(17~22) SD01 出土遺物(23・24・29) 表土出土遺物(28・31)

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第200集

田村遺跡 VI

1989年3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目7-23
印刷 栄光印刷株式会社
福岡市東区松田1丁目9-30
